

- 第二百三條 獨居拘禁ニ付シタル者疾病ニ罹リタルトキハ病監ニ移ス必要アル場合ヲ除外其ノ監房ニ於テ治療セシメ病監ニ移シタルトキハ成ルヘク病監内ノ獨居監房ニ拘禁スヘシ
- 第二百四條 傳染病流行ノ兆アルトキハ其ノ豫防ヲ嚴ニシ流行地ヲ發シ又ハ其ノ地方ヲ經過シタル入監者ハ一週日以上他ノ者ト隔離シ其ノ携帶物ニハ消毒ヲ爲スヘシ
- 第二百五條 傳染病豫防ノ爲必要アリト認ムルトキハ在監者ニ種痘又ハ血清注射ヲ施スコトヲ得
- 第二百六條 傳染病流行ノ際ニハ飲食物ノ差入及購求ヲ停止スルコトヲ得
- 第二百七條 在監者傳染病ニ罹リタルトキハ直ニ之ヲ隔離シ嚴ニ消毒ヲ爲シ其ノ狀況ヲ臺灣總督ニ申報スヘシ
- 前項ノ場合ニ於テハ監獄所在地ノ廳ニ其ノ事實ヲ通報スヘシ
- 第二百八條 監獄法第四十三條ニ依リ在監者ヲ病院ニ移送スヘキトキハ典獄ハ監獄醫員ノ診斷書及移送スヘキ病院トノ協議書ヲ添ヘ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ
- 第二百九條 在監者ヲ病院ニ移送シタルトキハ典獄ハ監獄官吏ヲシテ毎日其ノ狀況ヲ觀察セシムヘシ
- 第二百十條 病院ニ移送シタル者在院ノ必要ナキニ至リタルトキハ典獄ハ速ニ之ヲ還送セシメ臺灣總督ニ其ノ旨ヲ申報スヘシ
- 第二百十一條 治療ノ爲特ニ必要アリト認ムルトキハ典獄ハ監獄醫員ニアラサル醫師ヲシテ治療ヲ補助セシムルコトヲ得
- 分娩ノ際必要アリト認ムルトキハ典獄ハ產婆ヲ付スルコトヲ得
- 第二百十二條 在監者ノ疾病危篤ナルトキハ其ノ旨ヲ本人ノ家族又ハ親族ニ通知シ刑事被告人ナルトキハ仍檢察官ニ通報スヘシ

第九章 接見及信書

- 第二百十三條 十四歳未満ノ者ニハ在監者ト接見ヲ爲スコトヲ許サス
- 第二百十四條 接見ノ時間ハ三十分以内トス但シ辯護人トノ接見ハ此ノ限ニ在ラス
- 第二百十五條 接見ハ執務時間内ニアラサレハ之ヲ許サス
- 第二百十六條 接見ノ度數ハ拘留囚ニ付テハ十日毎ニ一回禁錮囚ニ付テハ一月毎ニ一回懲役囚ニ付テハ二月毎ニ一回トス
- 第二百十七條 典獄ニ於テ已ムコトヲ得サル事情アリト認ムルトキハ前四條ノ制限ニ依ラサルコトヲ得
- 第二百十八條 在監者ニ接見セムコトヲ請フ者アルトキハ其ノ氏名、身分、職業、住所、年齢、在監者トノ續柄及面談ノ要旨ヲ聞取ルヘシ
- 接見ノ許可ヲ與ヘタル者ニハ接見心得事項ヲ告知スヘシ
- 接見者辯護人ナルトキハ其ノ氏名、職業及住所ノミヲ聞取り法院ノ允許ヲ得テ辯護人ト爲リタル者ニハ仍其ノ旨ヲ證明セシムヘシ
- 第二百十九條 接見ハ接見室ニ於テ之ヲ爲サシムヘシ
- 在監者疾病ノ爲接見室ニ行クコト能ハサルトキハ其ノ居所ニ於テ接見セシムルコトヲ得
- 第二百二十條 接見ニハ監獄官吏之ニ立會フヘシ
- 第二百二十一條 外國語ハ典獄ノ許可アルニアラサレハ接見ノ際之ヲ使用スルコトヲ得ス
- 第二百二十二條 接見者面談要旨ニ違ヒタル談話ヲ爲シ又ハ姿貌其ノ他ノ形狀等ヲ以テ相通スルノ形跡アルトキハ之ヲ停止スヘシ
- 第二百二十三條 受刑者ノ發受スル信書ノ數ハ拘留囚ニ付テハ十日毎ニ各一通禁錮囚ニ付テハ一月毎ニ各一通懲役囚ニ付テハ二月毎ニ各一通ヲ超ユルコトヲ得ス

典獄ニ於テ已ムコトヲ得サル事情アリト認ムルトキハ前項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第二百二十四條 在監者ノ發受スル信書ハ典獄之ヲ檢閲スヘシ

發信ハ封緘ヲ爲サシテ之ヲ典獄ニ差出サシメ受信ハ典獄之ヲ開披シ檢印ヲ捺捺スヘシ

第二百二十五條 外國文ヲ用ヒタル信書ハ檢閲ノ爲在監者ノ費用ヲ以テ之ヲ翻譯セシムルコトヲ得

在監者前項ノ費用ヲ負擔スル資力ナク又ハ其ノ負擔ヲ肯セサルトキハ信書ノ發受ヲ許ササルコトヲ得

第二百二十六條 受刑者ノ發送スル信書ハ日曜日、休業日又ハ休憩時ニ於テ之ヲ作成セシムヘシ但

シ急速ヲ要スルモノト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二百二十七條 在監者信書ヲ自書スルコト能ハサルトキハ本人ノ求ニ因リ監獄官吏之ヲ代書スヘシ

第二百二十八條 在監者ノ發送スル信書ノ郵便稅ハ自辨トス

法院其ノ他ノ公務所ニ對シ返信ヲ要スル場合ニ於テ郵便稅ヲ自辨スルコト能ハサルトキハ監獄

ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

書信用紙及封筒ハ監獄ニ於テ之ヲ給與スルコトヲ得

第二百二十九條 在監者ニ交付シタル信書及其ノ他ノ文書ハ必要ニ因リ十日以内本人ノ手ニ留置セ

シムルコトヲ得

第二百三十條 信書ノ發送、交付及廢棄ノ年月日並其ノ要旨ハ之ヲ一定ノ帳簿ニ記載スヘシ

第二百三十一條 第二百三十二條ニ定メタル度數ニ超エタル信書ニシテ發信ニ係ルモノハ直ニ本人ニ

還付シ受信ニ係ルモノハ假リニ身分帳ニ添附シ置キ次ノ期間ニ於テ順次之ヲ本人ニ交付スヘシ

監獄法第四十七條第一項ニ依リ發受ヲ許ササル信書ハ身分帳ニ添附シ置キ廢棄スヘキモノヲ除

ク外釋放ノ際之ヲ本人ニ交付スヘシ

第二百三十二條 接見ノ立會及信書ノ檢閲ノ際行刑上參考ト爲ルヘキ事項ヲ發見シタルトキハ其ノ

要旨ヲ本人ノ身分帳ニ記載スヘシ

第十章 領置

第二百二十三條 領置物ハ其ノ品目及數量ヲ領置金品ノ基帳ニ記載シ領置品基帳ニハ典獄之ニ證印

スヘシ

第二百二十四條 金錢ニアラサル領置物ハ本人ノ請求ニ因リ之ヲ賣却シテ其ノ代金ヲ領置スルコト

ヲ得

領置ヲ爲サス又ハ領置ヲ解キタル物ニ付本人相當ノ處分ヲ爲ササルトキハ請求ナキトキト雖前

項ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第二百二十五條 在監者ニハ新聞紙、時事ノ論說ヲ記載シタル文書及監獄ノ紀律ヲ害スヘキ物ノ差

入ヲ爲スコトヲ得ス

第二百二十六條 受刑者ニハ法令其ノ他典獄ニ於テ有益ト認ムル文書、筆墨紙印紙、郵便切手、郵便端

書、金錢及臺灣總督ニ於テ認可シタル物ヲ除ク外差入ヲ爲スコトヲ得ス但シ自辨ヲ許シタル物

ハ此ノ限ニ在ラス

第二百二十七條 刑事被告人ニハ前條ニ掲ケタル物ノ外衣類、臥具、飲食物、手巾及履物ニ限り差入ヲ

爲スコトヲ得

第二百二十八條 差入ノ衣類、臥具ニ付テハ第八十八條差入ノ飲食物ニ付テハ第九十四條ノ規定ヲ

準用ス

第二百二十九條 在監者ニ差入ヲ爲サムコトヲ請フ者アルトキハ其ノ氏名、身分、職業及住所ヲ調査

スヘシ

第二百四十條 在監者ニ宛テ送致シ來リタル物及差入ヲ爲シタル物ハ監獄監吏立會ノ上看守之ヲ

検査スヘシ

飲食物ノ検査ニハ仍監獄醫員ヲシテ立會ハシムヘシ

第四百一十一條 自辨又ハ差入ヲ許シタル物ハ本人ニ交付セサルトキト雖携有物ノ例ニ依リ領置ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ハ飲食物ニ付テハ之ヲ適用セス

第四百一十二條 没入又ハ廢棄ノ處分ヲ爲シタルトキハ没入廢棄簿ニ品目、數量並處分ヲ爲シタル理由及年月日ヲ記載シ典獄之ニ證明スヘシ

第四百一十三條 死亡者ノ遺留物ノ交付ヲ受クヘキ者遠地ニ在ルトキハ請求ニ因リ遺留物ヲ賣却シテ其ノ代金ヲ送付スルコトヲ得但シ遞送費ハ請求者ノ負擔トス

第十一章 賞罰

第四百一十四條 賞遇ヲ爲スヘキ者ニハ賞表ヲ付與スヘシ

賞表ハ加ヘテ三箇ヲ超ユルコトヲ得ス

第四百一十五條 賞表ハ曲尺長二寸幅一寸ノ白色ノ布ヲ用ヒ上衣ノ左袖肩臂間ノ表面ニ縫著セシムヘシ

第四百一十六條 賞遇ハ左ノ如シ

一 第四百一十六條ニ定メタル接見ノ度數及第二百二十三條ニ定メタル信書發受ノ度數ヲ一回宛増加スルコト

二 第六十七條ニ定メタル作業賞與金計算高ノ割合ヲ賞表一箇毎二十分ノ一宛増加スルコト

三 賞表ヲ有スル者ニハ一週間ニ一箇毎ニ一回宛菜ヲ増給スルコト但シ其ノ代價ハ一回二錢以下トス

第四百一十七條 賞遇ヲ廢止シタル者ニハ賞表ヲ褫奪シ賞遇ヲ停止シタル者ニハ其ノ期間賞表ヲ除

去スヘシ

第四百一十八條 在監者左ノ各號ニ該當スル行爲アルトキハ五十錢以下ノ賞金ヲ給スルコトヲ得

一 在監者ノ逃走セムトスルヲ密告シタルトキ

二 人命ヲ救護シ又ハ在監者ノ逃走セムトスル者ヲ捕拿シタルトキ

三 天災事變又ハ傳染病流行ノ際監獄ノ用務ニ服シ功勞アリタルトキ

第四百一十九條 減食ハ本人ニ給與スル糧食ノ一回ノ分量ヲ二分ノ一乃至三分ノ一ニ減ス

第四百二十條 懲罰ノ言渡ハ典獄之ヲ爲スヘシ

第四百二十一條 懲罰ハ言渡ノ後直ニ之ヲ執行スヘシ

減食又ハ屏禁ニ處シタル者ニ付テハ監獄醫員ヲシテ診斷セシメ其ノ健康ニ害ナシト認メタルトキニアラサレハ懲罰ヲ執行スルコトヲ得ス

第四百二十二條 減食又ハ屏禁ノ執行中ニ在ル者ハ監獄醫員ヲシテ時時其ノ健康ヲ診斷セシムヘシ

第四百二十三條 減食又ハ屏禁ノ執行中ニ在ル者ヲ法院ノ呼出ニ因リ出頭セシムルトキハ當日ニ限リ懲罰ノ執行ヲ停止スヘシ

前項ニ掲ケタル者ヲ移監ノ爲他所ニ護送スルトキハ護送ノ前日、當日及護送中懲罰ノ執行ヲ停止スヘシ

停止ノ日數ハ之ヲ處罰期間ニ算入セス

第四百二十四條 減食又ハ屏禁ニ處シタル者ハ懲罰ノ執行ヲ終リタル後速ニ監獄醫員ヲシテ其ノ健康ヲ診斷セシムヘシ

康ヲ診斷セシムヘシ

第四百二十五條 懲罰ニ處シ其ノ執行ヲ終ラサル者ノ移送ヲ受ケタルトキハ收監後三日以内ニ其ノ懲罰ノ執行ヲ開始スヘシ

第四百二十六條 在監者護送ノ途中ニ於テ紀律ニ違ヒタルトキハ受領シタル監獄ニ於テ之ヲ懲罰ニ

處スルコトヲ得

第二百五十七條 在監者ノ賞罰ニ關スル事項ハ身分帳及懲罰簿ニ之ヲ記載スヘシ

第十二章 釋放

第二百五十八條 刑期ノ終了ニ因リ釋放セラルヘキ受刑者ハ釋放前三日以内獨居拘禁ニ付シ典獄自

ラ釋放後ノ心得ニ付諭告ヲ爲スヘシ

第二百五十九條 刑期ノ終了ニ因リ釋放セラルヘキ受刑者ニ付テハ釋放後ノ保護ニ關スル事項ヲ調

査スヘシ

第六十條 釋放セラルヘキ者ニ付典獄ニ於テ必要アリト認メタルトキハ其ノ性格、行狀及保

護ニ關スル意見ヲ本人居住地ノ廳又ハ本人ノ保護ヲ引受クヘキ者ニ通報スヘシ

第六十一條 釋放セラルヘキ者疾病其ノ他ノ事故ニ因リ歩行ニ差支アル場合ニ於テ相當ノ引取

人ナキトキハ之ヲ監獄所在地ノ廳ニ引渡スヘシ

第六十二條 釋放セラルヘキ者著衣ヲ有セサルトキハ豫メ本人ノ領置金若ハ作業賞與金又ハ其

ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ調達セシメ若調達スルコト能ハサルトキハ監獄ニ於テ之ヲ給與スヘシ

第六十三條 假出獄ヲ許スヘキ者アリト認ムルトキハ典獄ハ判決書及執行指揮書ノ謄本並行狀

録及身上調査書類ヲ添ヘ臺灣總督ニ具申スヘシ

第六十四條 假出獄ヲ許サレタル者ヲ釋放スルトキハ典獄ハ一定ノ式ニ依リ釋放ノ申渡ヲ爲シ

且證據ヲ交付スヘシ

第六十五條 假出獄ニ因リ釋放セラレタル者刑法第二十九條第一號乃至第三號ニ該當スルコト

ヲ知リタルトキハ典獄ハ速ニ意見ヲ具シ其ノ旨ヲ臺灣總督ニ申報スヘシ

第六十六條 第六十三條及第六十四條ノ規定ハ刑法第三十條ニ依ル假出場ノ場合ニ之ヲ準

用ス

第十三章 死亡

第六十七條 在監者死亡シタルトキハ典獄ハ其ノ死體ヲ檢視スヘシ

病死ノ場合ニ於テハ監獄醫員ハ其ノ病名、病歴、死因及死亡ノ年月日時ヲ死亡帳ニ記載シ之ニ署

名スヘシ

自殺其ノ他變死ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ廳ニ通報シテ檢視ヲ受ケ檢視者及立會者ノ官氏名並檢

視ノ結果ヲ死亡帳ニ記載スヘシ

第六十八條 死亡者ノ病名、死因及死亡ノ年月日時ハ速ニ之ヲ死亡者ノ家族又ハ親族ニ通報ス

ヘシ死亡者刑事被告人ナルトキハ仍檢察官ニ通報スヘシ

第六十九條 受刑者ノ死體ハ死亡後二十四時間ヲ經テ交付ヲ請フ者ナキ場合ニ限り解剖ノ爲官

公立ノ病院、學校又ハ其ノ他ノ公務所ニ之ヲ送付スルコトヲ得

死亡後二十四時間ヲ經テ交付ヲ請フ者ナキ場合ト雖其ノ後ニ至リ交付ヲ請フ者アリト思料スヘ

キトキ又ハ本人カ生前ニ於テ解剖ヲ肯セサル意思ヲ表示シタルトキハ前項ノ處分ヲ爲スコトヲ

得ス

第七十條 死體ヲ請求者ニ交付シ又ハ解剖ノ爲送付シタルトキハ其ノ旨ヲ死亡帳ニ記載スヘ

シ

第七十一條 死亡後二十四時間ヲ經テ死體ノ交付ヲ請フ者ナキトキハ第六十九條ノ場合ヲ除

ク外之ヲ監獄ノ墓地ニ假葬スヘシ

火葬ニ付シタル場合ニ於テハ其ノ遺骨ニ付亦同シ

假葬ノ場所ニハ死亡者ノ氏名及死亡ノ年月日ヲ記シタル木標ヲ立ツヘシ

第七十二條 死體又ハ遺骨ヲ合葬シタルトキハ合葬者ノ氏名及死亡ノ年月日ヲ合葬簿ニ記載シ

合葬ノ場所ニ墓標ヲ立ツヘシ

墓標ニハ石ヲ用マヘシ

附則

本令ハ臺灣監獄令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
臺灣監獄則施行細則及明治三十二年二月府令第十號ハ之ヲ廢止ス但シ懲治人ニ關スル規定ハ當分ノ
内仍其ノ效力ヲ有ス

〔參照〕

明治三十三年三月廿二日臺灣總督府令第十號ハ臺灣監獄在監人榮代ノ件ナリ

○臺灣總督府令第四十八號(官報 九月十二日)

左ニ掲グルモノヲ臺灣民事令第一條ニ定メタル附屬法律トス

明治四十一年九月四日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

- 一 民法施行法
- 二 人事訴訟手續法
- 三 非訟事件手續法
- 四 競賣法
- 五 明治三十三年法律第十三號(民法第七十九條及第八十一條ノ規定ニ依ル遺言ノ確認ニ關スル件)
- 六 商法施行條例
- 七 商法施行法
- 八 明治二十三年法律第一百號(有罪破產者處斷方)
- 九 明治三十三年法律第十七號(商法中署名スヘキ場合ニ關スル件)
- 十 保險業法

附則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十一年七月府令第五十四號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治三十一年八月廿二日臺灣總督府令第五十四號ハ民事商事及刑事ニ關スル律令規定ノ附屬法律指定ノ件ナリ

○臺灣總督府令第四十九號(官報 九月十二日)

明治四十一年律令第十二號ニ依リ船舶ノ登記ニ關スル取扱手續ハ明治三十二年六月司法省令第三十五號船舶登記取扱手續ニ依ル但シ同手續中地方裁判所ノ職務ハ覆審法院之ヲ行フ
本令ハ船舶ノ登記ニ關スル律令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十一年九月四日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

○臺灣總督府令第五十號(官報 九月十二日)

船舶登記簿ノ原本、抄本ノ交付船舶登記簿又ハ其ノ附屬書類ノ閱覽若ハ登記證書ノ交付及特別登記簿ニ船舶ニ關スル登記ナキコトノ證明ヲ請求スル者ハ明治三十二年六月司法省令第三十七號船舶登記簿ノ原本抄本等ノ請求ニ關スル規定ニ依リ手数料ヲ納ムヘシ
本令ハ船舶ニ關スル登記取扱手續施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十一年九月四日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

○臺灣總督府令第五十一號(官報 九月十二日)

明治三十七年三月府令第三十八號罰金及答刑處分例施行細則中左ノ通改正ス

明治四十一年九月四日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

第七條中「大祀令節國祭ノ日」ヲ「大祭祀日、一月一日、二月二日、十二月三十一日」ト改ム

附則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔参照〕

臺灣總督府令第三十八號罰金及答刑處分例施行細則(明治三十七年四月十二日官報)抄録
第七條 答刑ハ大祀令節國祭ノ日並日出前日没後ハ之ヲ執行スルコトヲ得ス

○臺灣總督府令第五十二號(官報九月十六日)

臨時海港檢疫施行ノ場合ニ於テ明治四十年八月府令第七十三號臺灣海港檢疫施行規則第十六條ノ費用徵收額ハ實費ヲ斟酌シ臨時海港檢疫所長ヲシテ之ヲ定メシム

明治四十一年九月八日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

○臺灣總督府令第五十三號(官報九月二十四日)

明治三十四年九月府令第五十六號砂糖消費稅法施行細則中左ノ通改正ス

明治四十一年九月十三日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

第一條 砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造セントスル者ハ一製造場毎ニ左ノ事項ヲ所轄廳ニ申告スヘシ

一 製造場ノ位置

二 製糖ノ種類

三 製糖器械ノ種類、壓榨能力、原動力ノ區分

四 製造者ノ住所氏名又ハ名稱

製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

製造場ノ敷地及建物圖面ハ第一項ノ申告書ニ添付シ提出スヘシ

第一條ノ二 砂糖、糖蜜、糖水ノ製造者ハ毎年製糖開始前左ノ事項ヲ所轄廳ニ申告スヘシ

一 製糖ノ開始及終了見込期日

二 製糖區分(青糖、分蜜糖、原料糖、冰糖等)及各製造見込高

三 一日ノ製糖作業時間、製糖能力及一期間作業豫定日數

四 原料ノ種類、斤量及其ノ引取先

五 舊式糖廊ニ於テ使用スル牛ノ頭數及煮沸用釜數

第一條ノ三 前二條ノ申告事項及圖面ニ異動ヲ生シ又ハ製造ヲ休止シ若ハ廢止シタルトキハ其ノ都度所轄廳ニ申告スヘシ製造休止後更ニ著手セントスルトキ亦同シ

第二條 砂糖、糖蜜、糖水ノ製造者同一ノ場所ニ於テ販賣業ヲ兼營セントスルトキハ所轄廳ノ承認ヲ受クヘシ

第三條 砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造場外ニ移出セントスルトキハ其ノ種類、區分、斤量、移出ノ日及移出先ヲ定メ所轄廳ノ承認ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ移出先ヲ以テ製造場ノ一部ト看做ス

第四條 製造場稅關又ハ保稅倉庫ヨリ砂糖、糖蜜、糖水ヲ引取ラントスル者ハ左ノ事項ヲ記シ所轄廳ニ申告スヘシ

一 外國輸出、内地輸送、島内消費、原料使用ノ區別

二 製糖ノ種類、區分、斤量、箇數

三 引取先

製造場ヨリ砂糖、糖蜜、糖水ヲ引取ル場合ニ於テハ前項申告ノ際第二十條ニ依リ收稅官吏ノ交付シタル檢査濟證ヲ提出スヘシ

第六條 第四條ノ申告アリタルトキハ廳ハ其ノ種類及斤量ヲ査定スヘシ

第七條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ擔保額ハ所轄廳之ヲ指定スヘシ

第七條ノ二 擔保ヲ提供セントスル者ハ左ノ事項ヲ記シタル擔保提供書ヲ所轄廳ニ提出スハ

- 一 擔保スヘキ稅金額又ハ稅金相當金額
- 二 引取ルヘキ砂糖、糖蜜、糖水ノ種類及斤量
- 三 擔保物ノ種類、數量、價格
- 四 期間
- 五 擔保提供者ノ住所氏名又ハ名稱
- 六 前各號ノ外必要ナル事項

第十一條第二項中、砂糖、糖蜜、糖水ノ納稅濟、擔保提供濟又ハ無擔保引取承認濟ナルコトヲ認メラ

第十二條 砂糖、糖蜜、糖水ヲ本島外へ搬出セントスル者ハ引取申告ノ際左ノ事項ヲ記シ所轄廳ニ

申出搬出證明書ノ下付ヲ受ケ運搬ノ際之ヲ現品ニ添付スヘシ

- 一 搬出先
 - 二 搬出港稅關
 - 三 搬出スヘキ期限
- 搬出期限内ニ搬出ヲ終ラサルトキハ更ニ搬出證明書ノ書替ヲ受クルニアラサレハ其ノ效ヲ失スルモノトス

第十三條 搬出證明書ハ外國輸出又ハ内地輸送ノ際之ヲ稅關ニ提出スヘシ

第十九條ノ二 第六條ニ依リ査定濟ノ砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造場内ニ藏置スルトキハ査定未濟ノモノト區別シ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ

第二十條 收稅官吏ハ隨時砂糖、糖蜜、糖水ノ製造場又ハ販賣場ニ就キ砂糖、糖蜜、糖水其ノ原料品製造用器具、器械又ハ帳簿書類ヲ検査スヘシ

收稅官吏砂糖、糖蜜、糖水ノ検査ヲ爲シタルトキハ検査濟證ヲ交付スヘシ但シ検査濟證ハ製造者ノ請求アルトキハ數箇ニ分割シテ交付スルコトヲ得

検査濟ノ砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造場内ニ藏置スルトキハ検査未濟ノモノト區別シ收稅官吏ノ承認ヲ受クルニアラサレハ其ノ位置ヲ變更スルコトヲ得ス

第二十條ノ二 收稅官吏ハ必要ト認ムルトキハ砂糖、糖蜜、糖水其ノ貯藏場又ハ製造用器具、器械ニ封緘其ノ他監督上必要ナル方法ヲ施スコトヲ得

第二十一條 砂糖製造者ハ其ノ製造濟ニ係ル砂糖ニ一定ノ包裝ヲ施スヘシ包裝ノ制限ハ所轄廳長之ヲ定ム

第二十二條及第二十三條中「量目」ヲ斤量ト改ム

第二十六條 第一條ノ二及第一條ノ三ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタル者又ハ第二條第十二條第十九條ノ二第二十條第三項第二十一條及第二十五條ニ違反シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 引取承認書、搬出證明書、擔保領收書及検査濟證ハ別記書式ニ依ル

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行以前ニ交付シタル砂糖、糖蜜、糖水納稅濟證明書又ハ擔保濟證明書ハ明治四十一年十月三十一日限書替ヲ受クルニアラサレハ其ノ效力ヲ失フ
 引取承認書(用紙適宜 縦五寸五分)

符原書認承取引

第 種	種 類	號 第	番 號	引取區分
			日 付 印	
分 蜜 糖 (何々)	區 分	何	朱印 何 何 何 何 年 年 年 年 月 月 月 月 日 日 日 日	何 何 何 何 何 何
			何 何 何 何 何 何	
何	斤	何	(何ハ又)費消内島	何 某
			朱印 何 何 何 何 何 何	
何	斤	何	何 何 何 何 何 何	何 某
			何 何 何 何 何 何	

朱印
 者印
 取扱

砂糖蜜糖水引取承認書

第 號	種 類	號 第	番 號	引取區分
			日 付 印	
分 蜜 糖 (何々)	區 分	何	朱印 何 何 何 何 年 年 年 年 月 月 月 月 日 日 日 日	何 何 何 何 何 何
			何 何 何 何 何 何	
何	斤	何	(何ハ又)費消内島	何 某
			朱印 何 何 何 何 何 何	
何	斤	何	何 何 何 何 何 何	何 某
			何 何 何 何 何 何	

右納稅濟(擔保提供濟)(無擔保引取承認濟)ナルヲ證ス

(用紙適宜 縦六寸 横四寸)

第 號	引 取 人	何 何 何 何 何 何
住 所 氏 名	何 何 何 何 何 何	何 某

砂糖蜜糖水搬出證明書

第一種	種類	第一種
	分區	分蜜糖(何々ハ)
一萬五千斤	量	一萬五千斤
	筒數	一百五十筒
納稅	納稅	納稅
	及取	及取
先出搬	內地(外國)	內地(外國)
	關稅出搬	安平(打狗)
限期出搬	明治何年	明治何年
	何月何日限	何月何日限

備考 搬出期限中砂糖蜜糖水ノ幾分ヲ分割シテ輸出又ハ輸送スル場合ニ於テハ搬出證明書ノ裏面ニ稅關ノ裏書ヲ受クヘシ

裏書

稅關日付印	取撥者印	種類區分	斤量	筒數	輸出(輸送ノ別)
何年何月何日	朱印	第一種分蜜糖(何々)	10000	100	輸送(輸出)

證明

擔保領收證明(用紙及寸法適宜)

第何號	擔保提供者	何堡何街(庄)
住所氏名	何	某
一金何圓也		
但砂糖消費稅法第何條第何項ニ依リ提出ノ分		
明治何年何月何日領收		

朱印

擔保領收證

乙(用紙及寸法適宜)

第何號	擔保提供者 住所氏名	何堡何街(庄) 何某
一金何圓也		
但砂糖消費稅法第何條第何項ニ依リ提出ノ分		
右領收候也		
明治何年何月何日	何廳送入該出外現金出納官吏	官氏名
		朱印
第何號	擔保提供者 住所氏名	何堡何街(庄) 何某
一何何公債證書額面何圓也		
何圓券何第何番ヨリ何番 マテ何枚(以下之ニ同シ)		
(金額拂込未済ノモノハ此處ニ拂込額記入ヲ要ス)(以下同シ)		
但何年何月又ハ何期渡以降利札付(以下之ニ同シ)		

又ハ

一何銀行又ハ何會社株券額面何圓也

擔保提供ノ原因 砂糖消費稅法第四條第一項但書(又ハ第五條第一項)

明治 年 月 日領收

朱印

朱印

擔保領收證

第何號	擔保提供者 住所氏名	何堡何街(庄) 何某
一何何公債證書額面何圓也		
何圓券何第何番ヨリ何番 マテ何枚(以下之ニ同シ)		
(金額拂込未済ノモノハ此處ニ拂込額記入ヲ要ス)(以下同シ)		
但何年何月又ハ何期渡以降利札付(以下之ニ同シ)		
又ハ		
一何銀行又ハ何會社株券額面何圓也		
擔保提供ノ原因 砂糖消費稅法第四條第一項但書(又ハ第五條第一項)		
右領收候也		
明治 年 月 日	何廳	官氏名
		朱印

(四十一年期)

(用紙適宜 縦四寸五分)

砂糖檢査濟證

製造場及製造者氏名	何堡何庄土名何々何番戶	何	某
種類區分	斤	量	箇數
第何種(青糖(又ハ)何々)	何	斤	何箇
製造期	自何月何日	檢査月日及	何月何日
製造間	至何月何日	檢査官吏認印	何月何日
何枚ノ内 其(一)(二)		余印	

〔參照〕

- 臺灣總督府令第五十六號砂糖消費稅法施行細則(明治三十四年十月一日官報)抄錄
- 第一條 砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造セントスル者ハ一製造場毎ニ製造場及製造スヘキモノノ種類ヲ定メ其住所氏名ヲ記シ所轄廳ニ申告スヘシ
- 前項ニ依リ申告シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度所轄廳ニ申告スヘシ
- 第二條 砂糖、糖蜜、糖水製造者其ノ製造ヲ廢止セントスルトキハ其ノ旨所轄廳ニ申告スヘシ
- 第三條 砂糖、糖蜜、糖水製造者砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造場外ニ移出セントスルトキハ其ノ種類、量目及移出先ニ付收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ
- 第四條 製造場稅關又ハ保税倉庫ヨリ砂糖、糖蜜、糖水ヲ引取ラントスル者ハ外國へ移出ノ目的ヲ以テスルモノト否トニ區

臺灣總督府令第五十四號(官報九月二十八日)

臺灣假出獄取締細則左ノ通相定ム

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

- 別シ砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、斤量及取引先ヲ所轄廳ニ申告スヘシ
- 第六條 第四條ノ申告アリタルトキハ廳ハ砂糖消費稅法第三條ノ種別及斤數ニ依リ其ノ直チニ消費稅ヲ徵收スヘキモノハ之カ徵收ノ手續ヲ爲シ其ノ擔保ヲ提供ヲ要スルモノハ提供スヘキ擔保額ヲ指定スヘシ
- 第七條 砂糖消費稅法第四條第五條及第十一條ノ一第二項ニ依リ提供スヘキ擔保物ノ種類ハ金銀及左ニ列記スル有價證券ニ限ル

- 一 利付國債證券及地方債券
- 二 政府ノ保護又ハ特別監視ヲ受クル株式會社ノ株券又ハ債券
- 第十一條 砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造場ヨリ引取ラントスル者ハ其ノ引取ノ際前條ノ引取承認書ヲ製造者ニ交付スヘシ
- 製造者ハ前項引取承認書ヲ交付ヲ受ケ砂糖、糖蜜、糖水ノ納稅擔保提供濟又ハ無擔保引取承認書タル後ニアラサレハ現品ノ引渡ヲ爲スコトヲ得ス
- 第十二條 砂糖消費稅法第四條第五條及第十一條ノ一第二項ニ依リ納稅者クハ擔保ヲ提供シタル砂糖、糖蜜、糖水ヲ本島外へ搬出セントスルトキハ所轄廳ニ申出納稅證明書又ハ擔保證明書ノ下付ヲ受ケ運搬ノ際之ヲ現品ニ添付スヘシ
- 第十三條 前條ノ納稅證明書又ハ擔保證明書ハ砂糖、糖蜜、糖水ヲ外國ニ輸出シ若クハ内地へ輸送ノ際之ヲ稅關ニ提出スヘシ
- 第二十二條 砂糖、糖蜜、糖水製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ
- 一 原料ノ種類量目他ヨリ引取リタルモノニ在テハ引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所氏名
- 二 使用シタル原料ノ種類量目及其使用ノ日
- 三 製造シタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、量目及其ノ製造ノ日
- 四 他ニ引渡シタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、量目、價格、引渡ノ日及其ノ引取人ノ住所氏名
- 第二十三條 砂糖、糖蜜、糖水ノ販賣スル者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ
- 一 引取リタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、量目、價格、引取ノ日及其引渡人ノ住所氏名
- 二 販賣シタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、量目、價格、販賣ノ日及其買受人ノ住所氏名
- 小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號買受人ノ住所氏名ハ記載ヲ要セス
- 第二十四條 收稅官吏ハ砂糖、糖蜜、糖水製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス
- 第二十五條 第二十五條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十七條 引取承認書、納稅證明書、擔保證明書及擔保領收証ハ別記書式ニ依ル (略式)

臺灣假出獄取締規則

- 第一條 假出獄ヲ許サレタル者ハ住居ノ地ヲ管轄スル廳 支廳ノ監督ヲ受ク
- 第二條 假出獄ヲ許サレタル者ヲ釋放スルトキハ監獄ハ住居ノ地ニ到着スヘキ日ヲ定メ之ヲ證票ニ記載スヘシ
假出獄ヲ許サレタル者ハ前項ニ依リ證票ニ記載セラレタル日ニ監督廳 支廳ニ出頭シ證票ニ認印ヲ受クヘシ
- 第三條 假出獄ヲ許サレタル者天災、疾病其ノ他ノ事故ニ因リ前條ノ規定ニ從フコト能ハサルトキ又ハ其ノ眞アルトキハ遲滞ナク其ノ事由ヲ廳 支廳ニ申出テ證明ヲ受クヘシ
- 第四條 假出獄ヲ許サレタル者アルトキハ監獄長ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル法院ノ檢察官及監督廳 支廳ニ通報スヘシ
- 前項ノ通報ヲ受ケタル檢察官、監督廳、支廳ハ假出獄者名簿ヲ調製シ其ノ者ノ假出獄中ニ於ケル一切ノ關係事項ヲ記入スヘシ
- 第五條 假出獄ヲ許サレタル者二日以上十日未滿ノ旅行ヲ爲サムトスルトキハ監督廳、支廳ニ其ノ事由、行先地及旅行日數ヲ届出ヘシ
- 第六條 假出獄ヲ許サレタル者住居ヲ轉移シ又ハ十日以上ノ旅行ヲ爲サムトスルトキハ其ノ事由、行先地及旅行日數ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ監督廳 支廳ノ許可ヲ請フヘシ
旅行ヲ許可シタルトキハ監督廳 支廳ハ旅券ヲ交付スヘシ此ノ場合ニハ第二條及第三條ノ規定ヲ準用ス
- 第七條 住居ノ轉移ヲ許可シタルトキハ監督廳 支廳ハ其ノ旨ヲ第四條ノ監獄長、檢察官並轉移地ヲ管轄スル廳 支廳ニ通報スヘシ
- 前項ノ場合ニハ關係書類ヲ新監督廳 支廳ニ送致スヘシ

- 第八條 假出獄ヲ許サレタル者帝國外ニ旅行ヲ爲サムトスルトキハ監督廳 支廳及證票ヲ交付シタル監獄ヲ經由シテ臺灣總督ノ許可ヲ請フヘシ
監督廳、支廳及監獄ハ事實ヲ調査シ意見ヲ付スヘシ
- 第六條ノ規定ハ旅行ヲ許可セラレタル場合ニ之ヲ準用ス
- 第九條 帝國外ノ旅行ヲ許可セラレタル者アルトキハ監督廳 支廳ハ其ノ旨ヲ第四條ノ檢察官ニ通報スヘシ
- 第十條 旅行ヲ許サレタル者住居ノ地ニ歸著シタルトキハ遲滞ナク監督廳、支廳ニ出頭シ旅券ヲ還納スヘシ
- 第十一條 假出獄ヲ許サレタル者ハ遲滞ナク監督廳 支廳ニ職業其ノ他生計ニ關スル見込ヲ立テ之ヲ届出ヘシ若シ保護引受人アルトキハ之ニ連署スヘシ
- 第十二條 假出獄ヲ許サレタル者ハ毎月一回監督廳 支廳ニ出頭シテ前條ノ事項ニ付其ノ結果ヲ申述スヘシ
旅行ヲ許可セラレタル者同一ノ場所ニ一月以上滞在スルトキハ滞在地ヲ管轄スル廳 支廳ニ出頭シテ前項ノ申述ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ廳 支廳ハ監督廳、支廳ニ申述ノ要旨ヲ通報スヘシ
- 第十三條 監督廳、支廳ハ假出獄ヲ許サレタル者ヲシテ正業ニ就キ善行ヲ保マシムル爲必要ナル訓示ヲ爲シ又ハ之カ爲必要ナル行爲ヲ命スルコトヲ得
- 第十四條 監督廳、支廳ハ六月毎ニ假出獄ヲ許サレタル者ノ行狀ノ良否、職業ノ種別及勉否、生活ノ狀況、親族トノ關係其ノ他ノ事項ニ付調査書ヲ作り之ヲ證票ヲ交付シタル監獄ニ通報スヘシ
- 第十五條 假出獄ヲ許サレタル者ノ監督ハ證票ヲ交付シタル監獄長ノ意見ヲ聽キ街庄長、出獄人保護事業ニ從事スル者其ノ他適當ナル者ニ委任スルコトヲ得

前項ニ依リ委任ヲ受ケタル者ハ毎月末日第十四條ニ掲ケタル事項ヲ監督廳、支廳ニ通報スヘシ
第十六條 檢察官及廳、支廳ハ假出獄ヲ許サレタル者刑法第二十九條第一項ニ該ルコトヲ知リタルトキハ意見ヲ具シ臺灣總督ニ申報スヘシ

第十七條 臺灣總督ニ於テ假出獄ノ處分ヲ取消シタルトキハ假出獄ヲ許サレタル者ノ所在地又ハ住居ノ地ヲ管轄スル法院ノ檢察官又ハ其ノ在監スル監獄ニ通報シテ其ノ執行ヲ爲サシム

第十八條 假出獄ノ處分ヲ取消サレタル者在監者ニアラサルトキハ檢察官ハ刑事訴訟法第三百二十九條第三項ニ依リ逮捕狀ヲ發スヘシ

第十九條 第十七條ノ執行ヲ爲シタル檢察官又ハ監獄ハ其ノ旨ヲ第四條ノ檢察官、監督廳、支廳及證票ヲ交付シタル監獄ニ通報スヘシ

第二十條 假出獄ヲ許サレタル者死亡シタルトキハ監督廳、支廳ハ之ヲ第四條ノ檢察官及證票ヲ交付シタル監獄ニ通報スヘシ

第二十一條 帝國内ト雖木島外ノ住居轉移及旅行ニ關シテハ當分ノ内第八條乃至第十條ノ規定ヲ準用ス

附則
本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ假出獄中ノ者ニモ仍本令ヲ適用ス

○臺灣總督府令第五十五號(官報 九月二十八日)

明治四十一年五月府令第三十七號臺灣總督府雇員備員死歿傷痍疾病手當規則施行細則第五條中「基隆

築港局」ヲ「臨時臺灣工務部」ニ改ム
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

〔參照〕

臺灣總督府令第三十七號臺灣總督府雇員備員死歿傷痍疾病手當規則施行細則(明治四十年六月七日官報)抄錄
第五條 鐵道部、專賣局、基隆築港局及廳ニ於テ前二條ノ願書ヲ受ケタルトキハ直ニ施行スヘシ但シ第一條第一項但書ノ場

合ニ於テハ事由ヲ具シ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ
前項以外ノ官衙長ニ於テ前二條ノ願書ヲ受ケタルトキハ事實ヲ審査シ意見ヲ附シテ臺灣總督ニ進達スヘシ

○臺灣總督府令第五十六號(官報 九月二十八日)
明治四十一年十二月府令第十六號官役職工人夫扶助令施行細則第四條中「基隆築港局長」電氣作業所長ヲ削リ專賣局長ノ次ニ「臨時臺灣工務部長」ヲ加フ

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

〔參照〕

臺灣總督府令第十六號官役職工人夫扶助令施行細則(明治四十一年一月七日官報)抄錄
第四條 鐵道部長、專賣局長、基隆築港局長、糖務局長、電氣作業所長及廳長ニ於テ前二條ノ願書ヲ受ケタルトキハ直ニ施行ス

ヘシ但シ第一條但書ノ場合ノ出願ニ係ルモノハ事由ヲ具シ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ
○臺灣總督府令第五十七號(官報 九月二十八日)
臺灣總督府種畜貸下規則左ノ通相定ム

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

明治四十一年九月十九日
臺灣總督府種畜貸下規則

第一條 本令ニ於テ種畜ト稱スルハ種牡牝牛及種牡牝豚ヲ謂フ

第二條 種畜ノ改良蕃殖ヲ計ル爲臺灣總督ハ必要ト認ムル地方ヲ指定シ左ニ掲クル者ニ無償ニテ種畜ノ貸下ヲ爲スコトアルヘシ

- 一 農會又ハ種畜ノ改良蕃殖ヲ目的トスル團體
- 二 畜産業ニ關シ經驗アル者

第三條 種畜ノ貸下ヲ受ケムトスル者ハ別記第一號様式ニ依リ許可申請書ヲ臺灣總督ニ差出スヘシ

貸下ノ許可ヲ得タル者ハ別記第二號様式ニ依リ借用證ヲ差出シ種畜ヲ受領スヘシ
前項種畜ノ受授ハ臺灣總督府農事試驗場ニ於テ之ヲ爲ス但シ必要ノ場合ニ於テハ同場以外ニ於テ之ヲ爲スコトアルヘシ種畜返納ノ場合亦同シ

第四條 借用人貸下種畜ノ飼養地ヲ定メ又ハ管理人ヲ置キタルトキハ其ノ都度廳長ニ報告スヘシ
飼養地ヲ變更シ又ハ管理人ヲ解任シタルトキ亦同シ

前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ廳長ハ遲滞ナク之ヲ臺灣總督ニ報告スヘシ

第五條 貸下種畜ヨリ生スル果實ハ借用人ノ所得トス

第六條 貸下種畜ノ斃死撲殺失踪ノ場合又ハ疾病ニ罹リ使用ニ堪ヘサルニ至リタルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ遲滞ナク臺灣總督ニ届出ヘシ但シ斃死又ハ撲殺ノ場合ニ於テハ獸醫ノ診斷書ヲ添付スルヲ要ス

第七條 貸下種畜ニシテ疾病ニ罹リタルトキハ借用人ハ遲滞ナク之ニ治療ヲ加ヘ其ノ狀況ヲ臺灣總督ニ届出ヘシ

第八條 借用人ハ別記第三號乃至第七號様式ニ依リ貸下種畜ノ前年ニ於ケル蕃殖狀況産仔ノ生育狀況及改良ノ成績等ヲ毎年一月中ニ臺灣總督ニ報告スヘシ

第九條 種畜ノ貸下期間ハ種牛ハ滿十箇年種豚ハ滿五箇年トス但シ時宜ニ依リ其ノ期間ヲ紳縮スルコトアルヘシ

ルコトアルヘシ

第十條 種畜ノ貸下返納ニ要スル費用ハ借用人ノ負擔トス

第十一條 臺灣總督又ハ廳長ハ隨時官吏ヲシテ貸下種畜及其ノ産仔ノ狀況ヲ臨檢セシムルコトアルヘシ

借用人ハ前項ノ臨檢ヲ拒ムコトヲ得ス

第十二條 廳長ハ貸下種畜其ノ産仔及其ノ管理飼養ニ關シ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

前項ノ命令ヲ發シタルトキ又ハ借用人カ前項ノ命令ニ違反シタルトキハ廳長ハ遲滞ナク之ヲ臺灣總督ニ報告スヘシ

第十三條 借用人カ本令ノ規定又ハ前條ニ依リ若ハ臺灣總督ノ特ニ發シタル命令ニ違反シタルトキハ臺灣總督ハ借用人ニ對シ貸下種畜ノ返納ヲ命スルコトアルヘシ

第十四條 借用人カ故意又ハ怠慢ニ因リ貸下種畜ニ損害ヲ與ヘタルトキハ其ノ評定價格ノ全部又ハ一部ヲ賠償セシムルコトアルヘシ

第十五條 種畜ノ貸下ヲ受ケムトスル者又ハ種畜ノ借用人カ臺灣總督ニ差出スヘキ書面ハ指定地方ノ廳長ヲ經由スヘシ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ從來貸下ケタル種畜ニ之ヲ準用ス

(別記)

第一號様式

種畜貸下許可申請書

一種牛

牝(牡)何頭

一種豚
右改良畜種ノ用ニ供シ度ニ付貸下御認可相成度此段申請候也
年 月 日

住所

氏名(團體ニ在テハ其ノ代表者)印

第二號樣式

種畜借用證

臺灣總督宛

牝(牡)何頭
牝(牡)何頭

一種牛
一種豚
但シ明細表ノ通
右改良畜種ノ爲借用候ニ就テハ種畜貸下規則其ノ他御命令ヲ遵守可致萬一違反致候トキハ何時返納ヲ命セラレ候モ異議無之御指定ノ期日及場所ニ系付返納可仕候也
年 月 日

住所

借用人 氏名(團體ニ在テハ其ノ代表者)印

第三號樣式

借用種牝牛蕃殖狀況表

(明治何年分)

借用種牝牛ノ種類名號	借用年月日	種付頭數	牝	生	牝	計

摘要

備考
一 種付狀況其ノ他種牝牛ニ關シ必要ナル事項ハ之ヲ摘要欄ニ記載スヘシ

第四號樣式

借用種牝牛何種何號ノ種付ニ依リ生産シタル牝ノ生育狀況表(明治何年分)

種類名號	牝ノ區別	毛色	生年月日	種牝牛ノ種類名號	產地	體格ノ良否

摘要

備考

- 一 本表ハ種牝牛一頭毎ニ之ヲ作成スヘシ
- 二 産牛改良ノ成就ハ摘要欄ニ之ヲ記載スヘシ
- 三 借受種牝牛ニ種付シテ生産シタルモノニ在テハ各相當欄ニ之ヲ朱書スヘシ

第五號樣式

借用種牝牛ノ蕃殖狀況表

(明治何年分)

借用種牝牛ノ種類名號	借用年月日	種付頭數	種牝牛ノ種類名號	牝ノ區別	毛色	生年月日	產地	體格ノ良否

摘要

備考

- 一 種付狀況其ノ他種牝牛ニ關シ必要ナル事項ハ摘要欄ニ之ヲ記載スヘシ
- 二 官有以外ノ種牝牛ノ種付ニ因リ生産シタルモノニ在テハ各相當欄ニ之ヲ朱書スヘシ

右及報告候也

三種付又ハ生産ニ關スル事項ナキトキハ各相當欄ニ斜線ヲ引キ摘要欄ニ其ノ旨記載スヘシ

住所

借用人 氏名 (團體ニ在テハ其ノ代表者) 印

第六號様式

臺灣總督宛

借用種牡豚蕃殖狀況表

(明治何年分)

借用種牡豚ノ種類名號	借用年月日	種付頭數	牝		計	
			生	産	生	産
摘要						

備考

- 一 種付狀況(仔豚生育ノ狀況及改良ノ成績其ノ他種牡豚ニ關シ必要ナル事項ハ摘要欄ニ之ヲ記載スヘシ)
- 二 種付又ハ生産ニ關スル事項ナキトキハ各相當欄ニ斜線ヲ引キ摘要欄ニ其ノ旨記載スヘシ

第七號様式

借用牝豚蕃殖狀況表

(明治何年分)

借用種牝豚ノ種類名號	借用年月日	種付シタル種牡豚ノ種類名號	牝		計	
			生	産	生	産
摘要						

備考

- 一 種付狀況(仔豚生育ノ狀況及改良ノ成績其ノ他種牝豚ニ關シ必要ナル事項ハ摘要欄ニ之ヲ記載スヘシ)
- 二 官有以外ノ種牝豚ニ種付シテ生産シタルモノニ在テハ各相當欄ニ之ヲ記載スヘシ

右及報告候也

三種付又ハ生産ニ關スル事項ナキトキハ各相當欄ニ斜線ヲ引キ摘要欄ニ其ノ旨記載スヘシ

住所

借用人 氏名 (團體ニ在テハ其ノ代表者) 印

年月日

臺灣總督宛

○關東都督府令第四十五號(官報九月十一日)

關東州造林獎勵規則左ノ通相定ム

明治四十一年八月八日

關東都督 子爵大島義昌

關東州造林獎勵規則

第一條 造林ノ爲官有地ヲ使用セムトスル者ニシテ關東都督ノ適當ト認ムル者ニハ無償ニテ其ノ土地ヲ貸付ス

村又ハ會ニ於テ造林ノ爲官有地ヲ使用セムトスルトキ亦前項ニ同シ

第二條 造林ヲ爲サムトスル者ニシテ關東都督ノ適當ト認ムル者ニハ無償ニテ種苗ヲ下付ス

第三條 土地ノ貸付ヲ受ケムトスル者ハ別記第一號書式ニ依リ、種苗ノ下付ヲ受ケムトスル者ハ

毎年九月末日迄ニ別記第二號書式ニ依リ願書ヲ所轄民政署長ヲ經テ關東都督ニ差出スヘシ

第四條 造林地ハ免租地トス

第五條 關東都督ハ官有地ノ貸付ヲ受ケタル者ニ貸付條件ヲ記載シタル貸付地證書ヲ交付スヘシ

種苗ヲ無償下付スル場合ニ於テハ條件ヲ附スルコトアルヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別記)

第一號書式

造林ノ爲官有地無償貸付願

何會何村字何何
 一官有地面積
 願地ノ境界 東ハ何溪ヲ以テ界ス南ハ何西ハ山頂ヲ以テ界ス北ハ何
 右造林ノ爲無償ニテ御貸付被成度別紙見取圖竝起業方法書添付關東州造林獎勵規則ニ依リ此段相願候也
 年 月 日 住 所 某
 (又ハ) 住 所 某
 何會(村)總代 住 所 某

關東都督宛

起業方法書

何會何村字何何

一官有地面積

内 露

造林面積

道路、防火線

其ノ他ノ除地面積

一植栽方法、種苗ノ種類及數量

一出資又ハ管理ノ方法

水項ハ會又ハ村ニ於テ造林スル場合ニ限リ出資ニ關シテハ金錢若ハ勞力供給ノ方法管理ニ關シテハ造林地保固ノ要項ヲ記

載スヘシ

一事業配當程度

初年(明治何年)

面積

何種苗 何本 一坪何本ノ割

此ノ植栽費何圓、又ハ人夫何人

二年以下初年ニ同シ

林道、防火線設置費等ヲ含ム

第二號書式

種苗下付願

一何苗(種) 何木(石)

但シ何會何村字何何官有地

(民有地)何坪ニ植付用 一坪何本植

右明治何年何月ヨリ何月迄ニ造林(播種)致度候條御下付被成下度關東州造林獎勵規則ニ依リ此段相願候也

年 月 日

住 所

(又ハ)

何會(村)總代 住 所

某

某

關東都督宛

○關東都督府令第四十六號(官報九月十二日)

遼陽ニ監獄ヲ設置シ遼陽衛戍監獄ト稱ス

但シ開廳ノ時期ハ追テ定ム

明治四十一年八月二十九日

關東都督 子爵大島義昌

○關東都督府令第四十七號(官報九月十六日)

傳染病豫防規則左ノ通相定ム

明治四十一年九月三日

關東都督 子爵大島義昌

傳染病豫防規則

第一條 本令ニ於テ傳染病ト稱スルハ虎列刺、赤痢、腸窒扶私、痘瘡、發疹窒扶私、猩紅熱、實布淫利

亞 格魯布、ペストトヲ謂フ

前項ニ掲グル疾病ノ外本令ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要ト認ムル傳染病アルトキハ別ニ之ヲ指

定ス

第二條 醫師傳染病又ハ其ノ疑似症患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ檢案シタルトキハ其ノ家人ニ消

毒方法ヲ指示シ且直ニ患者若ハ死體所在地ノ警察官吏ニ届出ヘシ其ノ轉歸ノ場合亦同シ

第三條 傳染病又ハ其ノ疑似症患者若ハ其ノ死者アリタル家ニ於テハ速ニ醫師ノ診斷若ハ檢案ヲ

受ケ又ハ直ニ其ノ所在地ノ警察官吏ニ届出ヘシ
前項ノ届出ヲ爲スヘキ義務者ハ一般民家ニ在リテハ戸主若ハ之ニ代ルヘキ者、社寺、公私立ノ學

校病院、製造所又ハ會社、各種事務所、貸席、興行場其ノ他集會ノ場所ニ在リテハ其ノ首長、管理人

又ハ其ノ代理者トス

第四條 傳染病又ハ其ノ疑似症患者アリタル家又ハ其ノ病室ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル家ニ於テ

ハ醫師又ハ當該吏員ノ指示ニ從ヒ消毒方法ヲ行フヘシ

第五條 傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ當該吏員ハ傳染病又ハ其ノ疑似症患者ヲ傳染病院又ハ

隔離病舎ニ收容スヘシ

第六條 傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ當該吏員ハ一定ノ期間傳染病又ハ其ノ疑似症患者アリ

タル家屋、場所其ノ他傳染病又ハ其ノ疑アル病室ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル家屋、場所ノ交通

ヲ遮斷シ又ハ病室感染ノ疑アル者ヲ隔離所其ノ他適當ノ場所ニ隔離シ交通ヲ遮斷スルコトヲ得

第七條 本令ニ於テ船舶及汽車ハ家屋ト看做ス

第八條 傳染病又ハ其ノ疑似症患者及其ノ死體ハ當該吏員ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ他ニ移スコ

トヲ得ス

第九條 傳染病又ハ其ノ疑アル病室ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物件ハ當該吏員ノ許可ヲ受ケルニ

非サレハ使用、授與、移轉、遺棄又ハ洗滌スルコトヲ得ス

第十條 傳染病又ハ其ノ疑似症患者ノ死體ハ當該吏員ニ於テ充分ト認ムル消毒方法ヲ施シタル後

ニ非サレハ埋葬スルコトヲ得ス

第十一條 傳染病又ハ其ノ疑似症患者ノ死體ハ火葬スヘシ但シ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケタルト

キハ此ノ限ニ在ラス

傳染病患者ノ死體ヲ土葬シタルトキハ三箇年ヲ經過スルニ非サレハ他ニ改葬スルコトヲ得ス但

シ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 當該吏員ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ事由ヲ戸主、首長、管理人又ハ代理者ニ告知シ

家宅其ノ他ノ場所ニ立入り又ハ無償ニテ船舶、汽車ニ乗込ムコトヲ得但シ當該吏員タル證票ヲ

示スヘシ

第十三條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ民政署長ハ關東都督ノ認可ヲ經テ檢疫委員ヲ設

置シ傳染病豫防事務ヲ擔任セシムルコトヲ得

第十四條 民政署長ハ傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ關東都督ノ認可ヲ經テ左ノ事項ノ全部又

ハ一部ヲ施行スルコトヲ得

一 船舶、汽車、旅客等ノ檢疫ヲ行フコト

二 健康診斷又ハ死體檢案ヲ行フコト

三 市街、村落ノ全部又ハ一部ノ交通ヲ遮斷シ又ハ其ノ居住者ヲ隔離スルコト

四 祭禮、供養、興行、集會等ノ如キ群集ヲ制限シ若ハ禁止スルコト

五 古著、襪履、古綿其ノ他病室汚染ノ虞アル物件ノ出入ヲ制限シ若ハ停止シ又ハ其ノ物件ヲ廢

棄スルコト

六 傳染病傳播ノ媒介ト爲ルヘキ飲食物ノ販賣、授受ヲ禁止シ又ハ之ヲ廢棄スルコト

七 船舶、汽車、製造所若ハ多人數ノ集會スル場所ニ醫師ノ雇入其ノ他豫防上必要ノ設備ヲ爲サ

シムルコト

八 清潔方法、消毒方法ノ施行ヲ命シ及井戸下水、溝渠、茶溜、厠圍ノ新設、改築、修繕、變更若ハ廢

止ヲ命シ又ハ其ノ使用ヲ停止スルコト

九 必要ノ期間一定ノ場所ヲ限リ漁撈、游泳又ハ水ノ使用ヲ制限シ若ハ停止スルコト

十 鼠族ノ驅除及之ニ關スル施設ヲ爲サシムルコト
第十五條 傳染病毒ニ汚染シタル建物ニシテ完全ニ消毒方法ヲ施行シ得スト認ムルトキハ民政署長ハ關東都督ノ認可ヲ經テ其ノ建物ニ對シ特別ノ處分ヲ行ヒ且其ノ處分ノ爲必要ナル土地ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ豫メ其ノ旨ヲ所有者又ハ管理人ニ告知シ處分ヲ行ヒタル上民政署長ハ相當ト認ムル手當金ヲ交付スルコトアルヘシ

第十六條 本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ施爲スヘキ事項ヲ施爲セス若ハ之ヲ施爲スルモ充分ナラスト認ムルトキ又ハ必要ノ期間ニ施爲シ得スト認ムルトキハ民政署長ハ官費ヲ以テ之ヲ施爲シ其ノ費用ヲ私人ヨリ追徴スルコトヲ得

前項ノ費用ノ徵收ニ關シテハ租稅其ノ他ノ公課徵收ニ關スル規程ニ據ル

第十七條 本令若ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ依リ當該吏員ノ指示命令シタル事項ヲ指定ノ期限內ニ履行セサル者ハ科料ニ處ス

第十八條 醫師ニシテ十二時間以內ニ第二條ノ届出ヲ爲サス又ハ虛偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ科料又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 第三條第四條第八條第九條第十條第十一條ニ違背シタル者交通遮斷ヲ犯シタル者當該吏員ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者醫師ニ請託シテ第二條ノ届出ヲ爲サシメス又ハ虛偽ノ届出ヲ爲サシメ若ハ其ノ届出ヲ妨ケタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 關東州外ヨリ來ル船舶ニ對シ施行スル検査ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第二十一條 民政署長ハ關東都督ノ認可ヲ經テ本令ヲ施行スル爲必要ナル規程ヲ定ムルコトヲ得

第二十二條 本令ニ依リ民政署長ニ屬スル職權ハ南滿洲鐵道附屬地ニ在リテハ警務署長之ヲ行フ

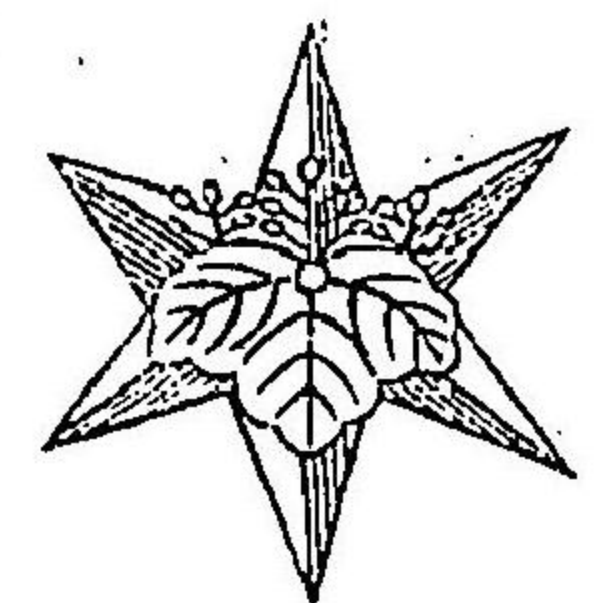
第二十三條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○統監府令第四十三號 (官報 十月五日)
明治三十九年統監府令第二十三號中左ノ通改正ス

明治四十一年九月二十九日
統監府營林廠職員ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

統監府特許局職員 金色星章ノ中部ニ銀色桐章ヲ附シタル縱横各八分ノモノトス餘ハ同前
襟章圖ニ左ノ如ク追加ス

統監府特許局職員



本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

明治三十九年七月二十日統監府令第二十三號ハ統監府及所屬官署職員ノ襟章ナリ

○統監府令第四十四號 (官報 十月六日)
警察犯處罰令左ノ通相定ム

明治四十一年十月一日
警察犯處罰令

第一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留ニ處ス

統監代理 子爵會禰亮助
副統監 子爵會禰亮助

- 一 故ナク人ノ居住若ハ看守セサル邸宅建造物及船舶内ニ潜伏シタル者
 - 二 密賣淫ヲ爲シ又ハ其ノ媒合若ハ容止ヲ爲シタル者
 - 三 一定ノ住居又ハ生業ナクシテ諸方ニ徘徊スル者
 - 四 故ナク面會ヲ強請シ又ハ強談、威迫ノ行爲ヲ爲シタル者
- 第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
- 一 許可ヲ得スシテ醫業ヲ爲シタル者
 - 二 許可ヲ得スシテ毒藥、劇藥ヲ販賣シタル者
 - 三 許可ヲ得スシテ火藥類其ノ他爆發スヘキ物品ヲ市街ニ於テ運搬シ又ハ貯藏シタル者
 - 四 許可ヲ得スシテ煙火ヲ製造シ又ハ販賣シタル者
 - 五 傳染病豫防ニ關シ公務員ノ命令ニ從ハサル者
 - 六 合力、喜捨ヲ強請シ又ハ強テ物品ノ購買ヲ求メタル者
 - 七 乞丐ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者
 - 八 濫ニ寄附ヲ強請シ又ハ收利ノ目的ヲ以テ強テ物品、入場券等ヲ配付シタル者
 - 九 入札ノ妨害ヲ爲シ又ハ共同入札ヲ強請シ若ハ落札人ニ對シ其ノ事業又ハ利益ノ分配若ハ金品ヲ強請シタル者
 - 十 他人ノ業務ニ對シ惡戯又ハ妨害ヲ爲シタル者
 - 十一 新聞紙、雜誌其ノ他ノ方法ヲ以テ誇大又ハ虛偽ノ廣告ヲ爲シ不正ノ利ヲ圖リタル者
 - 十二 新聞紙、雜誌其ノ他ノ出版物ノ購讀又ハ廣告掲載ニ付強テ其ノ申込ヲ求メタル者
 - 十三 申込ナキ新聞紙、雜誌其ノ他ノ出版物ヲ配付シ又ハ申込ナキ廣告ヲ爲シ其ノ代料ヲ請求シタル者
 - 十四 祭事、祝儀又ハ其ノ行列ニ對シ惡戯又ハ妨害ヲ爲シタル者

- 十五 死亡ノ申告ヲ爲サスレテ埋葬ヲ爲シタル者
- 十六 官許ノ墓地外ニ於テ私ニ埋葬ヲ爲シタル者
- 十七 自己占有ノ場所内ニ老幼、不具又ハ疾病ノ爲扶助ヲ要スル者若ハ人ノ死屍、死胎アルコトヲ知リテ速ニ警察官吏ニ申告セサル者
- 前項ノ死屍、死胎ニ對シ警察官吏ノ指揮ナキニ其ノ現場ヲ變更シタル者
- 十八 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ喧噪シ、横臥シ又ハ泥酔シテ徘徊シタル者
- 十九 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ濫ニ車馬舟筏其ノ他ノ物件ヲ置キ又ハ交通ノ妨害ト爲ルヘキ行爲ヲ爲シタル者
- 二十 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ危險ノ虞アルトキ點燈其ノ他豫防ノ裝置ヲ爲スノ義務ヲ怠リタル者
- 二十一 劇場、寄席其ノ他公衆會同ノ場所ニ於テ會衆ノ妨害ヲ爲シタル者
- 二十二 雜沓ノ場所ニ於テ制止ヲ肯セス混雜ヲ増スノ行爲ヲ爲シタル者
- 二十三 人ヲ誑惑セシムヘキ流言浮説又ハ虛報ヲ爲シタル者
- 二十四 妄ニ吉凶禍福ヲ說キ又ハ祈禱、符呪等ヲ爲シ若ハ守札類ヲ授與シテ人ヲ惑ハシタル者
- 二十五 病者ニ對シ禁厭、祈禱符呪等ヲ爲シ又ハ神符、神水等ヲ與ヘ醫療ヲ妨ケタル者
- 二十六 濫ニ催眠術ヲ施シタル者
- 二十七 官職、位記、勳賞學位ヲ詐リ又ハ法令ノ定ムル服飾、徽章ヲ僭用シ若ハ之ニ類似ノモノヲ使用シタル者
- 二十八 官公署ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ其ノ義務アル者ニシテ故ナク申述ヲ肯セサル者
- 二十九 人ノ飲用ニ供スル淨水ヲ汚穢シ又ハ其ノ使用ヲ妨ケ若ハ其ノ水路ニ障礙ヲ爲シタル者
- 三十 河川、溝渠又ハ下水路ノ疏通ヲ妨クヘキ行爲ヲ爲シタル者

- 三十一 自己又ハ他人ノ身體ニ刺文シタル者
 - 三十二 出入ヲ禁止シタル場所ニ濫ニ出入シタル者
 - 三十三 官公署ノ榜示シ若ハ官公署ノ指揮ニ依リ榜示セル禁條ヲ犯シ又ハ其ノ設置ニ係ル榜標ヲ汚濁若ハ撤去シタル者
 - 三十四 水火災其ノ他ノ事變ニ際シ制止ヲ肯セスシテ其ノ現場ニ立入り若ハ其ノ場所ヨリ退去セス又ハ官吏ヨリ援助ノ求ヲ受ケタルニ拘ラス傍觀シテ之ニ應セサル者
 - 三十五 濫ニ他人ノ標燈又ハ社寺道路ノ公園其ノ他ノ公衆用ノ常燈ヲ消シタル者
 - 三十六 他人ノ田野園圃ニ於テ某果ヲ採摘シ又ハ花卉ヲ採折シタル者
 - 三十七 使用者ニシテ勞役者ニ對シ故ナク其ノ自由ヲ妨ケ又ハ苛酷ノ取扱ヲ爲シタル者
 - 三十八 濫ニ他人ノ身邊ニ立塞リ又ハ追隨シタル者
 - 三十九 他人ノ身體物件又ハ之ニ害ヲ及ホスヘキ場所ニ對シ物件ヲ抛擲シ又ハ放射シタル者
 - 四十 神祠、佛堂、禮拜所、墓所、碑表、形像其ノ他之ニ類スル物ヲ汚澆シタル者
 - 四十一 人ノ死屍又ハ死胎ヲ隱匿シ又ハ他物ニ紛ハシク擬裝シタル者
 - 四十二 一定ノ飲食物ニ他物ヲ混シテ不正ノ利ヲ圖リタル者
 - 四十三 不熟ノ果物、腐敗ノ肉類其ノ他健康ヲ害スヘキ飲食物ヲ營利ノ用ニ供シタル者
 - 四十四 濫ニ他人ノ繫キタル舟筏、牛馬其ノ他ノ獸類ヲ解放シタル者
 - 四十五 所有地外ヘ濫ニ家屋牆壁ヲ設ケ又ハ軒楹ヲ出シタル者
 - 四十六 許可ヲ得スシテ獸類ヲ官有地ニ放チ又ハ牧蓄シタル者
 - 四十七 路上ニ於テ賭博ニ類スル行爲ヲ爲シタル者
- 第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ科料ニ處ス
- 一 許可ヲ得スシテ人ノ死屍又ハ死胎ヲ解剖シ又ハ之カ保存ヲ爲シタル者

- 二 公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ袒裼、裸裎シ又ハ臀部、股部ヲ露ハシ其ノ他醜態ヲ爲シタル者
- 三 街路ニ於テ尿尿ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者
- 四 街路ニ於テ夜中燈火ナクシテ車馬ヲ疾驅シタル者
- 五 濫ニ銃砲ノ發射ヲ爲シ又ハ火藥其ノ他劇發スヘキ物ヲ玩ヒタル者
- 六 許可ヲ得スシテ路傍又ハ河岸ニ床店等ヲ開キタル者
- 七 官署ノ督促ヲ受ケテ道路ノ掃除ヲ爲ササル者
- 八 家屋其ノ他ノ建造物若ハ引火シ易キ物ノ近傍又ハ山野ニ於テ濫ニ火ヲ焚ク者
- 九 石灰其ノ他自然發火ノ虞アル物ノ取扱ヲ忽ニシタル者
- 十 開業ノ醫師、產婆故ナク病者又ハ妊婦、產婦ノ招キニ應セサル者
- 十一 故ナク官公署ノ召喚ニ應セサル者
- 十二 炮灸、洗滌、剝皮等ヲ要セス其ノ儘食用ニ供スヘキ飲食物ニ覆蓋ヲ設ケス店頭ニ陳列シタル者
- 十三 健康ヲ害スヘキ物品ヲ飲食物ニ混和シテ販賣シタル者
- 十四 制止ヲ肯セスシテ路傍ニ飲食物其ノ他ノ商品ヲ陳列シタル者
- 十五 濫ニ禽獸ノ死屍又ハ汚穢物ヲ棄擲シ又ハ之カ取除ノ義務ヲ怠リタル者
- 十六 溝渠下水ヲ毀損シ又ハ官署ノ督促ヲ受ケテ之ヲ浚ハサル者
- 十七 監置ニ係ル精神病者ノ監護ヲ怠リ屋外ニ徘徊セシメタル者
- 十八 濫ニ犬其ノ他ノ獸類ヲ吠シ又ハ驚逸セシメタル者
- 十九 狂犬、猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ逸走セシメタル者
- 二十 公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ牛馬其ノ他ノ動物ヲ虐待シタル者

- 二十一 濫ニ他人ノ家屋其ノ他ノ工作物ヲ汚瀆シ若ハ之ニ貼紙ヲ爲シ又ハ他人ノ標札招牌賣貸家札其ノ他標標ノ類ヲ汚瀆シ若ハ撤去シタル者
- 二十二 橋梁又ハ堤防ヲ損壞スルノ虞アル場所ニ舟筏ヲ繫キタル者
- 二十三 通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ之ニ牛馬諸車ヲ牽入レタル者
- 二十四 官ヨリ價格ヲ定メタル品物ヲ定價以上ニ販賣シタル者
- 二十五 渡船橋梁其ノ他ノ場所ニ於テ定價以上ノ通行錢ヲ取り又ハ故ナク通行ヲ妨ケタル者
- 二十六 渡船橋梁其ノ他通行錢ヲ拂フヘキ場所ニ於テ其ノ定價ヲ出サスシテ通行シタル者
- 二十七 許可ヲ得スシテ劇場其ノ他見世物場ヲ開キタル者
- 二十八 公園ノ規則ヲ犯シタル者
- 第四條 本令ニ規定シタル違反行爲ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ各本條ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○統監府令第四十五號(官報十月十五日)

居留規則左ノ通定ム

統監代理

副統監 子爵曾禰荒助

明治四十一年十月十日

居留規則

- 第一條 居留民ハ住居ノ日ヨリ二十日以内ニ左ノ事項ヲ記載シ所轄理事官ニ届出ツヘシ
- 一 氏名
- 二 生年月日

- 三 居留ノ場所
 - 四 本籍及族稱
 - 五 職業
 - 六 戸主非戸主ノ別(非戸主ニ在リテハ戸主トノ綴ヲ)
 - 七 同居スル家族ノ氏名生年月日及職業
 - 前項各號ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ二十日以内ニ届出ツヘシ出生死亡失踪國籍ノ喪失アリタルトキ亦同シ
 - 第二條 住居地ヲ退去スルトキハ豫メ其ノ行先ヲ明記シ所轄理事官ニ届出ツヘシ
 - 第三條 前二條ノ届出ハ單身者ニ在リテハ本人、家族攜帶者ニ在リテハ戸主若ハ主宰者ヨリ之ヲ爲スヘシ但シ單身者ニシテ死亡シ又ハ失踪シタルトキハ同居者又ハ家主若ハ地主其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ二十日以内ニ届出ツヘシ
 - 第四條 居留民團地區内ニ居住スル居留民ニシテ本則ニ依リ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ居留民團役所ヲ經由スヘシ
 - 第五條 第一條及第二條ノ届出ヲ爲ササル者ハ十圓以下ノ過料ニ處ス
- 附則
- 第六條 本則ハ明治四十一年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス
 - 本則ハ居留民團地區内及理事官ノ指定スル地區ニ限リ之ヲ施行ス
 - 第七條 本則施行ノ際現ニ居留スル者ニ付テハ第一條第一項ノ届出期間ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス
 - 本則施行前領事館令又ハ理事廳令ニ依リ居留ノ届出ヲ爲シタル者ニ付テハ第一條第一項ノ規定ヲ適用セス

○臺灣總督府令第五十八號(官報十月七日)
明治四十年三月府令第十四號中第十六條ヲ削ル
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

〔參照〕

臺灣總督府令第十四號(明治四十年四月一日官報)抄錄
明治三十九年十月二日遞信省令第六十一號新聞電報規則ハ第十三條第十五條第十六條第十九條及第二十條ヲ除キ之ヲ本島ニ
適用ス但シ總督大臣ノ職權ニ關スル事項ハ臺灣總督之ヲ行ヒ一等郵便局ノ處理スヘキ事項ハ新聞社又ハ新聞通信社所在地
ノ一、二等郵便電信局ニ於テ之ヲ處理ス

○臺灣總督府令第五十九號(官報十月七日)
臺灣總督府令第五十九號(官報十月七日)

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

臺灣總督府令

第一條 左ニ記載シタル事項ヲ遵守セサル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

- 一 一定ノ住居及生業ヲ有セス諸方ヲ徘徊スヘカラス
- 二 故ナク人ノ居住又ハ看守セサル邸宅、建造物若ハ船舶内ニ潛伏スヘカラス
- 三 故ナク面會ヲ強請シ又ハ強請威迫ノ行爲ヲ爲スヘカラス
- 四 合力又ハ喜捨ヲ強請シ技藝ヲ街賣シ又ハ物品ヲ強賣スヘカラス
- 五 濫リニ寄附ヲ強請シ又ハ收利ノ目的ヲ以テ物品、入場券等ヲ配付スヘカラス
- 六 入札ノ妨害ヲ爲シ又ハ共同入札ヲ強請シ若ハ落札人ニ對シ其ノ事業又ハ利益ノ分配若ハ金品ノ強請ヲ爲スヘカラス

- 七 入札者間申合セヲ爲ス等競争入札ノ目的ニ反スル行爲ヲ爲スヘカラス
- 八 辯護士ニアラスシテ訴訟ノ鑑定其ノ他辯護士ノ業務ニ類スル行爲ヲ爲スヘカラス
- 九 私ニ持場ヲ定メ他人ノ稼業ヲ妨害スヘカラス
- 十 他人ニ汚穢物又ハ瓦礫等ヲ抛澆スヘカラス
- 十一 官署ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ情ヲ知リテ其ノ代書ヲ爲スヘカラス
- 十二 事實ヲ捏造シテ官署ニ投書シ又ハ情ヲ知リテ其ノ代書ヲ爲スヘカラス
- 十三 多衆會同ノ場所ニ於テ制止ヲ肯セス其ノ妨害ヲ爲スヘカラス
- 十四 木籍、木居、住所、姓名、年齢、身分、職業等ヲ詐稱シテ投宿又ハ乗船スヘカラス
- 十五 道路、河川、溝渠、下水、用水路、排水路、家屋又ハ庭園ニ瓦礫汚穢物若ハ禽獸ノ死屍ヲ投擲スヘカラス
- 十六 流言浮説又ハ虛報ヲ爲シテ人ヲ誑惑セシムヘカラス
- 十七 妄ニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ加持、祈禱、符呪等ヲ爲シ若ハ守札ノ類ヲ授與シテ人ヲ惑ハスヘカラス
- 十八 粗暴ノ言論行爲ヲ爲シ公安ヲ害スヘカラス
- 十九 故ナク他人ノ金銀取引等ニ關涉シ又ハ濫リニ訴訟其ノ他ノ紛擾ヲ惹起セシムヘカラス
- 二十 人家稠密ノ場所ニ於テ濫リニ煙火其ノ他ノ火器ヲ弄スヘカラス
- 二十一 官署ノ督促ヲ受ケテ崩壞ノ虞アル建造物ノ修繕又ハ顛仆ノ虞アル物件ノ積換等ヲ怠ルヘカラス
- 二十二 人家ノ近傍又ハ山林田野ニ於テ濫リニ焚火ヲ爲スヘカラス
- 二十三 私有地外ニ濫リニ家屋牆壁ヲ設ケ又ハ軒楹ヲ出スヘカラス
- 二十四 道路堤防ノ樹木ヲ採取リ又ハ採折スヘカラス

- 二十五 道路橋梁其ノ他ノ場所ニ榜示シタル通行禁止及指道標ノ類ヲ汚損スヘカラス
- 二十六 他人ノ繫キタル獸類又ハ舟筏ヲ解放スヘカラス
- 二十七 耕作物アル他人ノ田圃ニ家畜類ヲ放飼シ又ハ牽入ルヘカラス
- 二十八 祭事祝儀又ハ其ノ行列ニ對シ妨害ヲ爲スヘカラス
- 二十九 濫リニ銃砲ヲ發射スヘカラス
- 三十 他人ノ業務ニ對シ妨害トナルヘキ行爲ヲ爲スヘカラス
- 三十一 新聞紙雜誌其ノ他ノ方法ヲ以テ誇大ノ廣告ヲ爲シ不正ノ利ヲ圖ルヘカラス
- 三十二 申込ナキ新聞紙雜誌其ノ他ノ出版物ヲ配付シ又ハ申込ナキ廣告ヲ爲シ其ノ代料ヲ請求スヘカラス
- 三十三 官職位階ヲ詐稱シ又ハ官ノ服飾徽章ヲ僭用シ若ハ之ニ類似ノモノヲ使用スヘカラス
- 三十四 電線ノ近傍ニ於テ紙鳶ヲ揚グル等其ノ妨害トナルヘキ行爲ヲ爲スヘカラス
- 三十五 水火震災其ノ他ノ事變ニ際シ制止ヲ肯セス警戒ノ場所ヲ侵シ又ハ防禦スヘキ命ヲ受ケテ徒ニ傍觀スヘカラス
- 三十六 官署ノ督促ヲ受ケテ煙突ノ改造修繕及掃除ヲ怠ルヘカラス
- 三十七 精神病者ノ看護ヲ怠リ公衆ノ通行スヘキ場所ニ徘徊セシムヘカラス
- 三十八 危險ノ虞アル獸類ノ繫鎖ヲ怠リ公衆ノ通行スヘキ場所ニ放ツヘカラス
- 三十九 制止ヲ肯セス人ノ群集シタル場所ニ牛馬驢車ヲ入ルヘカラス
- 四十 橋梁又ハ堤防ノ妨害トナルヘキ場所ニ舟筏ヲ繫クヘカラス
- 四十一 牛馬驢車木石其ノ他ノ物件ヲ道路ニ横ヘ又ハ堆積スル等通行ノ妨害トナルヘキ行爲ヲ爲スヘカラス
- 四十二 水路ニ於テ舟筏ノ通行ヲ妨害スヘカラス

- 四十三 鐵道用地内ニ濫リニ家畜類ヲ入ラシムヘカラス
- 四十四 鐵道線路ノ近傍ニ牛ヲ放飼スヘカラス
- 四十五 市街地ノ道路又ハ溝渠下水ニ牛馬羊豚ヲ放飼スヘカラス
- 四十六 家畜類ヲ放飼シテ道路堤防溝渠下水其ノ他公共用ノ築造物ヲ破壊セシムヘカラス
- 四十七 許可ヲ得シテ道路道路敷堤防溝渠下水河川又ハ用水路排水路ノ原形ヲ變更スヘカラス
- 四十八 他人ノ所有地内ニ於テ土石砂礫又ハ芝草等ヲ掘取ルヘカラス
- 四十九 密ニ賣淫ヲ爲シ又ハ其ノ媒合容止ヲ爲スヘカラス
- 五十 墓碑又ハ路上ノ神佛若ハ神祠佛堂其ノ他公ノ建造物ヲ汚濁スヘカラス
- 五十一 公衆ノ賭場キ場所ニ於テ賭博ニ類スル行爲ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラス
- 五十二 自己又ハ他人ノ身體ニ刺文スヘカラス
- 五十三 濫リニ牆壁其ノ他ノ場所ニ貼紙樂書シ又ハ邸宅ノ番號標札招牌貸家賣家ノ貼紙其ノ他ノ榜示ヲ汚損又ハ撤去スヘカラス
- 五十四 奇異ノ扮裝ヲ爲シ又ハ不穩ノ舉動ヲ爲シ制止ヲ肯セス徘徊スヘカラス
- 五十五 治安ヲ害シ又ハ風俗ヲ紊ルヘキ演藝講談等ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラス
- 五十六 許可ヲ得シテ煙火ヲ製造シ又ハ販賣スヘカラス
- 五十七 官署ニ於テ價額ヲ定メタル物品ヲ私ニ定價以上ニ販賣スヘカラス
- 五十八 許可ニ附シタル條件ニ違背スヘカラス
- 五十九 許可ヲ得シテ死體ノ解剖又ハ保存ヲ爲スヘカラス
- 六十 自己ノ占有スル場所内ニ老幼不具又ハ疾病ノ爲扶助ヲ要スル者若ハ死體アルコトヲ知リタルトキハ速ニ警察官吏ニ申告スヘシ

- 六十一 前號ノ死體ハ警察官吏ノ指揮ヲ受ケスシテ之ヲ他ニ移スヘカラス
 - 六十二 許可ヲ得タル墓地又ハ火葬場外ニ於テ密ニ埋火葬スヘカラス
 - 六十三 醫師、醫生、產婆正當ノ事由ナキ限りハ病者又ハ產婦ノ招キニ應セサルヘカラス
 - 六十四 病者ニ對シ禁厭祈禱符呪等ヲ爲シ又ハ神符、神水ヲ與フル等醫療ヲ妨クヘキ行爲ヲ爲スヘカラス
 - 六十五 祭典祈禱ノ爲故ラニ自己ノ身體ヲ傷クヘカラス
 - 六十六 飲用水ヲ汚穢シ又ハ其ノ使用ヲ妨ケ若ハ用水路ニ妨害ヲ爲スヘカラス
 - 六十七 公共給水栓ノ周圍ニ於テ洗濯ヲ爲シ又ハ公共給水栓ヲ汚損スヘカラス
 - 六十八 猥リニ公共給水栓ヲ開閉スヘカラス
 - 六十九 公共給水栓把手ニ木石等ヲ挿入シテ放水スヘカラス
 - 七十 公共給水栓ヨリ船舶用ノ水ヲ汲取ルヘカラス
 - 七十一 精米ニ石粉其ノ他ノ異種物ヲ混入シ又ハ糲卷ヲ爲シ若ハ濕氣ヲ含マシメタルモノヲ營業用ニ供スヘカラス
 - 七十二 病死ノ禽獸ヲ食料トシテ販賣スヘカラス
 - 七十三 官署ノ督促ヲ受ケテ清潔法ノ執行ヲ怠ルヘカラス
 - 七十四 糞簾其ノ他毒物又ハ爆發物ノ類ヲ以テ漁魚ヲ爲スヘカラス
 - 七十五 官署ノ督促ヲ受ケテ防鼠ノ措置ヲ怠ルヘカラス
- 第二條 左ニ記載シタル事項ヲ遵守セサル者ハ十五日以下ノ拘留又ハ十圓以下ノ科料ニ處ス
- 一 濫リニ他人ノ身邊ニ立塞リ又ハ追隨スヘカラス
 - 二 正當ノ事由ナキ限りハ官署ノ召喚ニ應セサルヘカラス
 - 三 官署ノ督促ヲ受ケテ道路ニ倒レタル竹木又ハ垂掛リタル枝葉ノ取除ヲ怠ルヘカラス

- 四 濫リニ他人ノ常燈ヲ消スヘカラス
- 五 他人ノ田畑園圃ニ於テ菜果ヲ採食シ又ハ花卉ヲ採折スヘカラス
- 六 耕作物アル他人ノ田圃ヲ通行スヘカラス
- 七 他人ノ安眠ヲ妨クヘキ場所ニ於テ夜十二時後日出前歌舞音曲其ノ他喧噪ノ行爲ヲ爲スヘカラス
- 八 公衆ノ通行スヘキ場所ニ於テ新聞紙雜誌類ヲ讀賣スヘカラス
- 九 濫リニ空氣銃又ハ吹矢ノ類ヲ弄スヘカラス
- 十 闘犬又ハ闘鷄ヲ爲スヘカラス
- 十一 人家稠密ノ場所ニ於テ瓦石ヲ投クル等危險ノ遊戲ヲ爲スヘカラス
- 十二 公衆ノ通行スヘキ場所ニ在ル危險ノ井溝又ハ凹所ニ適當ノ蓋又ハ防圍ヲ爲スコトヲ怠ルヘカラス
- 十三 公衆ノ通行スヘキ場所ニ於テ獸類ヲ嚇シ又ハ驚逸セシムヘカラス
- 十四 交通ノ妨害トナルヘキ場所ニ於テ濫リニ牛馬諸車ヲ疾驅スヘカラス
- 十五 夜間燈火ナクシテ牛馬ヲ疾驅スヘカラス
- 十六 木石等ヲ道路ニ置キタルトキハ防圍及標識ノ點燈ヲ爲スコトヲ怠ルヘカラス
- 十七 渡船橋梁其ノ他ノ場所ニ於テ定價以上ノ通行錢ヲ取り又ハ故ナク通行ヲ妨クヘカラス
- 十八 渡船橋梁其ノ他ノ通行錢ヲ拂フヘキ場所ニ於テ其ノ定價ヲ出サスシテ通行スヘカラス
- 十九 制止ヲ肯セス路傍ニ飲食物其ノ他ノ商品ヲ陳列スヘカラス
- 二十 通行ノ妨害トナルヘキ場所ニ於テ制止ヲ肯セス遊戲ヲ爲スヘカラス
- 二十一 牛馬ヲ牽キ又ハ繫クコトヲ忽セニシテ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス
- 二十二 出入ヲ禁止シタル場所ニ出入シ、官署ノ榜示シタル禁條ニ違背スヘカラス

- 二十三 監視者ヲ付セスシテ牛馬ヲ放飼スヘカラス
 - 二十四 街路ニ於テ制止ヲ肯セス放歌高聲其ノ他喧嘩、爭論ヲ爲スヘカラス
 - 二十五 酩酊シテ路上ニ喧噪シ又ハ醉臥スヘカラス
 - 二十六 公衆ノ賭場所ニ於テ醜體ヲ爲スヘカラス
 - 二十七 不熟ノ果物又ハ腐敗シタル飲食物ヲ販賣スヘカラス
 - 二十八 官署ノ督促ヲ受ケテ道路ノ掃除又ハ溝渠下水ノ浚渫ヲ怠ルヘカラス
 - 二十九 市街地ノ路上ニ於テ大小便ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラス
 - 三十 路上ニ於テ濫リニ獸類ヲ屠リ又ハ其ノ皮ヲ剥クヘカラス
 - 三十一 生河豚ヲ賣買授受スヘカラス
 - 三十二 改葬又ハ洗骨ノ爲發掘シタル墳穴ノ充塞ヲ怠ルヘカラス
 - 三十三 自己ノ管理ニ屬スル公共便所ノ掃除ヲ怠ルヘカラス
- 第三條 本令ニ規定シタル違反行爲ノ教唆者及從犯者ハ之ヲ罰ス
- 第四條 第一條第四十三號乃至第四十六號及第二條第二十三號ノ場合ニ於テ其ノ行爲者十四歳ニ滿タサルトキハ家畜類ノ占有者ヲ罰ス

附則

第五條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○臺灣總督府令第六十號(官報十月七日)

臺灣害蟲驅除豫防規則施行規則左ノ通相定ム

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

臺灣害蟲驅除豫防規則施行規則

第一條 臺灣害蟲驅除豫防規則第二條第一項ニ依リ驅除豫防スヘキ害蟲ノ種類及驅除豫防ノ方法

ハ第二條ニ依ルノ外之ヲ告示ス

第二條 廳長ハ害蟲驅除豫防上必要ト認ムルトキハ溝渠ヲ開鑿シ又ハ農作物(藁稈刈株等ヲ含ム)若ハ樹木雜草ヲ拔棄燒却埋没スルトコトヲ得

第三條 耕作人ニ於テ害蟲其ノ田畑ニ發生シ又ハ發生ノ虞アルコトヲ知リタルトキハ直ニ驅除豫防ニ著手シ害蟲ノ種類、著手シタル驅除豫防ノ方法及被害見積面積ヲ口頭若ハ書面ヲ以テ所轄警察官ニ届出ヘシ

警察官前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ現場ニ臨檢シ其ノ狀況ヲ廳長ニ報告スヘシ

第四條 害蟲發生シ若ハ發生ノ虞アルトキ又ハ蔓延シ若ハ蔓延ノ虞アルトキハ廳長ハ其ノ都度臺灣總督ニ急報スヘシ臺灣害蟲驅除豫防規則第七條ノ動植物ヲ發見シタルトキ亦同シ

第五條 臺灣害蟲驅除豫防規則第四條第二項ニ依ル費用ハ業主及佃人之ヲ負擔シ其ノ土地カ國庫ニ屬スルトキハ佃人之ヲ負擔ス但シ業主カ管理人ヲ置キタルトキハ業主ノ負擔スヘキ費用ハ其ノ管理人ノ負擔ス

第六條 臺灣害蟲驅除豫防規則第三條第二項及第四條第二項ニ依ル驅除豫防ノ費用徵收ニ關シテハ臺灣地方稅徵收ノ規定ヲ準用ス

臺灣害蟲驅除豫防規則第四條第二項ニ依ル費用ノ徵收ヲ爲サムトスルトキハ廳長ハ左ノ事項ヲ具シ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

- 一 徵收ノ方法
- 二 徵收スヘキ金額
- 三 負擔ノ割合
- 四 徵收ノ時期
- 五 驅除豫防計畫書

○臺灣總督府令第六十五號(官報十月三十日)

明治四十一年律令第十七號ニ依ル一圓銀貨幣ノ引換ハ明治四十二年四月三十日限トス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十一年十月二十四日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

○關東都督府令第四十八號(官報十月一日)

電報發行人ノ最初納付シタル船配運料額ニシテ實際配達ヲ試ミタル局所ニ於ケル規定配達料額ニ照シ過剩アルトキハ其ノ過剩料額ハ其納付人ノ請求ニ因リ郵便切手ヲ以テ納付シタルモノハ郵便切手、通貨ヲ以テ納付シタルモノハ通貨ヲ以テ之ヲ還付スヘシ

本令ハ明治四十一年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十一年九月十四日

關東都督 子爵大島義昌

○關東都督府令第四十九號(官報十月一日)

電信爲替特別取扱規則左ノ通相定ム

明治四十一年九月十九日

關東都督 子爵大島義昌

電信爲替特別取扱規則

第一條 電信爲替ノ差出人ハ電信爲替振出請求書ニ記入スヘキ受取人ノ宿所氏名及差出人氏名ヲ中國電報新編ニ依リ數字ヲ以テ記載スルコトヲ得但シ郵便局所ニ於テ必要トスル場合ヲ除クノ外請求書ニ記載シタル差出人及受取人ノ宿所氏名ニ片假名文字ヲ附記スルヲ要セス

第二條 本令ニ依ル電信爲替ハ郵便接續ノ場合ニ於テ振出請求書又ハ爲替證書ノ別配達ヲ取扱ハス

第三條 前各條以外ノ事項ハ明治三十三年九月遞信省令第四十五號郵便爲替規則中電信爲替ニ關スル規定ヲ準用ス

附則

本令ハ明治四十一年九月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

○關東都督府令第五十號(官報十月九日)

普蘭店及魏子窩民政支署長ハ其ノ管轄區域内ニ於ケル拘留又ハ科料ノ刑ニ該ルヘキ罪ノ裁判及民事爭訟調停ヲ取扱フ

附則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十一年九月二十八日

關東都督 子爵大島義昌

○關東都督府令第五十一號(官報十月九日)

關東州裁判事務取扱令施行細則左ノ通相定ム

明治四十一年九月二十八日

關東都督 子爵大島義昌

關東州裁判事務取扱令施行細則

第一條 人事訴訟手續法第一條第三項ノ場合ニ於テハ旅順ヲ以テ住所地トス

第二條 人事訴訟手續法第三章ニ依リテ爲スヘキ公告ハ裁判ノ要旨ヲ地方法院カ選定シタル新聞紙上ニ少クトモ一回掲載シテ之ヲ爲スヘシ

第三條 建物ノ登記ニ關シテハ明治三十二年五月司法省令第十一號不動産登記法施行細則ニ依ル

第四條 法人及夫婦財產契約ニ關スル登記取扱手續ハ明治三十二年五月司法省令第十五號法人及夫婦財產契約登記取扱手續ニ依ル

明治四十一年十月 府令 關東都督府第五十號 第五十一號

明治四十一年十月 府令 關東都督府第五十號 第五十一號

第五條 商業登記ニ關スル取扱手續ハ明治三十二年五月司法省令第十三號商業登記取扱手續ニ依ル
 第六條 前三條ニ掲クル司法省令中地方裁判所ノ職務ハ高等法院之ヲ行フ
 第七條 關東都督府ノ所管ニ係ル建物登記ノ囑託ヲ爲ス場合ニ於テ關東都督ノ告示ヲ以テ指定シ
 タル官吏ハ不動産登記法第三十五條第五號ノ書面ヲ提出スルヲ要セス各省ノ所管ニ係ル建物ノ
 登記ノ囑託ヲ爲ス場合ニ於テ明治三十五年勅令第五號ニ基キ各省大臣ノ指定シタル官吏亦同シ
 第八條 公證官吏ノ作成シタル公正證書ニハ其ノ所屬民政署又ハ民政支署ノ印ヲ用ウヘシ若シ
 用井ルコト能ハサル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ記載スヘシ
 第九條 關係人自署スル能ハサルトキハ公證官吏之ヲ代理シ其ノ事由ヲ附記スヘシ
 第十條 當事者ハ公正證書ノ土語又ハ外國語譯文ノ附與ヲ請求スルコトヲ得
 第十一條 確定日附簿及日附アル印章調製方ハ明治三十一年七月司法省令第七號確定日附簿及日附
 アル印章調製方ニ依ル但シ確定日附簿ハ高等法院ニ於テ調製シ公證官吏ノ請求ニ依リ之ヲ交付
 スヘシ
 第十二條 執達吏ノ職務ヲ行フ者其ノ職務執行ノ際携帶スヘキ證票ハ別記雛形ニ依ル

附則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

別記雛形(用紙鳥ノ子縦三寸五分横二寸)

證票

表
 面
 關東都督府某民政署執達吏員之證
 (姓名)

裏面

民政署印

○關東都督府令第五十二號(官報十月九日)
 關東州裁判手數料令左ノ通相定ム

明治四十一年九月二十八日

關東都督 子爵大島義昌

關東州裁判手數料令

第一章 總則

第一條 民事訴訟其ノ他ノ裁判事務ニ關シテハ本令ノ規定ニ從ヒ手數料ヲ納ムヘシ
 第二條 手數料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ但シ手數料額二百圓以上ナルトキハ現金ヲ以テ納
 付セシムルコトヲ得
 第三條 手數料ハ總テ金一錢以上トス一錢未満ノ端數ハ一錢トシテ之ヲ計算ス
 第四條 政府自己ノ爲ニ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ手數料ヲ徵セス
 第五條 訴訟物及民事爭訟調停目的物ノ價額ノ算定ニ關シテハ民事訴訟法第三條乃至第六條ノ規
 定ニ依ル
 前項ノ規定ニ依リ鑑定ヲ命スルトキハ二名ノ鑑定人ヲ選定シ評價セシムヘシ評價一致セサルト
 キハ其ノ平均ヲ以テ之ヲ定ム此ノ場合ニ於テ鑑定人ノ評價當事者ノ申立タル價額ヨリ多キトキ
 ハ鑑定ニ要スル費用ハ當事者ノ負擔トス
 鑑定ニ要スル費用ニ付テハ關東州裁判費用令中鑑定人ニ關スル規定ヲ適用ス

前二項ノ規定ハ登記申請ノ價額ヲ不當ト認ムル場合ニ亦之ヲ適用ス
 第六條 郵便ヲ以テ書類ノ送達ヲ爲ストキハ郵便料、書留料ノ外送達手数料トシテ一通ニ付金五
 錢ヲ納ムヘシ但シ手数料ハ郵便切手ヲ以テ之ヲ納ムヘシ
 第七條 檢證ノ申立ヲ爲ストキハ關東州裁判費用令第九條及第十條ノ費用ヲ手数料トシテ納ムヘ
 シ公證官吏及執達吏ノ職務ヲ行フ者ノ所在地外ニ於テ其ノ職務ノ取扱ヲ求ムルトキ亦同シ
 第八條 本令ニ於テ裁判所ト稱スルハ法院、民政署及民政支署ヲ謂フ

第二章 民事訴訟

第九條 財産權上ノ請求ニ係ル始審ノ訴訟ヲ提起スルトキハ訴訟物ノ價額ニ應シ左ノ區別ニ從ヒ
 手数料ヲ納ムヘシ

訴訟物ノ價額金五圓マテ	金二十五錢
同 十圓マテ	金四十錢
同 二十圓マテ	金八十錢
同 五十圓マテ	金一圓八十錢
同 七十五圓マテ	金二圓五十錢
同 百圓マテ	金三圓五十錢
同 二百五十圓マテ	金七圓
同 五百圓マテ	金十二圓
同 七百五十圓マテ	金十五圓
同 千圓マテ	金十八圓
同 二千五百圓マテ	金二十五圓
同 五千圓マテ	金三十圓

同五千圓以上ハ千圓ヲ増ス毎ニ金三圓ヲ加フ

第十條 財産權上ノ請求ニ非サル訴訟ニ付テハ其ノ訴訟物ノ價額百圓ト看做シ手数料ヲ納ムヘシ
 財産權上ノ請求ニ非サル訴訟ト其ノ訴訟ニ由テ生スル財産權上ノ訴訟ト併合スルトキハ其ノ多
 額ナル一方ノ訴訟物ノ價額ニ依リ手数料ヲ納ムヘシ

禁治産、準禁治産ノ申立及失踪宣告ノ申立ヲナストキハ第一項ノ手数料ヲ納ムヘシ

第十一條 本訴ト反訴ト其ノ目的カ同一ノ訴訟物ナルトキハ反訴ニ付テハ手数料ヲ納ムルヲ要セ
 ス

第十二條 控訴ヲ提起スルトキハ第九條ノ規定ニ從ヒ其ノ半額ノ手数料ヲ増納スヘシ

第十三條 支拂命令ノ申請ニシテ訴訟物ノ價額金十圓以下ナル場合ニ於テハ金二十錢ノ手数料ヲ

第十四條 左ニ掲クル申立又ハ申請ニシテ訴訟物ノ價額又ハ請求ノ價額金二十圓以下ナル場合ニ

於テハ金二十五錢ノ手数料ヲ金二十圓ヲ超過スル場合ニ於テハ金四十錢ノ手数料ヲ納ムヘシ

一 期日ノ變更、辯論ノ延期又ハ辯論期日ノ指定ノ申立

二 中斷又ハ中止シタル訴訟手續ノ受繼ノ申立

三 從參加ノ申請

四 忌避ノ申請

五 費用額確定ノ申請

六 假執行宣言ノ申立

七 強制執行ノ停止若ハ續行又ハ執行處分ノ取消ノ申立

八 配當要求

九 家資分散ノ申立又ハ家資分散者ノ復權ノ申立

十 強制競賣又ハ強制管理ノ申立
 十一 債權又ハ他ノ財産權差押ノ申請
 十二 民事訴訟法第七百三十二條乃至第七百三十四條ノ申立
 十三 公示催告手續ノ申立
 第十五條 左ニ掲クル申立又ハ申請ニシテ訴訟物ノ價額又ハ請求ノ價額金二十圓以下ナル場合ニ於テハ金五十錢ノ手數料ヲ金二十圓ヲ超過スル場合ニ於テハ金一圓ノ手數料ヲ納ムヘシ

- 一 抗告
- 二 故障
- 三 證據調ノ申立
- 四 證據保全ノ申請
- 五 假差押又ハ假處分ノ申請
- 六 判決送達ノ申立
- 七 執行力アル正本ヲ求ムル申立但シ二通以上ヲ求ムルトキハ一通毎ニ手數料ヲ納ムヘシ

第十六條 民事訴訟法第三百九十條ノ規定ニ依リ民政署長ニ訴ヲ起シタル場合又ハ第三百九十一條第二項ノ規定ニ依リ地方法院ニ訴ヲ起ス場合ニ於テハ第十三條ニ依リ納付シタル手數料ノ額ハ訴訟ニ付納付スヘキ手數料ノ額ニ之ヲ通算スヘシ

第十七條 再審ヲ求ムルノ訴訟ニ付テハ其ノ訴ヲ爲スヘキ裁判所ノ審級ニ依リ相當ノ手數料ヲ納ムヘシ

第十八條 原狀回復ノ申立ニハ其ノ書面ヲ差出スヘキ裁判所ノ審級ニ依リ相當ノ手數料ヲ納ムヘシ

第十九條 前數條ニ掲ケサル申立又ハ申請ニシテ訴訟物ノ價額又ハ請求ノ價額金二十圓以下ナル

場合ニ於テハ金二十錢ノ手數料ヲ金二十圓ヲ超過スル場合ニ於テハ金二十五錢ノ手數料ヲ納ムヘシ

第二十條 第十四條第十五條及第十九條ニ掲ケタル申立又ハ申請ニシテ訴訟物ノ價額又ハ請求ノ價額ナキモノハ其ノ訴訟物ノ價額又ハ請求ノ價額金二十圓以下ノモノト看做ス

第二十一條 左ニ掲クル申請及申立ニ付テハ手數料ヲ徵セス

- 一 訴訟上救助ノ申請
- 二 管轄裁判所指定ノ申請
- 三 民事訴訟法第八十三條ニ依ル申立
- 四 判決ノ更正又ハ補充ノ申立

第三章 民事爭訟調停

第二十二條 民事爭訟調停ヲ申請スルトキハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納ムヘシ

調停目的物ノ價額金五圓マテ	金十五錢
同 十圓マテ	金二十錢
同 二十圓マテ	金三十錢
同 五十圓マテ	金五十錢
同 七十五圓マテ	金七十錢
同 百圓マテ	金一圓
同 二百五十圓マテ	金二圓
同 五百圓マテ	金三圓
同 五百圓以上ハ五百圓ヲ増ス毎ニ金一圓ヲ加フ	

第二十三條 財産權上ノ請求ニ非サル民事爭訟調停ノ申請ニ付テハ金一圓ノ手數料ヲ納ムヘシ

第二十四條 調停調書謄本ノ下付ノ申請ハ其ノ謄本一通ニ付金二十錢ノ手数料ヲ執行文附與ノ申請ハ金三十錢ノ手数料ヲ納ムヘシ

第四章 非訟事件

第二十五條 非訟事件ニ關スル申立又ハ申請ニシテ請求ノ價額金二十圓以下ナル場合ニ於テハ金二十錢ノ手数料ヲ納ムヘシ

左ニ掲グル申立又ハ申請ニシテ請求ノ價額金二十圓以下ナル場合ニ於テハ金五十錢ノ手数料ヲ納ムヘシ

一 裁判上代位ノ申請
二 競賣法ニ依ル競賣ノ申立
三 抗告

非訟事件ニ關スル申立又ハ申請ニシテ請求ノ價額ナキモノハ其ノ請求ノ價額金二十圓以下ノモノト看做ス

管轄裁判所指定ノ申請ニ付テハ手数料ヲ徴セス

第二十六條 商事非訟事件ニ關シ左ニ掲グル申立又ハ申請ヲ爲ストキハ左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ納ムヘシ

一 抗告 金一圓

二 債權者ヨリ爲ス破産宣告ノ申立 金一圓

三 支拂猶豫ノ申立 金一圓

四 抗告ニ對スル答辯 金二十五錢

五 前各號以外ノ申立又ハ申請 金二十五錢

第二十七條 破産手續ニ付テハ破産財團中ノ貸方金額ニ應シ左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ納ムヘシ但

シ財團管理費用其ノ他破産手續上ノ費用及財團ノ爲ニ負擔シタル債務並別除ノ辨濟ニ供スル金額ハ貸方金額ヨリ之ヲ控除ス

財團ノ價額金五圓マテ 金五十錢

同 十圓マテ 金八十錢

同 二十圓マテ 金一圓六十錢

同 五十圓マテ 金三圓六十錢

同 七十五圓マテ 金五圓

同 百圓マテ 金七圓

同 二百五十圓マテ 金十四圓

同 五百圓マテ 金二十四圓

同 七百五十圓マテ 金三十圓

同 千圓マテ 金三十六圓

同 二千五百圓マテ 金五十圓

同 五千圓マテ 金六十圓

同 五千圓以上ハ千圓ヲ増ス毎ニ金六圓ヲ加フ

第二十八條 破産手續ニ付テハ財團ノ配當アル毎ニ其ノ配當金額ノ割合ヲ以テ手数料ニ相當スル金額ヲ引去リ置キ終局計算ニ至リ配當金總高ノ割合ニ從ヒ相當ノ手数料ヲ納ムヘシ

第二十九條 協諾契約ニ依リ手續ヲ止メタルトキハ第二十七條ニ掲ケタル手数料ノ半額ヲ納ムヘシ

第三十條 破産手續再施ノ場合ニ於テハ破産手續開始ニ於ケル場合ト同一ノ手数料ヲ納ムヘシ

第三十一條 前四條ニ定ムル手数料額ノ負擔ニ付テハ民事訴訟法中訴訟費用ニ關スル規定ヲ準用ス

第三十二條 建物ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ納ムヘシ

一 法定家督相續ニ因ル所有權ノ取得 建物價格千分ノ五

二 第一號以外ノ家督相續又ハ遺產相續ニ因ル所有權ノ取得 建物價格千分ノ五

三 遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得 建物價格千分ノ五十

但シ神社、寺院、祠廟及民法第三十四條ニ依リ設立シタル社團又ハ財團法人カ寄附行爲ニ因リ

所有權ヲ取得シタルトキハ其ノ價格ノ千分ノ十

四 第一號乃至第三號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得 建物價格千分ノ三十

五 從來保有セル所有權ノ保存 建物價格千分ノ三

六 共有物ノ分割 分割ニ因リテ受クル建物ノ價格千分ノ五

七 賃借權ノ取得 建物價格千分ノ一

存續期間十年未満 建物價格千分ノ二

存續期間十年以上 建物價格千分ノ一

存續期間ノ定メナキモノ 建物價格千分ノ一

但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期ヲ以テ

存續期間ト看做シ計算ス 債權金額又ハ建物金額千分ノ六

八 先取特權ノ保存又ハ取得 工事費用豫算金額ヨリ寡キトキハ先取特

但シ債權金額ナキトキ又ハ先取特權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ先取特

權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス 債權金額千分ノ六

九 質權、抵當權ノ取得 債權金額千分ノ六

但シ債權金額ナキトキ又ハ質權、抵當權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ質

權、抵當權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十 競賣、強制管理ノ申立 債權金額千分ノ六

但シ競賣若ハ強制管理ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以

テ債權金額ト看做ス 債權金額千分ノ四

十一 假差押、假處分 但シ假差押、假處分ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ

債權金額ト看做ス 債權金額千分ノ六

十二 抵當アル債權ノ差押 但シ差押ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト

看做ス 債權金額千分ノ六

十三 相續財産ノ分離 所有權ニ付テハ 建物價格千分ノ一

所有權以外ノ權利ニ付テハ 建物價格千分ノ一

十四 請求又ハ申立ニ因リ抹消セラレタル登記ノ回復 建物每一箇 金二十錢

十五 假登記 建物每一箇 金二十錢

十六 附記登記 但シ一件ニ付手数料金三十錢ヲ超ユルトキハ金三十錢トス 建物每一箇 金十錢

十七 登記ノ更正、變更又ハ抹消 但シ一件ニ付手数料金三十錢ヲ超ユルトキハ金三十錢トス 建物每一箇 金十錢

第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル

第三十三條 財團法人又ハ營利ヲ目的トセサル社團法人ニシテ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從

ヒ手數料ヲ納ムヘシ

- 一 法人ノ設立 每一件 金二圓
 - 二 法人設立後ノ事務所設置 每一件 金一圓
 - 三 事務所ノ移轉 每一件 金一圓
 - 四 登記事項ノ變更消滅又ハ廢止 每一件 金一圓
 - 五 登記ノ更正又ハ抹消 每一件 金一圓
 - 六 解散 每一件 金五十錢
 - 七 清算人ノ選任解任又ハ變更 每一件 金五十錢
 - 八 清算ノ結了 每一件 金五十錢
- 主タル事務所ニ非サル事務所所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件金五十錢ノ手數料ヲ納ムヘシ
- 第三十四條 左ノ事項ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納ムヘシ
- 一 民法第七百九十四條第七百九十五條及第七百九十七條ニ依ル登記 每一件 金二圓
 - 二 商號ノ新設又ハ取消 每一件 金二圓
 - 三 支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅 每一件 金二圓
 - 四 商法第五條乃至第七條ニ依ル登記 每一件 金一圓
 - 五 登記事項ノ變更消滅又ハ廢止 每一件 金一圓
 - 六 登記ノ更正又ハ抹消 每一件 金一圓
- 支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件金五十錢ノ手數料ヲ納ムヘシ

第三十五條 商會社其ノ他營利ヲ目的トスル法人ニシテ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ手

數料ヲ納ムヘシ

一 合名會社合資會社設立

財產ヲ目的トスル出資ノ價格

- 一 萬圓マテ 金十圓
- 一 萬五千圓マテ 金十二圓
- 二 萬圓マテ 金十六圓
- 二 萬五千圓マテ 金十九圓
- 二 萬五千圓以上五十萬圓マテハ其ノ二萬五千圓ヲ超ユル金額一萬圓毎ニ金一圓ヲ加算シ五十萬圓以上ハ其ノ五十萬圓ヲ超ユル金額一萬圓毎ニ金五十錢ヲ加算ス
- 二 合名會社合資會社出資増加 財產ヲ目的トスル出資ノ總額ニ對シ前號ニ依リ納付スヘキ手數料額ヨリ既ニ納付シタル設立又ハ出資増加ノ手數料ヲ控除シタル金額
- 三 株式會社株式合資會社設立 拂込株金額又ハ拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格ニ付第一號ニ準ス
- 四 株式會社株式合資會社資本増加及第二回以後ノ株金拂込第二號ニ準ス
- 五 債券發行 債權總金額ニ對シ第一號ニ準ス
- 六 支店設置 每一箇所 金三圓
- 七 本店又ハ支店ノ移轉 每一件 金二圓
- 八 支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅 每一件 金二圓

- 九 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止 每一件 金二圓
 - 十 登記ノ更正又ハ抹消 每一件 金二圓
 - 十一 解散 每一件 金一圓
 - 十二 清算人ノ選任、解任又ハ變更 每一件 金一圓
 - 十三 清算ノ結了 每一件 金一圓
- 支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件金一圓ノ手数料ヲ納ムヘシ
- 第三十六條 不動産登記、法人若ハ夫婦財産契約登記又ハ商業登記ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スルトキハ其ノ用紙一枚ニ付手数料金十錢ヲ納ムヘシ但シ一枚ニ滿タサルモノ亦同シ
 - 第三十七條 非訟事件手續法第二百五條又ハ第四百三條ノ規定ニ依リ登記事項ニ變更ナキコト又ハ或事項ノ登記ナキコトノ證明ヲ請求スルトキハ每一件手数料金十錢ヲ納ムヘシ
 - 第三十八條 不動産登記法第二十一條ノ規定ニ依リ登記簿又ハ其ノ附屬書類ノ閱覽ヲ請求スルトキハ手数料金十錢ヲ納ムヘシ
 - 第三十九條 法人若ハ夫婦財産契約登記又ハ商業登記ニ付登記簿證ノ交付ヲ請求スルトキハ手数料金五錢ヲ納ムヘシ
 - 第四十條 非訟事件手續法第四十二條第一項又ハ第五十七條第一項ノ規定ニ依リ書類ノ謄本ノ交付ヲ請求スルトキハ其ノ謄本一枚ニ付手数料金十錢ヲ納ムヘシ但シ一行二十字詰二十行ヲ以テ一枚トシ十一行以上ハ一枚ニ計算シ十行以下ハ半枚ニ計算ス
 - 第四十一條 前五條ノ規定ハ官吏カ政府ノ利益ノ爲其ノ職務ヲ以テ請求ヲ爲ス場合ニハ之ヲ適用セス

第五章 公證

第四十二條 公正證書ノ作成ヲ申請スルトキハ左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ納ムヘシ

- 一 原本一枚ニ付 金四十錢
 - 二 正本又ハ謄本一枚ニ付 金二十錢
- 但シ一行二十字詰二十行ヲ以テ一枚トシ十一行以上ハ一枚十行以下ハ半枚ニ計算ス
- 三 執行文附與ノ申立 金三十錢
- 第四十三條 公正證書ノ譯文ノ附與ヲ請求スルトキハ關東州裁判費用令第三條ノ翻譯料ヲ手数料トシテ納ムヘシ
 - 第四十四條 公證官吏ノ職務執行ニ關シ抗告ヲ爲ストキハ手数料金五十錢ヲ納ムヘシ
 - 第四十五條 私署證書ニ確定日附ヲ附スルコトヲ請求スルトキハ每一件金十錢ノ手数料ヲ納ムヘシ
 - 第四十六條 拒絕證書ノ作成ヲ請求スルトキハ金二十五錢ノ手数料ヲ納ムヘシ
- 拒絕者ノ營業所又ハ住所ヲ問合セテ拒絕證書ノ作成ヲ請求スルトキハ金五十錢ノ手数料ヲ納ムヘシ
- 第六章 執達
- 第四十七條 書類送達ノ手数料ハ一通ニ付金五錢トス
 - 第四十八條 差押又ハ假差押ニ付テノ手数料ハ左ノ區別ニ依ル
- | | |
|----------------|---------|
| 執行スヘキ債權額金二十圓マテ | 金三十錢 |
| 同 五十圓マテ | 金五十錢 |
| 同 百圓マテ | 金七十五錢 |
| 同 二百五十圓マテ | 金一圓 |
| 同 五百圓マテ | 金一圓二十五錢 |
| 同 千圓マテ | 金一圓五十錢 |

同千圓ヲ超ユルトキハ金二圓トス
 執務三時間以上ニ涉ルトキハ一時間毎ニ前項ニ定メタル手数料ノ十分ノ三ヲ加フ但シ其ノ執務一時間ニ滿タサルモ一時間ト看做シ算定ス
 第四十九條 特定ノ動産若ハ代替物ノ一定ノ數量ノ引渡又ハ不動産ノ引渡若ハ明渡ノ場合ニ於テハ其ノ手数料ヲ金五十錢トス
 執務三時間以上ニ涉ルトキハ一時間毎ニ金十五錢ヲ加フ但シ其ノ執務一時間ニ滿タサルモ一時間ト看做シ算定ス
 第五十條 競賣ニ付テノ手数料ハ左ノ區別ニ從フ但シ競賣ニ依リ得タル金額執行スヘキ債權額ニ超過スルトキハ其ノ債權額ヲ以テ競賣金額ト看做ス
 競賣金額二十圓マテ 金六十錢
 同 五十圓マテ 金一圓
 同 百圓マテ 金一圓五十錢
 同 二百五十圓マテ 金二圓
 同 五百圓マテ 金二圓五十錢
 同 千圓マテ 金四圓
 同千圓以上ハ千圓毎ニ金一圓ヲ加フ
 第五十一條 強制執行ニ關セサル告知及催告ニ付テノ手数料ハ金十錢トス
 第五十二條 拒絕證書ノ作成ニ關シテハ第四十六條ヲ適用ス
 第五十三條 書類ノ謄本下付ニ關スル手数料ハ半枚十二行二十字詰ニ付金三錢トス但シ半枚ニ滿タサルモ亦同シ
 第五十四條 本章ニ定ムル手数料ハ現金ヲ以テ之ヲ納付セシムルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

關東州民事訴訟用印紙規則ハ之ヲ廢止ス

○關東都督府令第五十三號(官報十月九日)

關東州裁判費用令左ノ通相定ム

明治四十一年九月二十八日

關東都督 子爵大島義昌

關東州裁判費用令

第一條 民事刑事ノ訴訟費用及非訟事件ノ費用ハ本令ニ依リ之ヲ算定ス
 第二條 民事ニ關スル訴狀其ノ他總テ書類ノ書記料ハ半枚十二行二十字詰ニ付金三錢トス但シ半枚ニ滿タサルモ亦同シ
 圖面ハ一葉ニ付金十五錢トス但シ別ニ測量ヲ要シタルトキハ其ノ測量費ハ法院又ハ民政署長ノ定ムル所ニ依ル
 第三條 翻譯料ハ半枚十二行二十字詰ニ付金三十錢乃至一圓ノ範圍内ニ於テ法院又ハ民政署長ノ定ムル所ニ依ル
 第四條 裁判手数料ハ關東州裁判手数料令ノ定ムル所ニ依ル
 第五條 民事訴訟法第二百二十七條ノ規定ニ從ヒ辯護士ノ附添ヲ命シタルトキハ其ノ報酬ハ法院又ハ民政署長ノ定ムル所ニ依ル
 第六條 當事者ノ日當ハ出頭一度ニ付金五十錢トス但シ滞在費ヲ給スル場合ニ於テハ金二十五錢トス
 第七條 證人ノ日當ハ出頭一度ニ付金五十錢トス但シ滞在費ヲ給スル場合ニ於テハ之ヲ給セス
 第八條 鑑定人及通事ノ日當ハ出頭一度ニ付金五十錢乃至五圓ノ範圍内ニ於テ法院又ハ民政署長ノ定ムル所ニ依ル

ノ定ムル所ニ依ル但シ鑑定又ハ通辯ニ付數多ノ時間又ハ特別ノ技能若ハ費用ヲ要スルトキハ日
當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給スルコトヲ得

第九條 當事者ノ滞在費ハ滿三里以外ノ地ヨリ來リ滞在スルトキハ一日金五十錢トシ證人、鑑定
人及通事ノ滞在費ハ一日金一圓トス

第十條 當事者、證人、鑑定人及通事ノ旅費ハ汽車賃一哩ニ付金五錢船賃一海里ニ付金五錢車馬賃
一里ニ付金三十錢トス

通路兩線以上アルトキハ最近ノ通路ヲ以テ旅費ヲ算定ス

第十一條 職權ヲ以テ爲ス證據調ノ費用ハ國庫ニ於テ之ヲ立替フルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ法
院又ハ民政署長ハ立替金ノ辨償ヲ其ノ負擔スヘキ者ニ命スヘシ

前項命令ノ執行ニ關シテハ民事ノ裁判執行ニ關スル規定ヲ準用ス但シ執行ヲ爲ス前命令ノ送達
ヲ爲スコトヲ要セス

第十二條 強制執行ニ關シ保管人又ハ管理人ヲ任命シタルトキハ其ノ費用ハ民政署長ノ定ムル所
ニ依ル

第十三條 強制執行ニ關シ證人又ハ鑑定人ヲ呼出シタルトキハ其ノ費用ハ第七條乃至第十條ニ準
シ執達吏ノ職務ヲ行フ者ノ定ムル所ニ依ル

第十四條 前數條ニ定メサル必要ノ費用ハ其ノ實費ニ依ル

第十五條 證人、鑑定人及通事ノ旅費、日當、滞在費ハ訊問期日又ハ鑑定ヲ終リタル後五日ノ期間内
ニ請求スルヲ要ス

第十六條 刑事訴訟ニ關シ證人、鑑定人及通事ニ給與スヘキ日當、旅費、滞在費等ノ費用ニ付テハ第
七條乃至第十條ヲ適用ス

前項ノ費用ハ豫審ニ於テハ其ノ終結前公判ニ於テハ其ノ判決前ニ本人ヨリ請求スルニ非サレハ
之ヲ給セス

第十七條 前條第一項ノ規定ハ檢事ノ職務ヲ行フ者ノ呼出シタル證人、鑑定人及通事ニ之ヲ適用
ス但シ刑事訴訟費用ニ之ヲ算入セス

第十八條 非訟事件ニ關スル費用ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外本令ニ準シ之ヲ算定ス

附則
本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

○關東都督府令第五十四號(官報十月九日)
辯護士名簿登錄ニ關スル件左ノ通相定ム

明治四十一年九月二十八日 關東都督 子爵大島義昌

第一條 辯護士名簿ニ登錄ヲ請フ者ハ登錄請求書ヲ地方法院檢察官ヲ經由シテ關東都督ニ差出ス
ヘシ其ノ取消ノ請求ヲ爲ストキ亦同シ

第二條 地方法院檢察官登錄請求書ヲ受理シタルトキハ辯護士法第二條乃至第六條ノ要件ヲ調査
シ意見ヲ附シ之ヲ關東都督ニ差出スヘシ

第三條 辯護士名簿ノ登錄及其ノ取消ハ關東都督ノ命令ニ因リ地方法院檢察官之ヲ爲ス
辯護士死去シタルトキ辯護士法第五條ニ該當シタルトキ又ハ懲戒處分ニ因リ除名セラレタルト
キハ地方法院檢察官ハ辯護士會長ノ申告ニ因リ又ハ職權ヲ以テ直ニ登錄ノ取消ヲ爲スヘシ

第四條 辯護士名簿ニハ左ノ諸件ヲ記入スヘシ
一 辯護士ノ族籍、氏名、年齡
一 登錄ノ年月日
一 辯護士會加入ノ年月日

一 事務所

一 懲戒

第五條 地方法院檢察官辯護士名簿ニ登錄ヲ爲シタルトキハ其ノ登錄ノ番號及年月日ヲ關東都督ニ報告シ且之ヲ本人ニ通知スヘシ登錄ヲ取消シタルトキ亦同シ

第六條 辯護士名簿ニ登錄ヲ爲シタルトキ又ハ登錄ヲ取消シタルトキハ關東都督ハ府報ヲ以テ之ヲ公告ス

第七條 辯護士會長ハ辯護士會ニ加入シタル者ノ氏名及加入ノ年月日ヲ地方法院檢察官ニ届出ヘシ

第八條 左ノ事項ニ付辯護士名簿ニ登錄ヲ請求スルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄手数料ヲ納ムヘシ

一 登錄 金二十圓

一 登錄取消ノ請求 金一圓

手数料ハ收入印紙ヲ登錄請求書ニ貼用シテ之ヲ納ムヘシ

附則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

○關東都督府令第五十五號(官報十月九日)

法人ノ設立及監督ニ關スル規程左ノ通相定ム

明治四十一年九月二十八日

關東都督 子爵大島義昌

第一條 社團又ハ財團ヲ民法第三十四條ニ依リ許可ヲ得テ法人ト爲サムトスルトキハ其ノ設立者ニ於テ社團ニ在リテハ定款、資産ノ總額及社員ノ員數財團ニ在リテハ寄附行爲及資産ノ總額ヲ具シタル申請書ヲ關東都督ニ差出スヘシ社團法人ニシテ其ノ定款ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第二條 法人ノ設立者及法人ヨリ關東都督ニ差出スヘキ書類ハ總テ其ノ主タル事務所所在地ノ民

政署長ヲ經由スヘシ

第三條 法人ハ其ノ設立ノ許可ヲ受ケタルトキハ左ニ掲クル事項ヲ遲滞ナク關東都督ニ届出ヘシ其ノ第一號ノ事項中ニ變更ヲ生シタルトキ亦同シ

一 理事又ハ監事ノ氏名住所

二 財産目錄及社團法人ニ在リテハ社員ノ員數

第四條 法人ハ毎年四月三十日マテニ左ニ掲クル事項ヲ關東都督ニ届出ヘシ但シ特ニ事業年度ヲ設クルモノハ第一號ニ付テハ其ノ年度末ノ調査ニ依リ第二號乃至第五號ニ付テハ其ノ前年度中ノ事項ヲ其ノ年度ノ終ヨリ三十日以内ニ届出ヘシ

一 毎年初ノ三箇月内ニ作リタル財産目錄

二 社團法人ニ在リテハ入社又ハ退社ノ社員ノ員數

三 法人ノ目的タル業務ノ狀況

四 收支金額及其ノ費目

第五條 民政署長ハ法人ノ業務ヲ監督スヘシ

第六條 民政署長ハ法人ヨリ監督上必要ナル報告ヲ徴シ又ハ實地ニ就キ其ノ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

前項ニ依リ徴シタル報告又ハ實地ニ就キ爲シタル検査ノ成績ハ遲滞ナク之ヲ關東都督ニ報告スヘシ

第七條 民政署長ハ法人ニ於テ民法第七十一條ニ該當スル行爲アリト認ムルトキハ其ノ事由ヲ具シテ關東都督ニ報告スヘシ

附則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

○關東都督府令第五十六號(官報十月九日)
水産業ニ關スル會社又ハ組合監督ノ件左ノ通相定ム

明治四十一年九月二十八日

- 關東都督 子爵大島義昌
- 第一條 水産業ニ關シ會社又ハ組合ヲ設ケムトスルトキハ關東都督ノ認可ヲ受クヘシ
 - 第二條 關東都督ハ會社又ハ組合ノ監督ニ關シ必要ナル命令ヲ發スルコトアルヘシ
 - 第三條 會社又ハ組合カ法令定款若ハ關東都督ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ關東都督ハ其ノ事業ノ停止若ハ取締役ノ改選ヲ命シ又ハ認可ヲ取消スコトアルヘシ

附則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

○關東都督府令第五十七號(官報十月九日)

關東州罰金及答刑處分令施行細則左ノ通相定ム

明治四十一年九月三十日

關東都督 子爵大島義昌

關東州罰金及答刑處分令施行細則

- 第一條 答刑ノ言渡ヲ受ケタル被告人關東州内ニ一定ノ住居ヲ有セス又ハ逃走ノ虞アルトキハ勾留狀ヲ發シテ監獄民政署又ハ民政支署ニ拘留スルコトヲ得
- 第二條 答刑ヲ執行セムトスルトキハ醫師ヲシテ毎回受刑者ノ身體ヲ診査セシメ其ノ健康答刑ヲ受クルニ堪ヘ難キモノト認ムルトキハ執行ヲ猶豫スヘシ但シ醫師ヲシテ診査セシムルコト能ハサルトキハ立會官吏ノ認定ニ依リ直ニ執行シ又ハ其ノ猶豫ヲ爲スコトヲ得
- 第三條 執行猶豫ノ爲受刑者ヲ拘留セサルトキハ其ノ住居ノ場所ヲ定メ指定ノ期日ニ出頭スヘキコトヲ誓ハシメ相當ノ保證人ヲ立テシムヘシ
- 第四條 答刑執行中受刑者ノ身體健康ニ著シキ危害アリト認ムルトキハ之ヲ停止シ必要ノ場合ニ

ハ第二條ノ手續ヲ爲スヘシ

- 第五條 答刑ヲ免シ又ハ答刑ノ執行ヲ免スル處分ハ檢事ノ職務ヲ行フ者之ヲ行フ
- 第六條 答刑ハ典獄又ハ監吏立會ヒ受刑者ニ答刑ヲ執行スヘキコト並其ノ答數ヲ告知シタル後看守又ハ押丁ヲシテ之ヲ執行セシム但シ民政署又ハ民政支署ニ於テハ警部又ハ巡查部長立會ヒ巡查又ハ巡捕ヲシテ之ヲ執行セシム
- 第七條 答刑ハ大祭祝日並日出前日没後ハ之ヲ執行スルコトヲ得ス
- 第八條 答刑執行中ハ執行ニ關スル者ノ外其ノ場内ニ入ルコトヲ得ス但シ立會官吏ノ許可ヲ得タル者ハ此ノ限ニ在ラス
- 第九條 答刑ノ執行ヲ受クヘキ者同時ニ二人以上アルトキハ一人宛執行シ其ノ間他ノ受刑者ヲ執行ノ場所ニ入ラシムヘカラス
- 第十條 答刑執行二回以上ニ亙ルトキハ連日ニ之ヲ執行スヘシ但シ便宜隔日ニ之ヲ執行スルコトヲ得
- 第十一條 答刑ノ執行了リタルトキハ立會官吏其ノ始末書ヲ作り之ニ署名捺印スヘシ
- 第十二條 答刑執行ノ用ニ供スル答ハ長サ一尺八寸厚サ二分五厘潤サ答頭七分答柄四分五厘ニシテ竹片ヲ以テ之ヲ作り疎節ヲ削除シ麻ヲ以テ縦ニ之ヲ裹ミ答頭ハ斷餘ヲ片頭ニ一寸二分ヲ剩シ答柄ハ六分ヲ剩シ麻絲ヲ以テ密ニ其ノ外部ヲ纏繞シ一纏毎ニ背部ニ交結シテ以テ一條稜ヲ成シ長サ五寸布片ヲ以テ其ノ答柄ヲ包ミ外徑ハ答頭二寸三分答柄一寸五分トス

附則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

○關東都督府令第五十八號(官報十月十四日)

警察犯處罰令左ノ通相定ム

明治四十一年十月一日

關東都督 子爵大島義昌

左ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

- 一 警察取締上ノ制止ヲ肯セサル者
- 二 正當ノ理由ナクシテ官署ノ召喚ニ應セサル者
- 三 水火其ノ他ノ變ニ際シ官吏ヨリ防禦スヘキ求メヲ受ケ之ニ應セサル者
- 四 許可ヲ受ケステ左ノ行爲ヲナシタル者
 - 一 工場湯屋其ノ他營業ノ用ニ供スル蒸汽器械煙筒火竈ヲ建設修理シタル者
 - 一 劇場其ノ他ノ觀物場ヲ開キタル者
 - 一 煙火ヲ製造シ又ハ販賣シタル者
 - 一 火藥類ヲ運搬シタル者
- 五 濫リニ人家稠密ノ場所ニ於テ煙火其ノ他ノ火器ヲ玩ヒタル者
- 六 濫リニ人家ノ近傍又ハ山林原野ニ於テ火ヲ焚ク者
- 七 官署ノ督促ヲ受ケテ崩壞セムトスル家屋其ノ他ノ建造物ノ修理ヲ爲ササル者
- 八 官署ノ命令ヲ受ケテ煙筒ノ掃除ヲ爲ササル者
- 九 流言浮説ヲ爲シテ人ヲ誑惑シタル者
- 十 妄リニ吉凶禍福ヲ說キ又ハ祈禱符呪ヲ爲シ利ヲ圖ル者
- 十一 人ノ看守セサル建造物内ニ潛伏シタル者
- 十二 物品ヲ強賣シ又ハ強テ技藝ヲ演シテ報酬ヲ求ムル者
- 十三 許可ヲ受ケステ金錢物品ノ寄附惠與ヲ勸誘募集スル者
- 十四 購讀申込ミナキ出版物ヲ配布シ又ハ掲載ノ申込ミナキ廣告ヲ掲載シテ其ノ代價ヲ要求シ又ハ強テ廣告ノ依頼ヲ要求シタル者
- 十五 祠廟佛堂其ノ他公ノ建造物ヲ汚損シタル者

- 十六 一定ノ生業ナク諸方ニ徘徊スル者
- 十七 宿屋下宿屋ニ於テ氏名ヲ詐稱シタル者
- 十八 酩酊シテ路上ニ喧噪シ又ハ醉臥シタル者
- 十九 道路ニ於テ放歌高聲ヲ發シ制止ヲ肯セサル者
- 二十 路上ニ於テ賭博ニ類スル商業ヲ爲シタル者
- 二十一 市街又ハ曠見シ得ヘキ場所ニ於テ醜體ヲ露ハシタル者
- 二十二 密ニ賣淫ヲ爲シ又ハ其ノ媒合容止ヲナシタル者
- 二十三 道路ニ於テ車馬ノ練習若ハ遊戯ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者
- 二十四 許可ヲ受ケステ道路ニ露店又ハ小屋掛ヲ爲シタル者
- 二十五 諸車商品其ノ他ノ物件ヲ横タヘ通行ノ妨害ヲ爲シタル者
- 二十六 交通ノ妨害トナルヘキ井溝凹所又ハ木石其ノ他ノ堆積物ニ防圍ヲ設ケス又ハ夜間點燈ヲ爲ササル者
- 二十七 犬其ノ他ノ獸類ヲ嘍シ又ハ驚逸セシメタル者
- 二十八 濫リニ鐵道線路ヲ通行シタル者
- 二十九 狂犬猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ路上ニ放チタル者
- 三十 濫リニ車馬ヲ疾驅シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
- 三十一 瓦礫ヲ道路家屋汽車圍圍ニ投擲シタル者
- 三十二 制止ヲ肯セステ人ノ群集シタル場所ニ車馬ヲ牽入レタル者
- 三十三 夜中燈火ナクシテ車馬ヲ使用シタル者
- 三十四 人道ニ車馬ヲ牽入レタル者
- 三十五 濫リニ街燈ヲ消シタル者

- 三十六 通行禁止其ノ他榜示ノ禁條ヲ犯シタル者
- 三十七 發狂人ノ看守ヲ怠リ路上ニ徘徊セシメタル者
- 三十八 許可ヲ受ケスシテ死屍ヲ解剖シタル者
- 三十九 自己ノ所有地内ニ死屍アルコトヲ知テ官ニ申告セズ又ハ他所ニ移シタル者
- 四十 許可ヲ受ケスシテ死屍ヲ埋葬シ又ハ改葬シタル者
- 四十一 濫リニ瓦礫、塵芥、汚物又ハ禽獸死屍ヲ投棄シタル者
- 四十二 飲用ヲ禁シタル水ヲ飲料ニ販賣シタル者
- 四十三 不熟ノ菓物又ハ腐敗シタル飲食物ヲ販賣シタル者
- 四十四 市街ニ於テ便所外ニ尿尿ヲ爲シタル者又ハ爲サシメタル者
- 四十五 官署ノ督促ヲ受ケ掃除ヲ爲ササル者
- 四十六 他人ノ繫キタル牛馬其ノ他ノ獸類若ハ船舶ヲ解放シタル者
- 四十七 電柱、橋梁、揚示場、樹木、圍柵、其ノ他公用ノ建造物ニ牛馬ヲ繫キタル者
- 四十八 禁止標、境界標、指導標及看板標札廣告札等ノ類ヲ毀棄汚損シタル者
- 四十九 渡船、橋梁、其ノ他ノ場所ニ於テ定價以上ノ通行錢ヲ取り又ハ故ナク通行ヲ妨ケタル者

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
軍政署違警罪目ハ之ヲ廢止ス

○關東都督府令第五十九號(官報十月二十二日)
旅順及大連水道專用消火栓規則左ノ通相定ム

明治四十一年十月十二日

關東都督 子爵大島義昌

- 第一條 旅順及大連水道專用消火栓規則
- 第一條 專用消火栓ヲ設置セムトスル者ハ水道管理者ニ請求スヘシ

- 第二條 專用消火栓ニ接續スヘキ給水管其ノ他ノ裝置ハ水道管理者ノ承認ヲ受ケ給水請求者自ラ之ヲ爲スヘシ其ノ増設、變更亦同シ但シ特別ノ場合ニ限り水道管理者ハ費用ヲ徵收シテ材料ノ給付及其ノ裝置ヲ爲スコトアルヘシ
- 第三條 專用消火栓ハ水道管理者ニ於テ封緘ヲ附ス
封緘ニ異狀ヲ生シタルトキハ直ニ水道管理者ニ届出ヘシ
- 第四條 專用消火栓ハ火災又ハ演習ノ外開閉スヘカラス
演習ノ爲専用消火栓ヲ使用セムトスルトキハ水道管理者ノ承認ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ演習使用料ヲ徵收ス
- 第五條 火災ノ爲専用消火栓ヲ使用シタルトキハ直ニ水道管理者ニ届出ヘシ
- 第六條 專用消火栓演習使用料ハ一栓一回毎十分時間ニ金三圓トシ之ヲ豫納セシム其ノ十分時間ニ滿タサルトキ亦同シ
- 第七條 左ノ各號ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
一 第二條ノ承認ヲ受ケスシテ接續裝置ヲ爲シ又ハ増設、變更シタル者
二 第四條第二項ノ承認ヲ受ケスシテ専用消火栓ヲ使用シタル者
三 第三條第二項及第五條ノ届出ヲ怠リタル者
- 第八條 本令ニ規定スルモノノ外旅順及大連水道給水規則ヲ適用ス

附則

本令ハ明治四十一年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○關東都督府令第六十號(官報十月二十二日)
旅順及大連水道給水規則中左ノ通改正ス

明治四十一年十月十二日

關東都督 子爵大島義昌

- 第二條第三號又ハ一箇所ヲ若ハ一箇所又ハ數戸若ハ數箇所ニ改ム

第十條第一項私設共用栓ノ下ニ又ハ共用ノ計量給水ヲ加フ
第十四條第二十九條第四號及第三十一條第六號ハ之ヲ削除ス
第三十九條第二項ヲ左ノ如ク改ム

量水器使用料ハ一箇月ニ滿タサル場合ト雖全月分ヲ徵收ス但シ給水日數十日ニ滿タサルトキハ之ヲ徵收セズ

附則

本令ハ明治四十一年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

關東都督府令第七十五號旅順及大連水道給水規則(明治四十一年一月四日官報)抄錄

第二條 給水ヲ分テテ左ノ三種トス

三 計量給水 一戸又ハ一箇所ノ專用ニ屬シ水量ヲ計リテ供給スルモノ

第十條第一項

私設共用給水栓ヲ使用セムトスル者ハ總代人ヲ定メ給水ノ請求、廢止、中止及水料工費ノ納付等諸般ノ事務ヲ處辨セシム

第十四條 專用消火栓ヲ設置セムトスル者ハ水道管理者ニ請求スヘシ

專用消火栓ハ火災又ハ使用演習ノ外開閉スヘカラス

演習ノ爲專用消火栓ヲ使用セムトスルキハ水道管理者ノ承認ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ演習使用料ヲ徵收ス

第二十九條 左ノ各號ノ場合ニハ私設共用給水ニ關シテハ總代人ヨリ其ノ他ハ給水請求者又ハ使用者ヨリ各五日以内ニ水道管理者ニ届出ツヘシ但シ第六號第七號ノ場合ハ關係者連署スルヲ要ス若シ連署スル能ハサル事故アルトキハ其ノ旨届出ツヘシ

四 火災ノ爲專用消火栓ヲ使用シタルトキ

第三十一條 料金ハ左ノ區分ニ依リ徵收ス

六 專用消火栓演習使用料

一回一口 金五圓

第三十九條第二項

量水器ノ設置及撤去ノ月ハ各全月分ヲ徵收ス

○統監府令第四十六號(官報十一月五日)

明治三十九年十一月十二日統監府令第五十號大貨物賃金表中斤扱及噸扱大貨物及動物賃率計算方三號ヲ左ノ通改正ス

本令ハ明治四十一年十一月十六日ヨリ之ヲ施行ス

統監代理

副統監 子爵曾禰荒助

明治四十一年十月二十日

三 左記ノ品種ヲ高價品トシ其ノ賃金ハ本表ノ五割増トス

生絲、毛絲、絹絲、柞蠶絲、絹織物、毛織物、縫織物、毛皮類、時計、美術工藝品、小間物、化粧及裝飾品、

書畫、骨董品、鏡、眼鏡、樂器、銃、短銃、刀、劍、藥品、天秤、器械(醫療、理化學、觀象、電氣、測量、潛水、寫

真、裁縫、莫大小等)、銅貨

其ノ他重量百斤ノ價格金百圓以上ノ貨物

(○統監府令第四十七號(官報十一月二十一日))

明治四十一年統監府令第九號中「四十二人」ヲ「六十五人」ニ改ム

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十一年十一月十五日

統監代理

副統監 子爵曾禰荒助

〔參照〕

統監府令第九號(明治四十一年四月二十日官報)抄錄

理事廳看守ノ定員ハ通シテ四十二人トス

○統監府令第四十八號(官報十一月二十四日)

在外指定學校職員俸給規則左ノ通定ム

明治四十一年十一月十七日

統監代理

副統監 子爵曾禰荒助

在外指定學校職員俸給規則

- 第一條 奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル中學校、高等女學校及實業學校ノ職員ノ年俸ハ第一號表ニ依ル
- 第二條 判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル中學校、高等女學校及實業學校ノ職員ノ月俸ハ第二號表ニ依ル
- 第三條 小學校若ハ實業補習學校ノ學科ヲ授クル學校ノ職員ノ月俸ハ第三號表ニ依ル
- 第四條 月俸三十圓未満ノ職員ニハ級俸ニ拘ラス適宜ノ金額ヲ定メ之ヲ支給スルコトヲ得但シ各所定ノ最低俸給額ヲ下ルコトヲ得ス
- 第五條 一級俸ヲ受ケ在職三箇年以上ニ至リ特ニ功勞アル職員ニハ本俸三分ノ一以下ノ加俸ヲ給スルコトヲ得
- 第六條 教員ニシテ舍監ヲ兼ヌル者ニハ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得
- 第七條 二校以上ノ職員ヲ兼ヌル者ニハ其ノ俸給ヲ分割シテ關係學校ノ經費中ヨリ之ヲ支給スルコトヲ得
- 第八條 陸軍給與令又ハ海軍給與令ニ依リ俸給ヲ受クル職員ニハ其ノ間俸給ヲ支給セス但シ其ノ俸給額職員ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ヲ給スルコトヲ得
- 第九條 俸給ハ每級在職一年以上ニ至ラサレハ増給スルコトヲ得但シ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル職員ニシテ年俸六百圓以下ノ者及判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル職員ニシテ月俸三十五圓以下ノ者ハ此ノ限ニ在ラス
- 第十條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合又ハ轉任ノ場合ニ於テ支給スル俸給ハ前職ノ俸給額

- ニ相當スル俸給以下トス若相當額ナキトキハ其ノ最近キ上級ノ俸給以下トス但シ前職等級在職一年ヲ踰ヘタル者ニ在リテハ一級ヲ進ムルコトヲ得
- 前項ノ規定ハ年俸七百圓以下又ハ月俸四十圓以下ノ俸給ヲ支給スル場合ニハ之ヲ適用セス
- 第十一條 休職者ニハ俸給ヲ支給セス但シ戰時又ハ事變ニ際シ召集セラレタルカ爲休職ト爲リタル場合ニハ俸給ノ一部、其ノ他特別ノ事情アル場合ニハ其ノ三分ノ一以下ヲ給スルコトヲ得
- 第十二條 特別ノ事情ニ因リ第九條及第十條ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於テハ理事官ハ統監ノ指揮ヲ受ケ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得
- 第十三條 在職中死亡シタルトキハ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ニ在リテハ年俸三分ノ一判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ニ在リテハ月俸三箇月分ヲ其ノ遺族ニ給ス休職者亦同シ但シ遺族トハ官吏遺族扶助法ニ於テ遺族ト稱スル者ヲ謂フ

附則

本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年統監府令第五十三號在外指定學校職員俸給規則ハ之ヲ廢止ス

第一號表

職名	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級	十三級	十四級
學 校 長	二千二百圓	二千四百圓	二千六百圓	二千八百圓	三千圓	三千二百圓	三千四百圓	三千六百圓	三千八百圓	四千圓	四千二百圓	四千四百圓	四千六百圓	四千八百圓
教 諭	二千圓	二千二百圓	二千四百圓	二千六百圓	二千八百圓	三千圓	三千二百圓	三千四百圓	三千六百圓	三千八百圓	四千圓	四千二百圓	四千四百圓	四千六百圓

第二號表

職名	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
學 校 長、教 諭	百圓	八十圓	七十圓	六十圓	五十圓	四十圓	三十五圓	三十圓	二十五圓	二十圓

第三號表

助教諭、舎 監書記	七十五圓	六十圓	五十圓	四十五圓	四十圓	三十五圓	三十圓	二十五圓	二十圓	十五圓
職名	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
學校長、訓導	七十五圓	六十圓	五十圓	四十五圓	四十圓	三十五圓	三十圓	二十五圓	二十圓	十五圓
准訓導	三十圓	二十五圓	二十圓	十五圓	十二圓					

○臺灣總督府令第六十六號(官報十一月二十一日)

明治三十七年^四府令第四十號臺灣鹽田規則施行細則中第十一條ヲ削ル

明治四十一年十一月十三日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

〔參照〕

臺灣總督府令第四十號臺灣鹽田規則施行細則(明治三十七年四月十二日官報)抄録

第一條 鹽田ヲ開設セントスル者ハ起業ノ方法並四圍ノ境界ヲ明記セル實測圖ヲ添ヘ第一號書式ニ依リ地方廳ヲ經由シ臺灣總督ノ許可ヲ受ケヘシ

第十一條 第一條ニ依リ許可スヘキ區域ハ別ニ之ヲ告示ス

○臺灣總督府令第六十七號(官報十一月二十八日)

臨時臺灣工部局職員徽章佩用規程左ノ通相定ム

明治四十一年十一月二十日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

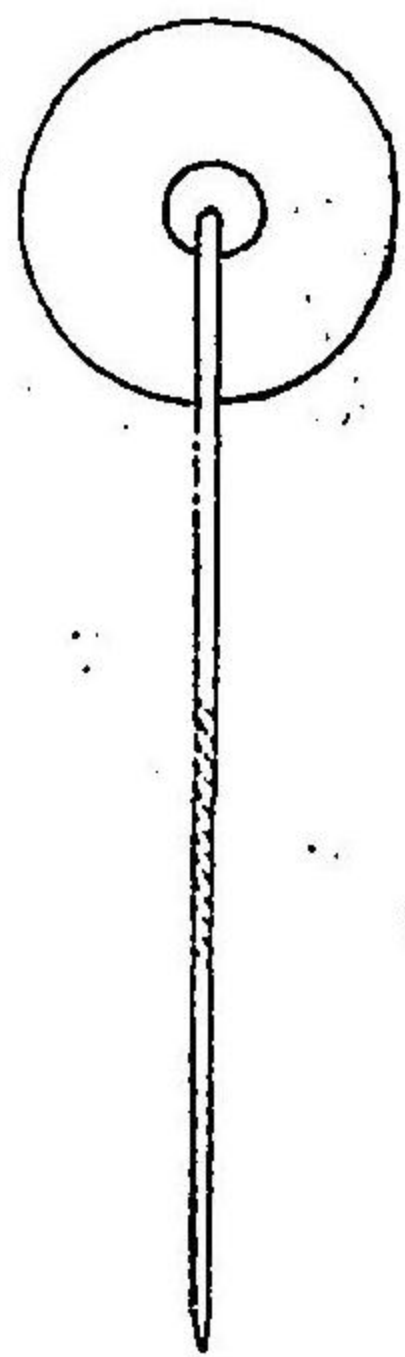
臨時臺灣工部局職員徽章佩用規程

第一條 臨時臺灣工部局職員ニシテ電氣ノ營業、電氣工作物ノ維持保存並電氣ニ關スル物品ノ出納保管ニ直接從事スル者ニ限リ左圖ノ徽章ヲ佩用セシム

面 表



面 裏



圖解

大サ直徑五分五厘中心白字ハ銀色ノ線取内赤色電光及輪廓銀色其ノ空面ハ紺色

第二條 徽章ハ職務ヲ執行スル場合ノ外佩用スルコトヲ得ス但シ資格ヲ表スルノ必要アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條 徽章ハ制服其ノ他ノ洋服ニ在リテハ上衣左胸部、和服ニ在リテハ上衣袷劍尖ニ之ヲ附スヘシ

第四條 徽章ハ之ヲ佩用者ニ貸與シ現職ヲ離レタルトキハ直ニ返納セシムルモノトス

第五條 貸與ヲ受ケタル徽章ヲ失ヒ又ハ毀損シタルトキハ之ヲ辨償セシム但シ故意怠慢ニ依ラサル事實明瞭ナルモノハ之ヲ免除スルコトアルヘシ

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○關東都督府令第六十一號(官報十一月二日)

明治四十一年^六府令第三十六號關東都督府中央試驗所試驗規程中左ノ通改正ス

明治四十一年十月二十二日

關東都督 子爵大島義昌

第二條中第十四號「檢定試驗」ノ下ニ「及粘土、土壤ノ器械分析」ヲ加ヘ第十六號「龜裂」ノ下ニ「及石灰製出量」ヲ加フ

第三條中第七號但書ヲ削リ第八號「鑛產物」ノ下ニ「粘土」ヲ「肥料」ノ下ニ「飼料」ヲ加ヘ第十二號「檢定

試驗ノ下ニ及粘土、土壤ノ器械分析ヲ第十三號(龜裂)ノ下ニ及石灰製出量ヲ加ヘ同條末尾ニ左ノ一項ヲ加フ

關東都督府中央試驗所検査證ノ貼付ヲ請フモノハ一箇ニ付金二錢ヲ納付スヘシ

〔參照〕

關東都督府令第三十六號(關東都督府中央試驗所試驗規程(明治四十一年七月十六日官報)抄錄)

第二條 供試品ノ分量ハ左ノ區別ニ依ル但シ必要ノ場合ニ於テハ増量セシムルコトアルヘシ

十四 粘土、耐火煉瓦ノ耐火度、吸水量又ハ收縮度ノ檢定試驗 每一件 一斤以上又ハ二箇以上

十六 セメントノ比重、凝結度、粉末細度、膨脹又ハ龜裂ノ檢定試驗 每一件 三十斤以上

第三條 分析試驗又ハ鑑定ノ手數料ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ納付スヘシ

七 藥品ノ藥用適否試驗 每一件 金一圓以上金五圓以下

但シ關東都督府中央試驗所ノ検査證ヲ貼付スルモノハ一箇ニ付金二錢

何レノ藥局方ニモ記載ナキ新規藥品ノ性質試驗 每一件 金二圓以上金十圓以下

八 水水、鐵炭、礦物、鹽產物、土壤、肥料ノ定性分析 一成分金一圓 一成分ヲ増ス毎ニ金五十錢ヲ加フ

十二 粘土、煉瓦、建築用石材類ノ吸水度、耐火度、收縮度、耐伸強、耐壓強又ハ凍寒ニ於ケル變化ノ檢定試驗 每一件 金一圓以上金十圓以下

十三 セメントノ比重、凝結度、粉末細度、耐伸強、耐壓強、膨脹又ハ龜裂ノ檢定試驗 每一件 金一圓以上金十圓以下

○關東都督府令第六十二號(官報 十一月十二日)

關東都督府民政署ノ名稱、位置管轄區域左ノ通改正ス

明治四十一年十一月一日

關東都督 子爵大島義昌

關東都督府民政署名稱位置管轄區域

名	稱	位	置	管	轄	區	域
大連民政署		大連市街		元關東州民政署直轄區域内一圓及元金州民政署管轄區域内一圓			
旅順民政署		旅順市街		元關東州民政署旅順支署管轄區域内一圓			

附則

本令ハ明治四十一年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○關東都督府令第六十三號(官報 十一月十二日)

大連民政署管内ニ支署ヲ設置シ其ノ名稱、位置及管轄區域左ノ通相定ム

明治四十一年十一月一日

關東都督 子爵大島義昌

名	稱	位	置	管	轄	區	域
大連民政署金州支署		金州城内		元金州民政署管轄區域内一圓但シ大連灣會、華鎮堡會ヲ除ク			

附則

本令ハ明治四十一年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○關東都督府令第六十四號(官報 十一月十二日)

大連民政署金州支署長ハ其ノ管轄區域内ニ於テ民政署長ニ屬スル裁判事務ヲ取扱フ

附則

本令ハ明治四十一年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十一年十一月一日

關東都督 子爵大島義昌

○關東都督府令第六十五號(官報 十一月二十五日)

代書業取締規則左ノ通相定ム

關東都督 子爵大島義昌

明治四十一年十一月十二日

關東都督 子爵大島義昌

代書業取締規則

第一條 本令ニ於テ代書業ト稱スルハ他人ノ委託ヲ受ケ報酬ヲ得テ文書ノ代書ヲ業トスル者ヲ謂フ
第二條 代書業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ各號ヲ具シ自筆ノ履歷書ヲ添ヘ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ

- 一 原籍、住所、氏名、年齢
- 二 業務所及出張所ノ位置
- 第三條 左ノ場合ニ於テハ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ
 - 一 業務所若ハ出張所ヲ變更シ又ハ出張所ヲ新設廢止シタルトキ
 - 二 住所氏名ヲ變更シタルトキ
 - 三 廢業シタルトキ
- 第四條 代書業ノ許可ヲ受ケサル者ヲシテ其ノ業務ヲ幫助セシムトスルトキハ其族籍、住所、氏名ヲ記シ所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ
- 第五條 前條代書業ニ關スル幫助者ノ行爲ニ就テハ使用者タル本人其ノ責ニ任スヘシ
但シ幫助者ノ使用ヲ罷メ又ハ其ノ住所氏名ヲ變更シタルトキハ其ノ使用者ヨリ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ
- 第六條 代書業者ハ左記雛形ノ看板ヲ業務所及出張所ノ門戸ニ掲グヘシ

ハ	第	號
○	代	書
業	所	氏
名		

- 第七條 代書料ノ定率ハ字數及行數ニ依リ所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ代書料ノ定率ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
- 第八條 代書料ハ業務所又ハ出張所ノ賭場キ場所ニ揭示スヘシ
- 第九條 代書業者ハ代書事件簿ヲ調製シ代書シタル文書ノ要領、年月日、紙數代書料委託者ノ住所氏名ヲ記載スヘシ

- 前項ノ代書事件簿ハ所轄警察官署ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ破棄スルコトヲ得ス
- 第十條 代書業者ハ左ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ス
- 一 訴訟ノ勸誘、鑑定又ハ紹介ヲ爲シ其ノ他法令ノ規定ニ依リ特ニ權能ヲ有スル場合ノ外他人ノ紛議ニ干與スルコト
 - 二 名義ノ如何ヲ問ハス許可ヲ受ケタル代書料ノ外報酬ヲ請求シ又ハ之ヲ受クルコト
 - 三 代書委託者ノ印形又ハ其ノ署名又ハ檢印若ハ捺印シタル白紙ヲ預ルコト
 - 四 同一事件ニ就キ當事者雙方ノ委託ヲ受ケ代書スルコト
 - 五 受託事件ニ關シ事實ノ虛構ヲ教唆シ若ハ委託ニ反スル代書ヲ爲スコト
 - 六 他人ヲシテ代書ノ業務ヲ取扱ハシムルコト
 - 七 業務所又ハ出張所ヲ他人ノ訴訟事務取扱ノ場所ニ供シ若ハ他人ノ訴訟事務取扱所内ニ業務所又ハ出張所ヲ設クルコト
 - 八 業務所又ハ出張所外ニ於テ業務ヲ取扱フコト
 - 九 正當ノ理由ナクシテ代書ノ委託ヲ拒ミ又ハ文書圖面ノ作製ヲ遲延スルコト
 - 第十一條 代書業者ハ其ノ代書シタル文書ノ末尾又ハ欄外ニ署名捺印スヘシ
但シ他ノ法令ニ於テ別ニ書式ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス
 - 第十二條 警察官吏ハ代書事件簿ノ檢閲ヲ爲スコトアルヘシ
 - 第十三條 代書業者本令ニ違背シ又ハ不正ノ所業アリト認ムルトキハ所轄警察官署ハ其ノ業務ヲ停止シ又ハ許可ヲ取消スコトアルヘシ
 - 第十四條 前條ノ處分ヲ受ケタル者ニシテ代書業ヲ爲シ又ハ本令ノ規定ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則

本令施行ノ際現ニ代書業ヲ爲ス者ハ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ本令ノ手續ヲ爲スヘシ
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○統監府令第四十九號(官報 十二月一日)
明治四十一年九月統監府令第三十七號電話規則中左ノ通改正ス

統監代理

副統監 子爵曾禰荒助

明治四十一年十一月二十五日

第八條第三號ヲ左ノ如ク改ム

三 統監府通信管理局(以下單ニ通信管理局トス)ノ指示スル所ニ從ヒ電話開通ニ必要ナル設備ヲ負擔シ之

ヲ同局ニ引渡スモノ

第二十二條 第八條第一號ノ認可ヲ受ケタル加入申込者又ハ加入者ノ名義ハ他人ノ名義ニ之ヲ變

更スルコトヲ得ス但シ通信管理局長ノ認可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條第三號中撤去セムトスルトキ「下ニ」此ノ場合ニ於テハ該電話機一箇毎ニ電鈴一箇ヲ

増設シ又ハ之ヲ撤去スルヲ要ス」ヲ加フ

第二十七條ニ左ノ一項ヲ加フ

第八條第三號ニ依ル加入者電話機ノ移轉ヲ請求スル場合ニ於テハ前項移轉料ノ外最初ノ加入期

間内ハ通信管理局ノ指示スル所ニ從ヒ其ノ移轉ニ必要ナル設備ヲ負擔シ之ヲ同局ヘ引渡サシム

ルコトアルヘシ

第三十一條ニ左ノ一項ヲ加フ

第八條第三號ノ加入申込者ニシテ電話開通ニ必要ナル設備ノ負擔ニ支障ヲ生シタルトキハ其ノ

加入申込ハ之ヲ取消スコトアルヘシ

第五十八條第一項第五號ヲ左ノ如ク改ム

五 郵便局所ノ過失ニ因リ徵收シタル過納又ハ誤納ノ電話ニ關スル料金

附則

本令ハ明治四十一年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

統監府令第三十七號電話規則(明治四十一年九月十六日)抄録

第八條 左記各號ノ場合ニ於テハ加入申込登記ノ順番ニ依ラス電話開通ノ順序ヲ繰上クルコトヲ得

三 統監府通信管理局(以下ニテハ統監府トス)ノ指示スル所ニ從ヒ電話開通ニ必要ナル電話線、電話機、附屬物品ヲ自ラ設備シ之ヲ同局ニ引渡スモ)

第二十二條 第八條第一號ニ依リ特急架設ノ認可ヲ受ケタル加入者ノ名義ハ他人ノ名義ニ之ヲ變更スルコトヲ得ス但シ通信管理局長ノ認可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第八條第一號ニ依リ特急架設ノ認可ヲ受ケタル加入申込者其ノ名義ヲ變更シタルトキハ特急架設ノ認可ハ其ノ效力ヲ失フモノトス

第二十五條 加入申込者又ハ加入者左記各號ノ場合ニ於テハ各其ノ請求書(第九條第一號)ヲ當該郵便局所ニ差出スヘシ

三 同一邸宅内ニ在ルニ加入以上ノ電話機ニ共通スル電話線ヲ増設シ又ハ之ヲ撤去セムトスルトキ

第二十七條 加入者前條ノ請求ヲ爲ストキハ機械材料ヲ納ムヘシ

第三十一條 電話開通工事著手ノ際加入申込者ノ所在不明ナルトキ及加入申込者又ハ加入者死亡若ハ失踪等ノ場合ニ於テ相續人又ハ管理人ヨリ何等申出ナキトキハ其ノ加入申込又ハ加入ヲ取消スコトアルヘシ

第五十八條 左ノ電話ニ關スル既納ノ料金ハ其ノ納付人ノ請求ニ依リ通貨ヲ以テ納メタル者ハ通貨郵便切手ヲ以テ納メタル者ハ郵便切手ヲ以テ之ヲ還付シ未納ノ料金ハ之ヲ徴收セス

五 郵便局所ノ過失ニ因リ徴收シタル過納又ハ還納ノ電話料

○統監府令第五十號(官報 十二月二十八日)

聖事廳監獄ニ付テハ監獄法ヲ準用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十一年十二月二十二日

統監 公爵伊藤博文

○統監府令第五十一號(官報 明治四十二年一月四日)

明治三十九年十一月十二日統監府令第四十九號統監府鐵道管理局運輸規程第八十五條第二項ニ左ノ但書ヲ追加ス

追加ス

本令ハ明治四十二年一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十一年十二月二十七日

統監 公爵伊藤博文

但シ引渡請求人カ貨物引換證ヲ提出シ能ハサル場合ニ於テ相當ノ擔保ヲ供シタルトキハ鐵道ハ貨物引渡ノ義務アルモノトス

〔參照〕

統監府令第四十九號統監府鐵道管理局運輸規程(明治三十九年十二月二十五日官報)抄録

第八十五條第二項

貨物引換證ヲ交付スルトキハ本證ト引換ニ非サレハ到着貨物ノ引渡ヲ爲サス引渡請求人ハ本證ノ裏面ニ受取ノ旨ヲ記載シ署名捺印スヘシ

○臺灣總督府令第六十八號(官報 十二月八日)

明治三十八年十一月十一日府令第八十六號團體ノ費用徴收及寄附金品募集ニ關スル規則中左ノ通改正ス

明治四十一年十一月二十七日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

第五條第一項ニ左ノ一號ヲ加ヘ第三項末尾ニ但シ別ニ收支年度ノ定メアルモノハ其ノ區分ニ從ヒ年度經過後三十日以内ニ本項ノ手續ヲ爲スヘシヲ加フ

四 第十二條第二項ニ該當スル寄附金品ノ募集ヲ廢止シタルトキ

第十二條第二項中「第五條」ヲ「第四條」ニ改ム

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十一年十二月 府令 統監府第五十一號 臺灣總督府第六十八號

〔參照〕

臺灣總督府令第八十六號團體ノ費用徵收及寄附金募集ニ關スル規則(明治三十八年十二月二日官報)抄録
第五條第一項及第三項
左ノ各號ノ場合ニ於テハ七日以内ニ臺灣總督ニ届出ヘシ

一 第一條第一項第六號及第七號ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキ又ハ費用ノ徵收ヲ中止シ若ハ廢止シタルトキ

二 第二條第一項第六號乃至第九號ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキ又ハ寄附金品ノ募集ヲ中止シ若ハ廢止シタルトキ

三 第三條寄附金品募集從事者ノ本籍、住所、身分、職業、氏名ニ異動ヲ生シタルトキ又ハ募集從事者ノ募集ヲ停止シ若ハ廢止シタルトキ

費用ノ徵收又ハ寄附金品ノ募集ニシテ翌年以降ニ涉リ繼續スルトキハ其ノ年分收支決算ヲ每翌年一月三十一日限臺灣總督ニ届出ヘシ

第十二條第二項

天災事變ニ際シ一時ノ救助ヲ目的トシテ金品ヲ募集スル者ニ對シテハ第二條乃至第五條ヲ適用セス

○臺灣總督府令第六十九號(官報十二月二十二日)

明治三十九年六月府令第四十五號中電話交換料ノ部「灣裡」ノ次ニ左ノ如ク加フ

明治四十一年十二月二十二日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

地名 林圯埔 電話交換料年額 三十六圓

○臺灣總督府令第七十號(官報十二月二十二日)

臺灣農會規則施行規則左ノ通相定ム

明治四十一年十二月十五日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

臺灣農會規則施行規則

第一條 農會ノ設置アリタルトキハ廳長ハ會員中ヨリ委員五名以上ヲ選任シ規約、事業經營ノ方法及經費ノ豫算ヲ議定セシメ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ認可アリタルトキハ廳長ハ遲滞ナク第一回ノ總會ヲ召集シ役員選舉ノ手續ヲ行フヘシ

第二條 臺灣農會規則ニ依リ設置シタル農會ニ非サレハ農會ノ名稱ヲ附スルコトヲ得ス

第三條 農會規約ニハ臺灣農會規則第五條ニ掲ケタルモノノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 名稱

二 事務所

三 庶務及會計ニ關スル規定

四 違約處分ヲ爲サムトスルトキハ之ニ關スル規定

五 支會ヲ置カムトスルトキハ之ニ關スル規定

第四條 規約ヲ變更セムトスルトキハ總會ノ決議ヲ經テ申請書ニ其ノ變更ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ添附シ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 會費ノ賦課徵收ニ關スル規定中ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 賦課ノ標準

二 徵收ノ時期

三 徵收ノ方法

第六條 會費ハ地租ヲ標準トシテ賦課スル場合ニ於テハ其ノ百分ノ七以内トス

第七條 總會ハ規約ノ定ムル所ニ依リ會員中ヨリ選舉シタル代表者ヲ以テ之ヲ組織ス

代表者ノ表決權ハ平等トス

第八條 總會ノ決議ヲ經ヘキ事件ニシテ臨時急施ヲ要シ總會ヲ召集スルノ暇ナシト認ムルトキハ會長ハ專決處分スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ次ノ總會ノ承認ヲ求ムヘシ

第九條 農會ハ農業若ハ林業ニ功勞アル者又ハ農業若ハ林業ニ關シ學識經驗アル者ヲ名譽會員ト爲シ及農業若ハ林業ニ密接ノ關係アル者ヲ贊助會員ト爲スコトヲ得

名譽會員及贊助會員ハ代表者ニ選舉セラルルコトヲ得ス

第十條 農會ニハ左ノ役員ヲ置クヘシ

會長

副會長

評議員

幹事

地方委員

支會ヲ置キタルトキハ支會長

役員ハ規約ノ定ムル所ニ依リ會員中ヨリ總會ニ於テ之ヲ選舉スヘシ但シ名譽會員及贊助會員中ヨリ之ヲ選舉スルヲ妨ケス

第十一條 農會ハ役員ノ選任又ハ解任アリタルトキハ遲滯ナク臺灣總督ニ届出ヘシ但シ選任ノ届出ニハ其ノ住所、氏名、職業及略歴ヲ添附スヘシ

第十二條 會長ハ廳長ノ命ヲ承ケ農會ノ事務ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ其ノ事務ヲ代理ス

評議員ハ會長ノ諮問ニ應ジ及會務ノ執行ヲ監査ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ會務ヲ掌理ス

地方委員ハ會長又ハ支會長ノ指揮ヲ承ケ地方ニ於ケル會務ニ從事ス

支會長ハ規約ノ定ムル所ニ依リ會長ノ擔任スル事務ノ一部ヲ分掌ス

第十三條 補缺ノ爲選舉セラレタル役員及代表者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第十四條 役員及代表者ハ其ノ任期滿了ノ場合ト雖後任者ノ就任スル迄其ノ職務ヲ行フモノトス

第十五條 農會ノ事業年度ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄トス

第十六條 農會ハ設置ノ場合ヲ除クノ外毎年總會ニ於テ翌年度ノ事業經營ノ方法及經費ノ豫算ヲ議決シ十月中ニ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

事業經營ノ方法及經費ノ豫算ヲ變更セムトスルトキハ總會ノ決議ヲ經テ申請書ニ其ノ變更ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ添附シ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條 農會カ補助金ノ下付ヲ受ケムトスルトキハ毎年十月中ニ申請書ニ其ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ添附シ之ヲ臺灣總督ニ差出スヘシ

第十八條 農會ハ毎年十月中ニ前年度ノ經費ノ決算、財産目錄及會務ノ狀況ヲ會員ニ公示シ且ツ之ヲ臺灣總督ニ報告スヘシ

第十九條 農會バ左ノ事業ヲ爲サムトスルトキハ其ノ規定ヲ設ケ總會ノ決議ヲ經テ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

一 農業又ハ林業ノ改良發達ノ目的ヲ以テ會員ノ委託ニ依リ其ノ必要ナル物件ノ購買ヲ爲シ、其ノ生産シタル物件ノ賣却ヲ爲シ又ハ會員ヲシテ必要ナル物件ヲ使用セシムルコト

二 農業又ハ林業ノ改良發達ノ目的ヲ以テ基本金ノ範圍内ニ於テ會員ニ資金ノ融通ヲ爲スコト

三 會員ノ生産シタル物件ノ検査ヲ爲スコト

第二十條 農會ハ農業及林業ノ改良發達ニ關スル事項ニ付行政廳ニ建議スルコトヲ得

第二十一條 農會ハ行政廳ノ諮問ニ對シ答申スヘシ

必要ナル命令ヲ爲スコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テハ當該官吏ハ書類帳簿ノ検査ヲ行フコトヲ得

第二十二條 農會ノ解散ハ農會ノ申請ニ依リ臺灣總督之ヲ爲ス但シ臺灣總督ハ必要ト認ムルトキハ申請ニ依ラス之ヲ爲スコトアルヘシ

第二十三條 農會ハ解散ノ後ト雖清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ仍存續スルモノト看做ス

第二十四條 農會ノ解散アリタルトキハ廳長ハ清算及財産處分ノ方法ヲ定メ臺灣總督ノ認可ヲ受

クヘシ
 清算ハ臺灣總督ノ監督ヲ承ケ廳長之ヲ爲ス
 第二十五條 農會ノ設置又ハ解散アリタルトキハ臺灣總督之ヲ告示ス
 第二十六條 耕地、牧場、森林又ハ原野カ出典ニ係ル場合ニ於テハ典主ヲ以テ臺灣農會規則第三條ノ所有者ト看做ス但シ國及公共團體ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
 第二十七條 地方費區、罹災救助基金、公學校、學租財團、仁濟院、慈惠院及普濟院ハ之ヲ公共團體ト看做ス

附則

本令ハ臺灣農會規則施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 臺灣農會規則施行以前ニ設置シタル農會其ノ他ノ農業團體ニシテ同規則施行ノ際臺灣總督ノ告示シタルモノハ明治四十二年四月一日ヨリ同規則ニ依リ設置シタルモノト看做ス
 第一條中委員選任ニ關スル規定ハ前項ノ規定ニ依リ設置シタル農會ニ之ヲ適用セス
 第二項ノ規定ニ依リ告示シタル農會ハ明治四十二年三月三十一日迄仍從前ノ名稱ヲ繼續スルコトヲ得

○臺灣總督府令第七十一號 (官報 十二月二十九日)

明治二十九年^{五月}府令第六號臺灣醫業規則中左ノ通改正ス

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太
 第一條及第二條中「醫術開業免狀」ノ下ニ「若ハ醫師免許證ヲ加フ」
 第十一條 左記各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
 一 醫術開業免狀若ハ醫師免許證又ハ醫業免許證ヲ有セスシテ醫業ヲ爲シタル者又ハ停止中醫業ヲ爲シタル者

二 醫師自ラ診察セスシテ治療ヲ爲シ又ハ診斷書、處方箋ヲ交付シ若ハ檢案セスシテ檢案書、死產證書ヲ交付シタル者
 三 免許區域外ニ診察所、治療所又ハ出張所ヲ設ケタル者
 第十二條 第二條ニ違反シタル者ハ十圓以下ノ科料ニ處ス

〔參照〕

臺灣總督府令第六號臺灣醫業規則(明治二十九年七月十日官報)抄録
 第一條 醫師ハ內務大臣ヨリ醫術開業免狀ヲ得タル者及臺灣總督ヨリ醫業免許證ヲ得タル者トス
 第二條 內務大臣ノ醫術開業免狀ヲ有セル者開業セントスルトキハ開業ノ場所ヲ定メ該免狀ヲ添ヘ五日以内ニ地方廳ニ届出ツヘシ
 第十一條 醫業免許證ヲ得ス又ハ醫業免許區域外ニ於テ醫業ヲ爲シタル者ハ二十五日以下ノ輕禁錮又ハ貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス
 第十二條 第二條ニ背キタル者ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

○臺灣總督府令第七十二號 (官報 明治四十二年一月四日)

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太
 明治三十七年^{十一月}府令第八十五號中電話料及電話呼出料ノ部ニ左ノ通追加ス
 本令ハ明治四十一年十二月二十七日ヨリ之ヲ施行ス

北門嶼 蘇壠間 十五錢 蘇壠 十錢
 蘇壠 北門嶼間 十五錢 蘇壠 十錢

○臺灣總督府令第七十三號 (官報 明治四十二年一月八日)

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太
 臺灣私設鐵道規則施行細則左ノ通相定ム
 明治四十一年十二月二十六日
 臺灣私設鐵道規則施行細則

第一條 私設鐵道ノ起業者ハ臺灣總督府管内ニ事務所ヲ設クヘシ

第二條 鐵道ヲ敷設セムトスル者ハ假許可ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第三條 許可及假許可ノ申請書ニハ鐵道敷設ノ目的、鐵道ノ種類、軌間、資本ノ總額及出資ノ方法ヲ記載シ起業者之ニ署名シ其ノ事務所所在地ノ廳長ヲ經由シテ之ヲ提出スヘシ

假許可ノ申請書ニハ線路豫測圖、許可ノ申請書ニハ左ノ書類圖面ヲ添附スヘシ

一 線路實測圖

二 工事ノ方法

三 工費豫算書

一般運送ノ用ニ供スル鐵道ニ在リテハ尙左ノ書類ヲ添附スヘシ

四 起業カ公共ノ利益タルコトヲ證スル調書

五 運送營業上ノ收支概算書及説明書

前各號ノ圖面及書類ニ記載スヘキ事項並其ノ調製ノ様式ハ臺灣總督府鐵道部長之ヲ定ム

起業者カ法人ナルトキハ其ノ定款並登記ノ原本ヲ提出スヘシ

臺灣總督府鐵道部長ハ申請ノ審査上必要ト認ムルトキハ更ニ書類、圖面ノ提出ヲ命シ若ハ起業者自身ノ出頭ヲ命スルコトヲ得

第四條 廳長ハ前條ノ申請書ニ意見ヲ附シ鐵道部長ニ送付スヘシ

起業地カ他廳管内ニ互ルトキハ關係地ノ廳長ト商議シ前項ノ意見書ヲ調製スヘシ

第五條 線路豫測圖ハ左ノ二種トス

一 豫測平面圖

縮尺ハ一時三十鎖トシ線路ノ中心線ハ赤色ヲ以テ彩リ其ノ經過スル地名及地勢ヲ明記シ停車場ノ位置、名稱及曲線半徑並交角ヲ示シ距離ハ半哩毎ニ記入スヘシ

二 豫測縱斷面圖

縮尺ノ長サハ平面圖ト同一ニシテ高サハ一時百五十呎トシ中心線地面ノ高低及施工基面ノ高低亦半哩毎ニ記シ隧道及橋梁、溝橋ヲ含ムノ長、線路ノ勾配並停車場ノ位置、名稱ヲ記入スヘシ

第六條 線路豫測圖ノ説明書ニハ線路經過地ノ地勢ヲ詳記シ街庄社、社寺廟宇、墓地、道路、山川、埤圳、港灣等ノ主ナルモノ及要塞地トノ關係ヲ明ニスヘシ

説明書ニハ縮尺二十万分ノ一以上ノ地圖ヲ添ヘ既成鐵道トノ關係ヲ明示スヘシ

第七條 線路實測圖ハ左ノ諸圖トス

一 實測平面圖

縮尺一時六鎖トシ線路ノ左右各十鎖以内ノ地勢ヲ明ニシ其ノ他附近ノ街庄社、社寺廟宇、墓地、道路、山川、埤圳、港灣、要塞地等ヲ示シ廳ノ境界及磁針方位ヲ記スヘシ線路中心線ハ赤色ヲ以テ彩リ距離ハ半哩毎ニ記シ曲線ノ起終點、半徑及交角、停車場、聯絡所、信號所ノ名稱及哩程、隧道及橋梁ノ名稱並位置ヲ示スヘシ若他ノ鐵道線路ト交叉スルカ又ハ之ニ接近若ハ連絡スル所アルトキハ該線路ノ前後各一哩間ノ中心線ヲ記入スヘシ

重要ナル建造物ニ接近シ又ハ之ヲ取除クヘキ箇所、重要ナル河川、埤圳ヲ附替フヘキ箇所、重要道路又ハ軌道ヲ橫斷シ若ハ之ヲ附替フヘキ箇所並他ノ鐵道ト交叉シ又ハ之ニ接近若ハ連絡スル箇所ハ一時三鎖ノ縮尺ヲ以テ其ノ局所ノ地形ヲ附記シ且ツ設計ノ概要ヲ示スヘシ

市街地ニ係ル線路ノ部分ニ付テハ別ニ縮尺一時三鎖ノ平面圖ヲ添附スヘシ

電氣鐵道ニ在リテハ別ニ縮尺一時三鎖ヲ以テ表ハセル全線ノ平面圖ヲ添附シ發電所、變壓所、配電所、電氣線路、電柱、埋線及埋線試驗口ノ位置、埋線ノ深サ、電氣線路ノ經過地名及近傍ノ街庄社名、電柱ノ番號、道路ノ幅、電柱ノ道路ヘノ出幅及其ノ最近地ノ番戶、他人ニ屬スル電燈線、電力線其ノ他電氣鐵道用電線ト交叉又ハ接近スル箇所、電氣線路ヨリ凡ソ一町以内ノ

區域ニ在ル電信線、電話線其ノ他電氣信號線等ノ位置並歸線ノ一部トシテ大地ヲ使用スル場合ニハ軌道ヨリ凡ソ二町以内ノ區域ニ在ル地下埋設ノ金屬線、金屬管其ノ他金屬體及發電機ノ一極ヲ接地スル點ノ位置等明瞭ナル凡例ヲ掲ケ之ヲ記入スヘシ

二 實測縱斷面圖

縮尺ノ長サハ一時三鎖高サハ一時三十呎トシ中心線地面ノ高低^{黒色}施工基面ノ高低^{赤色}築堤ノ高サ^{綠色}及切取ノ深サ^{赤色}ヲ一鎖毎ニ記シ隧道及橋梁(溝橋ヲ含ム)ノ長桁ノ種類及箇數、停車場聯絡所、信號所ノ名稱、哩路及兩端區域、國道其ノ他重要ナル道路踏切ノ位置並歸線ノ勾配ヲ詳記シ且ツ欄外ニ直線及曲線ノ圖表ヲ示スヘシ

國道其ノ他重要ナル道路、軌道又ハ他ノ鐵道線路ト交叉スル箇所ハ適宜ノ縮尺ヲ以テ其ノ附近ニ於ケル高サノ關係ヲ示シ且ツ設計ノ概要ヲ附記スヘシ他ノ鐵道ニ接近シ又ハ之ニ連絡スル箇所ハ其ノ前後各一哩間兩線對比ノ縱斷面圖ヲ添附スヘシ

三 實測橫斷面圖

縮尺適宜トシ縱斷面圖ノミニテ地形ヲ示スニ不充分ナル箇所ニ限り之ヲ添附スヘシ

四 實測河川圖

河川、埤圳其ノ他重要ナル河川ヲ橫斷スル箇所ニ限り調製シ普通平面圖並縱斷面圖ノ外適宜縮尺ヲ以テ調製シタル橫斷面圖ヲ附シ鐵道線路ノ左右流各半哩間ニ於ケル地形、堤塘河床ノ形狀及其ノ地質、平水位及最高洪水水位ヲ示シ且ツ橋臺、橋脚及橋桁ノ位置ヲ記入スヘシ

實測圖面ニハ別記第一號及第二號樣式ニ依リ曲線表及勾配表ヲ添附スヘシ
圖面ハ總テ蠟布ヲ用ヒ縱橫各一呎ヲ以テ最小限トス

第八條 工事方法書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 單線又ハ複線等ノ區別

二 軌間及軌道ノ間隔

三 建築定規及車輛定規

四 曲線ノ最小半徑及反向曲線間ノ最短直線

五 線路ノ最急勾配及縱弧線ノ最小半徑

六 施行基面ノ幅築堤及切取斜面ノ勾配、排水渠ノ寸法及用地ノ幅

七 橋梁(溝橋ヲ含ム)ノ臺脚及礎ノ施工方法、桁及拱ノ材質、構造、寸法及所定最大活重並桁各部ノ最大應力及之ニ伴フ撓度

八 隧道ノ各種ノ地質ニ應スル施工斷面坑門、排水渠及待避所ノ構造並各待避所間ノ距離

九 軌條及附屬品ノ材質、形狀及重量、枕木ノ材質、寸法及敷設間隔、道床ノ種類及厚サ、轉轍器及轍叉ノ構造並曲線ニ於ケル軌間ノ擴張及外方軌條ノ高度

十 停車場ニ於ケル諸建物、乘降場、貨物積卸場、常置信號機、跨線橋、地下道、轉車臺、貯水器、石炭臺等ノ位置及構造、側線ノ配置、轍叉ノ交角用地ノ境界並停車場哩程

十一 機關車ノ輛數、形狀、構造、寸法、重量及汽壓、客車貨車其ノ他車輛ノ輛數、形狀、寸法、容積、重量、機關車及客車貨車其ノ他車輛ノ車臺及車輪ノ構造、聯結具及緩衝器ノ裝置寸法等

十二 國道其ノ他重要ナル道路、軌道又ハ他ノ鐵道線路ト交叉シ又ハ之ト鄰接スル箇所ノ防備

十三 特種ノ設計ニ依リ施設スヘキ工事方法

電氣鐵道ニ在リテハ發電所、變壓所及配電所内機械器具ノ裝置法、原動器ノ種類、箇數及馬力數、發電機ノ種類、箇數及電氣馬力數又ハ「ワット」電壓變壓器(回轉變壓器ヲ含ム)ノ種類、箇數及電氣馬力數又ハ「ワット」電壓及其ノ配置法、電車ニ裝置スル電動機ノ種類、箇數及電氣馬力數又ハ「ワット」電壓、電車内機械器具ノ裝置法、電氣方式、配電法、電氣鐵道方式

(單線式電氣鐵道ニ在リ) 電氣線路ノ種類及構造法、保安裝置法ヲ明細ニ記入スヘシ
(テハ軌條ノ接續法ヲモ)

前項第一號、第二號、第四號及第五號ヲ除クノ外ハ設計圖面ノ添附ヲ要ス但シ停車場圖ハ縮尺一吋一鎖トス

第九條 許可申請ノ際橋梁及機關車ノ設計ヲ確定スルコト能ハサルトキハ橋梁ニ在リテハ適宜縮尺ヲ以テ河川橫斷面圖ニ平水位及最高洪水水位ヲ示シ且ツ橋臺、橋脚及橋桁ノ位置ヲ記入シタルモノ又機關車ニ在リテハ縮尺一吋八呎ヲ以テ表ハセル略圖ニ豫メ確定シ得ヘキ寸法、重量等ヲ記載シタルモノヲ提出シ橋桁又ハ機關車製造著手前ニ詳細ナル設計ヲ定メ鐵道部長ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 工費豫算書ハ別記第三號様式ニ依リ其ノ總額及内譯各項毎ノ金額ヲ記載シ且ツ線路ノ哩數ヲ掲クヘシ

第十一條 起業カ公共ノ利益タルコトヲ證スル調書ニハ鐵道敷設ヲ必要トスル地方ノ狀況及鐵道敷設ニ因リ從來ノ交通機關ニ比シ運輸上ニ於テ公衆ノ受クヘキ利益等ヲ詳細ニ記載シ別記第四號及第五號様式ニ依リ旅客表及貨物表ヲ添附スヘシ

第十二條 運送營業上ノ收支概算書ニハ收入支出ノ總額並其ノ内譯ヲ示シ且ツ資本ニ關スル純益ノ割合ヲ記載スヘシ

線路延長ノ場合ニ於テハ前項ノ外延長ノ爲線路全般ニ及ホスヘキ收入支出ノ概算ヲ記載スヘシ
第十三條 運送營業上ノ收支概算ノ説明書ニハ旅客貨物交通ノ概況及重要ナル貨物ノ種類ヲ詳説シ別記第六號様式ニ依リ每一哩ノ建設費、貨物噸哩、旅客人哩、貨物收入、旅客收入、營業費及各項ノ合計並純益及其ノ資本ニ對スル割合ヲ掲載シタル表ヲ添附スヘシ

第十四條 鐵道敷設ノ許可及假許可ニハ期限ヲ附ス

假許可ニ附シタル期限内ニ本許可ノ申請ヲ爲ササルトキ又ハ本許可ニ附シタル期限内ニ鐵道ノ敷設ヲ完了セサルトキハ其ノ許可並假許可ヲ無効トス天災其ノ他避クヘカラサル事變ノ爲期限

内ニ鐵道ノ敷設ヲ完了スルコト能ハサルトキハ其ノ期限ノ延長ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ申請ハ天災事變ノ止ミタル日ヨリ一箇月内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
自己ノ過失ニ歸セサル正當ノ事由ニ因リ期限内ニ本許可ノ申請ヲ爲スコト能ハサルトキ若ハ鐵道ノ敷設ヲ完了スルコト能ハサルトキハ期限經過前ニ延期ヲ申請スヘシ延期ノ期間ハ通シテ原期間ノ半ヲ超ユルコトヲ得ス

法令ノ制定ニ依リ工事ノ方法ニ變更ヲ來シタル爲期限ニ影響ヲ生スルトキハ臺灣總督ハ更ニ許可ノ期限ヲ指定スルコトアルヘシ

第十五條 鐵道敷設ノ目的ヲ變更セムトスルトキハ臺灣總督ノ許可ヲ受クヘシ

第十六條 前條目的ノ變更ニシテ個人若ハ會社ノ專用ニ供スル鐵道ヲ一般運送ノ用ニ供スルノ鐵道ニ變更セムトスルモノナルトキハ其ノ許可申請書ニハ第三條第二項第四號及第五號ノ書類ヲ添附シ若線路又ハ工事ノ方法等著シキ變更ヲ來スヘキ場合ハ尙同項第一號乃至第三號ノ書類圖面ヲ添附スヘシ但シ其ノ一部ノ變更ヲ來スニ止マルトキハ其ノ部分ニ關スル書類圖面ヲ添附スルコトヲ得

第十七條 線路若ハ工事ノ方法ヲ變更セムトスルトキハ鐵道部長ノ認可ヲ受クヘシ

第十八條 工事方法變更認可ノ申請書ニハ理由書、工事方法書、圖面並新舊工費對照表ヲ添附スヘシ但シ停車場ニ關スル圖面ハ新舊設計ノ對照ヲ明示スルコトヲ要ス

第十九條 工事方法中左ノ變更ハ前條ノ規定ニ準シ書類、圖面ヲ添附シ其ノ都度鐵道部長ニ届出ヘシ

- 一 踏切道、道路、河川附替工事ノ伸縮、増減
- 二 橋梁（溝橋ヲ含ム）、隧道ノ伸縮、増減
- 三 停車場ニ於テ乗降場、常置信號機、跨線橋及地下道ノ増設並其ノ他ノ建築物ノ増減及本線路

ニ關係ヲ有セサル側線ノ伸縮増減

四 車輛ノ増加

五 車輛ノ改造但シ車輛ノ用方ヲ變更スルモノハ認可ヲ受クヘシ

第二十條 左ノ各號ニ該當スルトキハ理由書、新舊對照圖並新舊工費對照表ヲ添附シ其ノ都度鐵道部長ニ届出ヘシ

一 線路中心線ノ異動カ實測平面圖ニ記セル最初ノ位置ヨリ市街又ハ家屋稠密ノ地ニ於テハ左右各半鎖其ノ他ニ於テハ各五鎖以內ニ在ルトキ

二 曲線ノ半徑ヲ變更シテ之ヲ長カラシムルトキ並之ヲ變更シテ既ニ許可セラレタル最小半徑ヨリ短縮セシメサルトキ

三 施工基面高低ノ變更カ實測縱斷面圖ニ記セル最初ノ位置ヨリ市街又ハ家屋稠密ノ地ニ於テハ二呎其ノ他ニ於テハ六呎以內ニ在ルトキ

四 線路ノ勾配ヲ變更シテ之ヲ緩ナラシムルトキ並之ヲ變更シテ既ニ許可セラレタル最急勾配ヨリ急ナラシメサルトキ

停車場内線路ノ勾配、河川、埤圳其ノ他著名ノ建造物所在地ニ關係ヲ有スル場合ニ於テハ前項ニ該當スト雖認可ヲ受クルコトヲ要ス

前二項ノ外線路ノ變更ハ第一項ニ掲クル書類、圖面ヲ添附シ認可ヲ受クヘシ

第二項中埤圳又ハ著名ノ建造物所在地ニ關係ヲ有スル場合及前項線路ノ變更ノ場合ニ於テハ廳長ヲ經由スヘシ

停車場聯絡所、信號所及隧道、橋梁ノ名稱ヲ變更シタルトキハ之ヲ鐵道部長ニ届出ヘシ

第二十一條 公共ノ道路、橋梁、河川、埤圳、溝渠ニ關スル施設ハ所轄廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十二條 線路ノ道路ヲ橫斷スル箇所ニハ橋梁ヲ架設シ又ハ地下道若ハ踏切道ヲ設ケ其ノ他危險防止ノ爲必要ナル箇所ニハ柵欄、門戶、堤塘、溝渠ヲ設ケ又ハ番人ヲ配付スル等充分ノ設備ヲ爲スコトヲ要ス

第二十三條 假設工事ハ豫メ其ノ使用期限ヲ定メ鐵道部長ノ認可ヲ受クヘシ

認可申請書ニハ理由書、圖面、工事方法書及工費豫算書ヲ添附シ工費支出ノ途ヲ明示シ之ヲ差出スヘシ

工事方法中假設工事ノ變更ニシテ第十九條第一號乃至第二號及第二十條第一項第一號乃至第四號ニ該當スル場合ニ於テハ第十八條ニ掲クル書類、圖面等ヲ添附シ工費支出ノ途ヲ明示シ鐵道部長ニ届出ヘシ

第二十四條 左ノ假設工事ヲ施行スルトキハ理由書及圖面ヲ添附シ其ノ都度鐵道部長ニ届出ヘシ但シ第一號ノ場合ニ於テハ書面ヲ以テ届出ル外即日電信ヲ以テ報告スヘシ

一 天災事變ニ際シ一時ノ用ニ供スル假線路及假建造物

二 停車場内ニ於テ側線其ノ他建造物ノ改築工事ヲ施スニ當リ設クル假線路及假建造物

第二十五條 第十八條乃至第二十四條ノ圖面及工事方法書ニ付テハ第七條及第八條ヲ準用ス

第二十六條 許可並假許可失效ノ場合ニ於テハ一箇月内ニ廳長ヲ經由シテ許可狀又ハ假許可狀ヲ返納スヘシ

第二十七條 營業者ハ許可ヲ受ケタルトキハ一箇月内ニ主任技術者ヲ選定シ技術ニ關スル事項ヲ擔當セシムヘシ

主任技術者ヲ置キタルトキハ一週内ニ其ノ履歷書及技術修業ノ證明書ヲ添附シテ鐵道部長ニ届出ヘシ更任アリタルトキ亦同シ

鐵道部長ニ於テ主任技術者ヲ不適任ト認メタルトキハ其ノ解任ヲ命スルコトヲ得

第二十八條 臺灣私設鐵道規則第五條ノ許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 負債ヲ要スル事由及其ノ金額
 - 二 元利償還ノ方法及期限
 - 三 利率
 - 四 擔保物件ノ種類但シ目錄ノ添附ヲ要ス
 - 五 契約書案
 - 六 債權者ノ氏名住所
 - 七 既ニ設定シアル擔保物件ノ登記謄本
- 第二十九條 鐵道敷設ニ著手シタルトキハ一週内ニ鐵道部長ニ届出ヘシ
- 第三十條 工事施行中ハ三箇月毎ニ工程報告ヲ鐵道部長ニ差出スヘシ
- 第三十一條 工事竣功シタルトキハ成功圖面並諸表ヲ添附シ鐵道部長ニ届出ヘシ
- 前項ノ圖面及諸表ノ様式ハ鐵道部長之ヲ定ム
- 第三十二條 一般運送ノ用ニ供スル鐵道ニ在リテハ運輸開始前列車發著時刻及度數並運賃額ヲ定ム
- 鐵道部長ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
- 前項ノ認可申請書ニハ運轉圖表及列車發著時刻表ヲ添附スヘシ
- 列車發著時刻表ニハ左ノ事項ヲ記載シ尙聯絡客車ノ等級及種類並他ノ鐵道ヘ聯絡スヘキ接續時間ヲ附記スヘシ
- 一 驛名
 - 二 各驛間ノ距離
 - 三 各驛累計距離

- 四 列車ノ番號及種類
- 五 發著時刻
- 六 上下列車ノ區別

第三十三條 天災事變其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ一時列車ノ發著時刻及度數ヲ變更シタルトキハ直ニ鐵道部長ニ届出ヘシ

第三十四條 列車發著時刻及度數變更ノ認可申請書及届書ニハ理由書ヲ添附スヘシ

第三十五條 鐵道部長ハ公益上必要ト認ムルトキハ運賃額ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第三十六條 鐵道統計及其ノ他ノ報告ハ鐵道部長ノ定ムル所ニ依リ之ヲ差出スヘシ

第三十七條 第十八條但書、第十九條第一項第三號及第五號ハ個人ノ專用ニ供スル鐵道ニハ之ヲ適用セス

附則

本令ハ臺灣私設鐵道規則施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別記)

直線ノ長	哩	
	節	鎖
計		

明治四十一年十二月府令 臺灣總督府第七十三號 臺灣私設鐵道規則施行細則

表				(第一號) 線			
哩 鎖 節				哩 鎖 節			
ノ 差)		ノ (勾 配)		曲 線 ノ 始 點			曲 線
下	上	上	下	哩	鎖	節	哩
備 考							
計							

三二一

明治四十一年十二月府令 臺灣總督府第七十三號 臺灣私設鐵道規則施行細則

曲 線 表										
哩 鎖 節										
ノ 終 點		半 徑	交 角		方 向	切 線 ノ 長		曲 線 ノ 長		
鎖	節	鎖	度	分	方 向	鎖	節	哩	鎖	節
計										
計										

三二〇

概算書説明書附表

貨物收入		旅客收入		營業費		鐵道純益		摘要
合計	每一哩	合計	每一哩	合計	每一哩	合計	資本ニ對スル割合	

(第六號)

收支

線路	建設費		貨物噸哩		旅客人哩	
	合計	每一哩	合計	每一哩	合計	每一哩

○臺灣總督府令第七十四號(官報明治四十二年一月八日)
臺灣私設鐵道營業規則左ノ通相定ム

明治四十一年十二月二十六日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

臺灣私設鐵道營業規則

第一條 私設鐵道ノ運轉並運輸ニ關スル事項ハ別ニ之ヲ定ム
第二條 傳染病患者ハ臺灣總督ノ定ムル規程ニ依ルニ非サレハ乘車セシムルコトヲ得ス

附添人ナキ重病患者ノ乗車ハ之ヲ拒絶スルコトヲ得

第三條 火災其ノ他ノ爆發發質危險品ハ旅客搭乘ノ列車ニテ運送スルコトヲ得ス但シ危險防止ノ證明アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條 左ノ場合ニ於テハ貨物ノ運送ヲ拒絶スルコトヲ得ス

一 荷送人カ鐵道運送ニ關スル規定ヲ遵守スルトキ

二 貨物カ線路ノ狀態ニ依リ運送ニ適スルトキ

三 天災事變其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因ル運送上ノ支障ナキトキ

前項ノ規定ハ旅客運送ニ之ヲ準用ス

第五條 公務ヲ以テ往復スル陸海軍軍人軍屬又ハ軍馬銃砲彈藥糧食被服陣具工銀兵器類天幕等ニシテ公用タルコトヲ證スル通券アルモノハ半額ヲ以テ運送スヘシ

第六條 囚徒及監守官吏ハ半額ヲ以テ乗車セシムヘシ

第七條 營業者ハ法令ノ定ムル所ニ依リ平時戰時ニ於テ鐵道ヲ軍用ニ供スル義務ヲ負フ

第八條 營業者ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ郵便物ヲ運送スルノ義務ヲ負フ

第九條 貨物ハ運送上正當ノ事由若ハ公益上必要アル場合ニ非サレハ受託ノ順序ヲ變更シテ運送スルコトヲ得ス

第十條 運賃ノ増加及運送條件ノ變更ハ鐵道部長ノ認可ヲ受ケタル後關係停車場ニ七日以上公告シタル後ニ非サレハ實施スルコトヲ得ス

第十一條 旅客ハ乗車券ヲ所持スルニ非サレハ乗車スルコトヲ得ス

第十二條 旅客ハ改札前旅行ヲ止メタルトキハ運賃ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

天災事變其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ運送ヲ中止シタルトキハ旅客及荷送人ハ契約ノ解除ヲ

爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ既ニ爲シタル運送ノ割合ニ應シ運賃其ノ他ノ費用ヲ請求スルコトヲ得

第十三條 旅客ハ鐵道係員ノ請求アリタルトキハ何時ニテモ乗車券ヲ示シ検査ヲ受クヘシ

有效ノ乗車券ヲ所持セス又ハ乗車券ノ検査ヲ拒ミ又ハ取集ノ際之ヲ渡ササル者ハ二倍ノ賃金ヲ

仕拂フヘシ

前項ノ場合ニ於テ乗車停車場不明ナルトキハ其ノ列車ノ最初ニ出發シタル停車場ヨリ運賃ヲ計算ス

第十四條 旅客及公衆ニ對シ職務ヲ行フ鐵道係員ハ一定ノ制服若ハ徽章ヲ著スヘシ

第十五條 鐵道係員ハ職務上ノ義務ニ違背シ若ハ職務ヲ怠リ又ハ失行アリタルトキハ懲戒ヲ受ク

懲戒ヲ爲スヘキ場合ニ於テ之ヲ爲ササルトキハ臺灣總督ニ於テ懲戒ヲ爲スコトヲ得

第十六條 營業者ハ鐵道係員ノ服務規程及懲戒ニ關スル規程ヲ定メ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條 左ノ場合ニ於テ鐵道係員ハ旅客及公衆ヲ車外又ハ鐵道地外ニ退去セシムルコトヲ得

一 有效ノ乗車券ヲ所持セス又ハ検査ヲ拒ミ運賃ノ支拂ヲ肯セサルトキ

二 第二十七條ノ罪ヲ犯シタルトキ

三 其ノ他車内ニ於ケル秩序ヲ紊ルノ所爲アリタルトキ

前項ノ場合ニ於テ既ニ支拂ヒタル運賃ハ之ヲ還付セス

第十八條 鐵道係員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ科料ニ處ス

一 職務取扱中旅客若ハ公衆ニ對シ失行アリタルトキ

二 旅客ヲ強ヒテ定員ヲ超エ乗車セシメタルトキ

三 道路踏切ノ開通ヲ怠リ又ハ故ナク車輛其ノ他ノ器具ヲ踏切ニ留置シ因テ往來ヲ妨害シタル

第十九條 鐵道係員職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リ旅客若ハ公衆ニ危害ヲ加フヘキ虞アル所爲アリタルトキハ三月以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 鐵道係員旅客又ハ荷送人若ハ荷受人ト通謀シ運賃ノ一部若ハ全部ヲ免カレシメタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第二十一條 運賃ヲ免カルルノ目的ヲ以テ左ノ所爲ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 有效ノ乘車券ナクシテ乘車シタルトキ

二 乘車券ニ指示シタルモノヨリ優等ノ車輛ニ乘リタルトキ

三 乘車券ニ指示シタル停車場ニ於テ下車セサルトキ

第二十二條 運送品ノ種類若ハ性質ヲ詐稱シ又ハ運賃ヲ免カルルノ目的ヲ以テ詐欺ノ所爲ヲ爲シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 鐵道運送ニ關スル法令ニ違反シ火藥類其ノ他爆發質危險品ヲ託送シ又ハ車中ニ攜帶シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 第二條第一項ニ違反シ傳染病患者ヲ乘車セシメタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス傳染病患者其ノ病症ヲ隱蔽シテ乘車シタルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ途中下車セシメタルトキト雖既ニ支拂ヒタル運賃ハ之ヲ還付セス

第二十五條 車輛停車場其ノ他鐵道地内ノ揭示標識又ハ信號機ヲ改竄毀棄撤去シ又ハ燈火ヲ滅シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 暴行脅迫ヲ以テ鐵道係員ノ職務ノ執行ヲ妨害シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第二十七條 車内停車場其ノ他鐵道地内ニ於テ妄狀ヲ現ハシ其ノ他不良ノ行狀ヲ爲シタル者ハ

科料ニ處ス
第二十八條 前諸條ノ犯罪及鐵道保安ニ關スル犯罪ニシテ罰金若ハ科料ノ刑ニ該ルヘキ罪ノ現行犯アリタルトキ被告人カ其ノ住所氏名ヲ分明ニ告知セス又ハ逃亡ノ虞アルトキハ鐵道係員ハ司法警察官ニ之ヲ引致スルコトヲ得

附則
本令ハ明治四十二年一月十日ヨリ之ヲ施行ス

○臺灣總督府令第七十五號(官報明治四十二年一月八日)

明治四十年五月府令第三十五號臺灣總督府電氣使用規則中左ノ通改正ス
明治四十一年十二月二十七日 臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

第三十二條 定時燈點燈料ハ月額トシ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ納付スヘシ

區分	種別	供				給			
		夜間內燈一燈二付	晝夜內燈一燈二付	夜間外燈一燈二付	晝夜外燈一燈二付	夜間內燈一燈二付	晝夜內燈一燈二付	夜間外燈一燈二付	晝夜外燈一燈二付
白	五燭光六十錢	八十錢	八十錢	八十錢	八十錢	八十錢	八十錢	八十錢	八十錢
	八燭光八十錢	一百圓	一百圓	一百圓	一百圓	一百圓	一百圓	一百圓	一百圓
	十燭光一百圓	一百二十錢	一百三十五錢	一百五十錢	八十錢	九十錢	九十錢	九十錢	九十錢
	十六燭光一百二十錢	一百四十錢	一百六十錢	一百八十錢	一百圓	一百圓	一百圓	一百圓	
	二十五燭光一百六十錢	一百八十錢	二百十五錢	二百三十錢	一百四十錢	一百五十錢	一百五十錢	一百五十錢	
熱	三十二燭光二百圓	二百二十錢	二百七十錢	三百圓	二百八十錢	三百圓	三百圓	三百圓	
	五十燭光三百圓	三百三十錢	四百圓	四百三十錢	三百五十錢	四百五十錢	四百六十錢	四百六十錢	

燈光別	燈		弧光	
	種別	燈	種別	燈
百燭光五	圓	五圓五十錢	圓	四圓二十錢
		六圓五十錢		四圓
百五十燭光七	圓	七圓五十錢	圓	六圓五十錢
		九圓四十錢		六圓
二百燭光十	圓	十一圓	圓	八圓五十錢
		十三圓五十錢		八圓
千二百燭光	圓	二十圓	圓	二十二圓
		一燈二付		一燈二付

內燈トハ家屋其ノ他ノ建造物及敷地内ニ使用スルモノヲ謂ヒ外燈トハ道路、公園ニ使用スルモノ及道路ニ沿ヒタル門燈、軒燈等ヲ謂フ

第三十四條 白熱不定時燈點燈料ハ左ノ指定電量ヲ一箇月ノ使用最低トシ使用ト否トニ拘ラス之ニ對スル月額料金ヲ納付スヘシ指定電量ニ超過シタルトキハ五十「ワット」時ニ付臺北供給區域ニ在リテハ金一錢基隆供給區域ニ在リテハ金一錢一厘ノ割合ヲ以テ算定シ之ヲ納付セシム但シ電扇ノ取付アル場合ハ十二時及十六時ハ一基ヲ一燈トシ六十時ハ一基ヲ三燈トシテ加算ス

取付燈數	指定電量		月額料金	
	指定電量	月額料金	指定電量	月額料金
三十燈以下	四萬五千「ワット」時九	圓四萬五千「ワット」時九圓九十錢	三十燈以上一燈ヲ加スル毎ニ	千五百「ワット」時三十錢千五百「ワット」時三十三錢

第三十六條 照燈料ハ其ノ料金ノ額ニ依リ割引ヲ爲スコト左ノ如シ
 一箇月照燈料
 十圓以上三十圓未満 百分ノ五
 三十圓以上五十圓未満 百分ノ七
 五十圓以上百圓未満 百分ノ十
 百圓以上 百分ノ十二

第三十九條 電扇ハ定著不定著ノ二種トシ左ノ月額料金ヲ納付セシム

種類	種類	個數	百分ノ十		百分ノ十二	
			圓	錢	圓	錢
十	二	時一	基	二圓五十錢	二圓七十錢	
十	六	時一	基	四圓	四圓五十錢	
六	十	時一	基	八圓	九圓	

第五十一條 電力使用料ハ月額トシ一期間中使用ト否トニ拘ラス左ノ區別ニ從ヒ一使用場毎ニ之ヲ納付セシム中途廢止ノ場合亦同シ

限定使用馬力數	馬力	圓		錢	
		圓	錢	圓	錢
五	馬力	金十六圓	七圓	金十七圓	七圓五十錢
六	馬力	金十四圓	六圓	金十五圓	六圓五十錢
十一	馬力	金十二圓	五圓	金十三圓	五圓五十錢
三十一	馬力	金十圓	四圓五十錢	金十一圓	五圓
五十一	馬力	金八圓	四圓	金九圓	四圓五十錢
百一	馬力	金六圓	三圓	金七圓	三圓五十錢

前表ノ限定使用馬力數ニ依リ計算シタル使用料カ其レヨリ小ナルモノニ對スル使用料ヨリ低額

ナルトキハ其ノ小ナル限定馬力數ニ對スル使用料ノ最高額ヲ徵收ス
三百一馬力以上ハ別ニ定ムル所ノ料金ニ依リ之ヲ納付セシム
夜間ノミ使用ノ場合ハ晝夜使用ノ料金ニ依リ之ヲ納付セシム

附則

本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○臺灣總督府令第七十六號(官報明治四十二年一月八日)

荷車取締規則左ノ通相定ム

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

荷車取締規則

- 第一條 荷車ノ所有者ハ廳又ハ支廳ニ届出車體ニ檢印ヲ受クヘシ其ノ改造ヲ爲シタルトキ亦同シ
- 第二條 檢印ナキ荷車ハ使用スルコトヲ得ス
- 第三條 荷車ノ構造ハ左ノ制限ニ依ルヘシ但シ商品配達又ハ行商等ニ用ウルモノニシテ荷臺ノ面積六平方尺未満ノモノハ此ノ限ニ在ラス
 - 一 牛馬車 車輪ノ齒幅三寸以上
 - 二 牛馬車以外ノ諸車 車輪ノ齒幅一寸五分以上
 - 三 車體ノ幅(荷臺又ハ車軸ノ最突出部ヨリ) 四尺五寸以下
- 第四條 荷車ノ積荷ハ左ノ制限ニ依ルヘシ
 - 一 三輪及四輪ノ牛馬車 重量二百四十貫以內
 - 二 二輪ノ牛馬車 重量百五十貫以內
 - 三 一、二號以外ノ諸車 重量百貫以內

- 四 前條但書ノ諸車 重量五十貫以內
- 五 積荷ノ容積ハ前後左右ノ出幅荷臺ヨリ各一尺、高サ六尺以內但シ竹木其ノ他分割スヘカラサル物件又ハ葉秣等輕量ナルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 第六條 前條ノ制限ヲ超過シ又ハ二輪以上ノ荷車ヲ連繫シテ荷物ヲ運搬セムトスルトキハ其ノ事由及道筋ヲ記シ廳又ハ支廳ニ願出許可ヲ受クヘシ
- 第七條 牛馬車ハ幅員二間以內ノ道路ヲ通行スヘカラス但シ左ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス
 - 一 積荷ノ發著地又ハ荷車ノ置場ニ出入スルトキ
 - 二 廳ニ於テ通行シ得ヘキ旨ヲ告示シタル場所
 - 三 廳又ハ支廳ニ於テ特ニ許可シタルトキ
- 第八條 廳長ハ市街地ニ於ケル水牛車ノ通行ヲ禁止スルコトヲ得
- 第九條 車體ノ改造又ハ修繕ノ爲檢印ノ部分ヲ廢棄シ若ハ荷車ヲ廢棄シタルトキハ其ノ所有者ヨリ五日以內ニ廳又ハ支廳ニ届出消印ヲ受クヘシ但シ檢印ノ箇所ヲ切取り提出スルコトヲ得
- 第十條 荷車ノ所有者及使用者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ
 - 一 荷車ノ所有者ハ車體ノ右側階易キ場所ニ其ノ住所姓名ヲ明記スヘシ
 - 二 牛馬車ハ二輛毎ニ馱者ヲ附シ其ノ進行中ハ三尺以內ニ牽綱ヲ把ルヘシ
 - 三 十五歳未満ノ者ハ馱者ト爲リ又ハ馱者タラシムヘカラス
 - 四 馱者ハ荷臺ニ在リテ牛馬ヲ馱スヘカラス
 - 五 狂躁ノ癖又ハ外傷アル牛馬ヲシテ荷車ヲ輓カシムヘカラス
 - 六 漏出、墜落又ハ飛散ノ虞アル物品ヲ運搬スルトキハ適當ノ裝置ヲ爲シ竹木其ノ他ノ物件ニシテ尖リタルモノヲ運搬スルトキハ其ノ末端ヲ纏束又ハ包裹スヘシ
 - 七 一間以上ノ距離ヲ取ラスシテ荷車二輛以上連續進行スヘカラス

- 八 荷車行途ヒタルトキハ互ニ左ニ避ケ實車ニ對シテハ空車ニ於テ避讓スヘシ但シ坂路ニ在リテハ輕量ノ荷物ヲ積載スル場合ハ登車ニ於テ避讓スヘシ
 - 九 荷車ニシテ軍隊、砲車及輜重車ニ行途ヒタルトキハ右ニ避ケヘシ
 - 十 荷車ニシテ郵便用、消防用、灌水用ノ車ニ行途ヒタルトキハ之ヲ避ケヘシ
 - 十一 街角、橋上、坂路又ハ群集ノ場所ヲ通行スルトキハ徐行スヘシ
 - 十二 夜間燈火ナクシテ荷車ヲ使用スヘカラス
 - 十三 荷車ハ二輛以上並ヘ輓クヘカラス但シ特ニ許可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス
 - 十四 第四條第五條第三號及第十二條第二項ニ依ル許可證ハ荷車ノ使用中之ヲ攜帶スヘシ
 - 十五 荷車ハ後押ノミヲ以テ行車スヘカラス
 - 第九條 荷車ノ使用ニ因リ道路、橋梁、溝渠、下水其ノ他ノ築造物ヲ破損シタルトキハ之ヲ原形ニ復スヘシ
 - 第十條 第一條第四條第五條第七條及第八條ニ違反シタル者ハ十五日以下ノ拘留又ハ十圓以下ノ科料ニ處ス
 - 第十一條 本令施行ノ地域ハ廳長之ヲ定ム
 - 第十二條 道路ヲ通行セサル荷車及在來ノ耕作用牛車ニハ本令ヲ適用セス
在來ノ耕作用牛車ニシテ道路ヲ通行セムトスルトキハ廳又ハ支廳ニ願出許可ヲ受クヘシ
- 附則
本令ハ明治四十二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令第二條ノ制限ニ適合セサル現在ノ荷車ハ明治四十三年一月一日迄ニ之ヲ改造シ廳又ハ支廳ノ檢印ヲ受クルニアラサレハ以後使用スルコトヲ得ス

○關東都督府令第六十六號(官報十二月二十三日)
明治三十九年陸軍省令第十六號ニ依ル關東州、南滿洲及其ノ附近ニ於ケル明治四十二年徵兵身體檢查ニ關シ左ノ通相定ム

明治四十一年十二月十七日

關東都督 子爵大島義昌

- 第一條 徵兵身體檢查場左ノ如シ
 旅順 步兵第三十九聯隊
 遼陽 步兵第四十聯隊
 鐵嶺 步兵第十聯隊

第二條 徵兵身體檢查員ハ第一條ニ指定シタル部隊ノ長ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 徵兵身體檢查ヲ受ケムトスル者ハ左ノ書類ヲ具シ明治四十二年二月十日迄ニ前條檢查員ニ願出ヘシ

- 一 願書 本籍地、現居住地ノ府縣郡市町村番地、生年月日及受檢希望ノ檢査場名ヲ記載ス
- 二 身分證明書 關東州ニ在テハ民政署長ノ證明シタルモノ、其ノ他ニ在テハ領事ノ證明シタルモノ
- 三 寫眞 最近ニ脱帽攝影シタルモノ若シハ領事ノ證明シタルモノヲ添付シタルコトヲ得
- 第四條 前條願出ヲ爲シタル者病氣其ノ他ノ事故ニ依リ檢查ヲ受ケ難キトキ若ハ願書記載ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ直ニ當該檢查員ニ届出ヘシ
- 第五條 徵兵身體檢查員ハ檢查施行日割及注意事項ヲ豫メ本人ニ通達スヘシ

○關東都督府令第六十七號(官報明治四十二年一月十四日)

明治四十年十二月二十五號旅順及大連水道給水規則中左ノ通改正ス

明治四十一年十二月二十六日 關東都督 子爵大島義昌

第三十一條第三號中丁以下ヲ左ノ如ク改ム

丁 船舶ニ供給スルモノ
 給水量一立方米金三十五錢
 戊 工事若ハ其ノ他一時使用ニ係ルモノ
 給水量一立方米金二十五錢
 己 前各號ノ外消費水量一箇月十立方米迄金一圓一立方米ヲ増ス毎ニ金十錢ヲ加フ
 附則
 本令ハ明治四十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

關東都督府令第七十五號旅順及大連水道給水規則(明治四十一年一月四日官報)抄録
 第三十一條 料金ハ左ノ區分ニ依リ徵收ス
 三 貯池給水
 丁 船舶ニ供給スルモノ及工事若ハ其ノ他一時使用ニ係ルモノ
 給水量一立方米金二十五錢
 戊 前各號ノ外消費水量一箇月十立方米迄金一圓一立方米ヲ増ス毎ニ金十錢ヲ加フ

法令全書

訓令

○大藏省訓令第一號

明治四十年法律第四十三號森林法第十二條ニ依リ造林地ノ地租免除ヲ申請シタル者アルトキハ地方廳ト協議シ相當免租年期ヲ定メ之カ許可ヲ與フヘシ
 但シ許可シタルトキハ免租年期及段別ヲ地方廳ニ通知スヘシ
 明治四十一年一月十六日
 大藏大臣 松田正久

稅務監督局 稅務署

○陸軍省訓令第一號

明治四十年度當省所管歲入歲出科目表中ヘ左記ノ通増設ス
 明治四十一年一月十三日

歲出經常部

陸軍大臣 子爵寺內正毅

陸軍一般

△印増設

款	項	目	節
軍事費	修繕費	末位ニ	
		赤羽被服倉庫修繕	

○陸軍省訓令第二號

陸軍一般

明治四十年度當省所管歲入歲出科目表中左記ノ通増設ス

明治四十一年一月二十二日

歲出經常部

陸軍大臣 子爵寺内正毅

△印増設

款	項	目	節
軍 事 費	修 繕 費	末位ニ △東北軍管區各外三師 總務部修理費	
		△近衛師團各隊風損 害復舊	
		△第十二師管内各部 隊風損害復舊	

○陸軍省訓令第三號

明治四十年度當省所管歲入歲出科目表中左記ノ通増設ス

明治四十一年一月二十七日

歲出經常部

陸軍大臣 子爵寺内正毅

△印増設

款	項	目	節
軍 事 費	修 繕 費	末位ニ △第四師管各部隊風 損害復舊	

○陸軍省訓令第四號

明治四十年度當省所管歲入歲出科目表中左記ノ通増設ス

明治四十一年一月三十一日

歲出經常部

陸軍大臣 子爵寺内正毅

△印増設

款	項	目	節
軍 事 費	修 繕 費	末位ニ △第一師管各部隊風 損害復舊	

○文部省訓令第一號

明治四十年度學校及圖書館歲入歲出科目表ニ左ノ通追加ス

明治四十一年一月二十四日

一歲出經常部學校及圖書館ノ款雜給及雜費ノ項雜費ノ目中末位ニ諸手數料ノ節ヲ加フ

大臣官房會計課

直轄諸學校 帝國圖書館

文部大臣 男爵牧野伸顯

○統監府訓令第一號 (官報二月二十一日)

明治四十年三月統監府訓令第四號中龍山ノ上ニ「草梁」ノ二字ヲ追加シ明治四十一年二月一日ヨリ之

ヲ施行ス

明治四十一年一月十六日
○統監府訓令第二號(官報一月二十一日)
統監府鐵道管理局各部課分掌規程左ノ通改正ス
本令ハ明治四十一年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

統監代理

副統監 子爵曾禰亮助

統監代理

副統監 子爵曾禰亮助

明治四十一年一月十六日

統監府鐵道管理局各部課分掌規程

第一條 統監府鐵道管理局各部ニ課ヲ置キ事務ヲ分掌セシム

第二條 總務部ニ左ノ二課ヲ置ク

一 庶務課

二 計理課

第三條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 文書ノ收受發送ニ關スル事項

二 職員ノ進退賞罰及身分ニ關スル事項

三 統計及報告ニ關スル事項

四 他ノ部課ニ屬セサル事項

第四條 計理課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 歲入歲出豫算決算及下檢査ニ關スル事項

二 歲入歲出ノ出納ニ關スル事項

三 鐵道財産ニ關スル事項

四 物品ノ購買賣却及製作修理ノ計算ニ關スル事項

五 購買製作及修理ノ物品檢査ニ關スル事項

六 物品ノ保管及出納ニ關スル事項

第五條 工務部ニ左ノ二課ヲ置ク

一 監査課

二 保線課

三 工作課

第六條 監査課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 工事ノ設計ニ關スル事項

二 工費豫算ニ關スル事項

三 工事ノ監督ニ關スル事項

第七條 保線課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 既成線路及建設物ノ保管ニ關スル事項

第八條 工作課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 車輛船舶ノ設計及其ノ審査ニ關スル事項

二 車輛船舶及器具機械ノ製作修理ニ關スル事項

三 車輛船舶ノ保管ニ關スル事項

四 運轉及運航上ノ技術ニ關スル事項

第九條 運輸部ニ左ノ二課ヲ置ク

- 一 營業課
- 二 調査課
- 第十條 營業課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 旅客貨物ノ運賃及輸送ニ關スル事項
 - 二 列車運轉ニ關スル事項
 - 三 船舶運航ニ關スル事項
 - 四 鐵道用電氣通信ニ關スル事項
- 第十一條 調査課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 運輸收入ノ調査ニ關スル事項
 - 二 運輸成績ノ統計ニ關スル事項
- 第十二條 臨時建設部ニ左ノ二課ヲ置ク
 - 一 主記課
 - 二 工務課
- 第十三條 主記課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 建設及改良費ノ計算ニ關スル事項
 - 二 部ノ庶務及他ノ課ニ屬セサル事項
- 第十四條 工務課ニ於テハ建設及改良ノ工務ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第十五條 工務部運輸部ニ主記掛ヲ置キ部ノ庶務及各課ニ屬セサル事務ヲ掌ラシム

○内務省訓令第一號

警察官及消防官服裝規則中左ノ通改正ス

明治四十一年二月五日

内務大臣 原敬

廳府縣 東京府

- 第二條 正裝トハ正帽、衣袴、正肩章、刀、正緒、手套、下襟及短靴ヲ著裝スルヲ云フ
- 第三條 禮裝トハ正帽、衣袴、略肩章、刀、正緒、手套、下襟及短靴ヲ著裝スルヲ云フ
- 第四條 常裝トハ帽、衣袴、略肩章、刀、常緒、手套、下襟及靴ヲ著裝スルヲ云フ
- 第五條 消防官ニ在テハ常裝ヲ著用スルトキニ限り短刀ヲ佩用スルコトヲ得但シ消防機關士ハ便宜之ヲ脱スルモ妨ナシ
- 第十一條 夏衣ハ炎暑ノ際凡六月一日ヨリ九月常裝ニ限り著用スルコトヲ得但シ夏衣ヲ著用スルトキハ夏袴ヲ著用スルモノトス
- 第十六條 日覆ハ炎暑ノ際略帽ニ限リ之ヲ用ウルモノトス
- 第十九條 刀帶ハ衣ノ下ニ締ムルモノトス
- 第二十一條 削除

附則

明治二十三年勅令第百二十二號警察官及消防官服制ニ依リ著裝ヲ爲ストキハ仍從前ノ規定ニ據ルモノトス

〔參照〕

- 内務省訓令第二十七號警察官及消防官服裝規則(明治二十三年七月二十九日)抄録
- 第二條 正裝トハ正帽、正衣、袴、肩章、飾帶、刀、正緒、手套、下襟ヲ著裝スルヲ云フ
- 第三條 禮裝トハ正帽、正衣、袴、肩章、刀、正緒、手套、下襟ヲ著裝スルヲ云フ
- 時宜ニ依リ常裝ニ正帽正緒ヲ用井ルヲ以テ禮裝ト爲スコトヲ得

第四條 常服トハ帽正（正帽）、常衣、袴、刀、略緒、手套、下襟ヲ著裝スルヲ云フ
 第五條 消防官ニ在テハ常服ヲ着用スルトキニ限リ短劍ヲ佩用スルコトヲ得但消防機關士ハ便宜之ヲ脱スルモ妨ナシ
 第十一條 夏衣ハ炎暑ノ際ホリ（六月一日ヨリ九月）常衣ニ限リ着用スルコトヲ得但夏衣ヲ着用スルトキハ必ス夏袴ヲ着用スルモノトス
 第十六條 日覆ハ炎暑ノ際常帽ニ限リ之ヲ用フルコトヲ得但便宜垂布ヲ除クモ妨ナシ
 第十九條 刀帶ハ其正衣ヲ著スルトキハ衣ノ上ニ常衣ノトキハ衣ノ下ニ締ムルモノトス
 第二十一條 短袴ハ何レノ服裝ニ在テモ長靴ヲ穿ツトキ着用スルモノトス炎暑ノ際ハ夏袴ヲ短袴ニ製シ着用スルモ妨ケナシ

○內務省訓令第二號

廳府縣 東京府 ヲ除ク

巡查服裝規則中左ノ通改正シ明治四十一年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十一年二月五日

內務大臣 原敬

第一條 巡查ノ服裝トハ帽、衣袴、肩章、刀、刀緒、手套、下襟及靴ヲ著裝スルヲ云フ
 第二條 服裝ハ正肩章ヲ著クルヲ正裝トシ略肩章ヲ著クルヲ常裝トス但シ正裝ノ場合ニ於テハ乘馬勤務ノ者ノ外短袴ヲ用井サルモノトス
 夏期正裝ノ場合ニ於テハ衣ハ絨衣ヲ著クルモノトス但シ袴ハ夏袴ヲ用ウルモ妨ナシ
 第九條 日覆ハ炎暑ノ際常裝ニ限リ之ヲ用ウルモノトス

〔參照〕

內務省訓令第十一號巡查服裝規則（明治二十九年十一月二十六日）抄錄
 第一條 巡查ノ服裝トハ帽、衣袴、肩章、刀、刀緒、手套及下襟ヲ著裝スルヲ云フ
 第二條 服裝ハ肩章ヲ著クルヲ正裝トシ之ヲ著ケサルヲ常裝トス
 夏期正裝ノ場合ニ於テハ衣ハ絨衣ヲ著クルモノトス但シ袴ハ夏袴ヲ用ウルモノトス
 第九條 日覆ハ炎暑ノ際常裝ニ限リ之ヲ用ウルコトヲ得但シ便宜垂布ヲ除クモ妨ナシ

○大藏省訓令第二號

出納官吏 金庫出納役

明治四十年三月 大藏省訓令第十五號帝國大學特別會計並ニ學校及圖書館特別會計金庫出納事務規程

第七條第一項中「及仕拂元金へ組換額」ノ九字ヲ刪リ第一號第二號及第五號書式ヲ左ノ通改正シ明治四十一年四月一日ヨリ施行ス

明治四十一年二月十三日

大藏大臣 松田正久

〔内ハ朱書〕

「第一號書式甲」

某年度帝國大學歳入

又ハ 某年度學校及圖書館歳入

各地本金庫帝國大學(學校及圖書館)収支金報告額整理簿

中央金庫

明治四十一年二月 訓令 大藏省第二號

<p>「第一號書式乙」</p> <p>某年度帝國大學歲出仕拂元金</p> <p>又ハ</p> <p>某年度學校及圖書館歲出仕拂元金</p> <p>各地本金庫帝國大學(學校及圖書館)收支金報告額整理簿</p> <p style="text-align: center;"><u>中央金庫</u></p>		
仕拂元受高ト		
支出額トノ差		
圓	錢	厘

「第一號書式乙」

何 地 本 金 庫

年月日	摘 要	收支金報告		每月出納計		收入額		毎月出納計		仕拂元金へ		毎月出納計	
		年	月	日	年	月	圓	錢	圓	錢	圓	錢	圓
何	何	何	何			0				0			
何	何			何年何月				0					0

明治四十一年二月 訓令 大藏省第二號

明治四十一年三月 訓令 大藏省第二號

<p>某 年 度</p> <p>帝國大學(學校及圖書館)歲入金各廳內譯簿</p> <p>中央金庫</p>		<p>第二號書式</p>
<p>年 月 日</p>	<p>備 要</p>	
<p>何 何</p> <p>何 何</p>	<p>何 何</p> <p>何 何</p>	

明治四十一年三月 訓令 大藏省第二號

何 地 本 金 庫															
收支金報告 年 月 日		每月出納計 算書年月		任拂元受高			每月出納計 算書整理額			支 出 額			每月出納計 算書整理額		
何	何	何年何月		0			0			0			0		

明治四十一年二月 訓令 大藏省第二號

〔参照〕

大藏省訓令第十五號帝國大學特別會計並三學校及圖書館特別會計金庫出納事務規程(明治四十年三月三十日)抄録

第五號書式			
某年度帝國大學(學校及圖書館)歳入金			
第何號 明治何年何月何日各廳内譯表			
摘 要			金 額
廳 名	歳入徴收官	事 由	
何廳 (取扱廳)	官 氏 名	事由 〔更正拂事由何々〕	圓 0 0
	中央金庫(何地)	本金庫)所屬	
	何地支	金庫圖	

一五

明治四十一年二月 訓令 大藏省第二號

何廳(取扱廳)歳入徴收官官氏名						
年 月 日		摘 要	歳 入			累 計
何	何		圓	銭	厘	圓 銭 厘
何	何	〔更正拂事由何々〕	0	0	0	0 0 0
		何 月 分 合 計 〔同上更正拂合計〕	0	0		
		改合計	0			
<p>〔備考〕</p> <p>〔支金庫報告ニ據リ記帳セシモノハ摘要欄内ニ 何地支金庫何年何月何日分ト付記スヘシ〕</p>						

一四

第七條第一項
帝國大學(學校及圖書館)歳入金各總内譯簿ハ各年度毎ニ之ヲ設ケ各取扱總毎ニ歳入徴收官ヲ區分シ中央金庫ニ係ルモノハ各該總簿中央金庫ニ屬スル支金庫ニ係ルモノハ該支金庫ヨリ送付スル帝國大學(學校及圖書館)歳入金各總内譯表ニ據リ毎日其歳入額及仕掛元金(組換額ヲ登記スヘシ其書式第二號ノ如シ)

○大藏省訓令第三號

出納官吏 金庫出納役

明治二十六年十一月十一日 大藏省訓令第三十九號金庫出納事務規程中左ノ通改正シ明治四十一年度ヨリ施行ス

明治四十一年二月二十五日

大藏大臣 松田正久

一 第三十七條第一項中「其書式第五號ノ如シ」トアルヲ(二十六年大藏省令第三十二號)ト改メ第二項中登記シ該支金庫ニ於テ實際收支シタル日ヲ附記スヘシトアルヲ「登記スヘシ」ト改メ但支金庫ニ於テ甲月中ニ收支シタル分ヲ乙月ニ至リ登記スル場合ニハ支金庫實際收支ノ年月ヲ附記スヘシト改メ

一 第三十八條中「其書式第六號ノ如シ」トアルヲ(二十六年大藏省令第三十二號)ト改メ

一 第四十九條ヘ左ノ括弧割注ヲ追加ス
(現余出納日記簿ノ様式ハ二十六年大藏省令第三十二號ノ第十四號乙ノ二書式ニ據ル)

一 附屬第五號及第六號書式ヲ削除ス

○陸軍省訓令第五號

陸軍一般

明治四十年度營省所管歳入歳出科目表中左記ノ通増設ス

明治四十一年二月四日

陸軍大臣 子爵寺内正毅

歳出臨時部

△印増設

款	項	目	節
砲臺建築費			
	東京灣砲臺建築費		
		末位ニ	
		△試驗費	

○農商務省訓令第一號

大林區署

林區署ノ事業執行上災害其ノ他ノ事故(汽罐汽機器械類)發生シタルトキハ左記ノ事項ヲ調査シ事故發生ノ日ヨリ十四日以内ニ農商務大臣ニ報告スヘシ但シ事輕微ニシテ事業ノ功程ニ影響ヲ及ボサス且死者ナキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ事重大ナルトキハ其ノ概況ヲ急報スヘシ

- 一 災害其ノ他事故ノ發生シタル日時、種類、程度、場所、原因等
- 二 發生當時ニ於ケル措置及復舊ニ要スル見込期間
- 三 事故發生ノ爲事業ノ功程ニ及ボスヘキ影響及其ノ功程回復ニ對スル意見
- 四 死傷者アルトキハ其ノ數、男女別、年齢及職名並死亡者ニ付テハ其ノ致死ノ原因、負傷者ニ付テハ其ノ負傷ノ部位、症狀及救護ノ顛末

明治四十一年二月十二日

農商務大臣 松岡康毅

○農商務省訓令第二號

警視廳 北海道廳 府縣
地方廳ニ於テ取扱フヘキ當省所管經費取扱手續別表備考中左ノ通改正ス

明治四十一年二月十九日

農商務大臣 松岡康毅

第一項中「勳六等以上」ノ下ニ「及手當月額金百圓以上ノ囑託員ニ」ヲ加フ
第二項中「勳七等以下」ノ下ニ「及手當月額三十圓以上ノ囑託員ニ」ヲ加フ

○農商務省訓令第三號

府縣

明治四十年^四月農商務省訓令第五號科目表中歲出臨時部植樹獎勵費ノ款同名ノ項ノ末位ニ死亡賜金ノ目ヲ設置ス

明治四十一年二月二十八日

農商務大臣 松岡康毅

○統監府訓令第三號(官報二月二十九日)

統監府鐵道管理局長官ハ部下ノ官吏ヲシテ歲入徵收事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

統監代理

明治四十一年二月二十三日

副統監 子爵曾根荒助

○內務省訓令第三號

內務大臣官房會計課 衛生試驗所
傳染病研究所 內務省土木出張所

明治四十一年度當省所管歲入科目別表ノ通相定ム
但別表ハ別ニ頒ツ

明治四十一年三月三十一日

內務大臣 原敬

○內務省訓令第四號

內務大臣官房會計課 警 視 廳 北海道廳 府 縣
衛 生 試 驗 所 傳染病研究所 內務省土木出張所

明治四十一年度當省所管歲出科目別表ノ通相定ム
但別表ハ別ニ頒ツ

明治四十一年三月三十一日

內務大臣 原敬

○大藏省訓令第四號

稅務監督局

旅費支給規程左ノ通改正シ明治四十一年四月一日ヨリ施行ス

明治四十一年三月三日

大藏大臣 松田正久

旅費支給規程

第一條 稅務監督局ノ經費ニ屬スル旅費ハ內國旅費規則及明治三十九年^五月往第五九八六號當省達

ニ依ルノ外此ノ規程ニ依リ支給スヘシ

第二條 土地検査、間稅検査及輸入稅拂戻調査ノ爲稅務署員共ノ所轄内ヲ巡回シタル場合ノ旅費

ハ左ノ日額範圍内ニ於テ適宜支給額ヲ定ムヘシ

土地検査 日額一圓二十錢以内

間税検査及輸入税拂戻調査 日額一圓以内

雇員ノ土地検査補助 日額一圓以内

第三條 交通至難其ノ他特別ノ事情アリテ前條ノ日額ニ依リ難キ地方ニ在リテハ認可ヲ經テ日額一圓五十錢迄ヲ支給スルコトヲ得

第四條 第二條ニ該當スル用務以外ノ場合ニシテ旅費定額ノ減少又ハ日額旅費ノ特定ヲ必要ト認ムルトキハ適宜其ノ支給額ヲ定ムルコトヲ得

第五條 他官廳ノ職員ニシテ囑託ヲ受ケタル用務ノ爲旅行スルトキハ本官相當ノ旅費ヲ支給ス

第六條 内國旅費規則第九條ニ該當スルトキハ高等官ニハ一日四十錢判任官ニハ一日三十五錢雇員ニハ一日三十錢ノ車馬賃ヲ支給ス

第七條 在勤廳所在地ニ接續スル町村又ハ其ノ一部ニシテ所在地ニ準スルヲ適當ト認ムル区域内ノ巡回ニハ前條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第八條 在勤廳所在地及準所在地内ノ巡回ニシテ間税検査、輸入税拂戻調査及其ノ監督ノ場合ニハ第六條ノ車馬賃ヲ支給セス

第九條 一日中日額旅費ヲ支給スヘキ旅行ト其ノ他ノ旅行トニ跨リタルトキハ日額旅費ノ規定ヲ適用セス

第十條 第二條乃至第四條ノ支給額及第七條ノ準所在地ヲ定メタルトキハ其ノ要旨及施行期日ヲ申報スヘシ

第十一條 明治四十年三月當省訓令第六號旅費支給規程中稅務監督局ニ關スル事項ハ之ヲ廢止ス

附則 明治四十年三月當省訓令第六號旅費支給規程中稅務監督局ニ關スル事項ハ之ヲ廢止ス

第十二條 従前ノ規程ニ依リ日額旅費ノ増給又ハ普通旅費支給方ノ認可ヲ經タルモノハ此ノ規程ニ依リ認可ヲ承ケタルモノト看做ス

○大藏省訓令第五號

出納官吏 金庫出納役

明治二十六年十一月十一日大藏省訓令第三十九號金庫出納事務規程第三十九條中、但金貨及壹分銀アルトキハ特ニ其種類ヲ區分スヘシ、ノ二十三字ヲ削リ第七十七條第二項中「其書式第二十一號ノ如シ」トアルヲ「其書式ハ別ニ之ヲ定ム」ト改メ左ノ通第五十條第五十一條第五十二條第六十七條第六十八條ヲ改正シ第五十二條ノニヲ追加シ第七號書式乃至第十三號書式及第二十一號書式第二十四號書式第二十六號書式乃至第二十九號書式ヲ改メ第十四號書式第二十五號書式ヲ追加シ第十五號書式受拂簿ノ書式ヲ削リ現金受拂總括簿ノ書式ヲ挿入シ第三十一號書式ヲ刪除シ明治四十一年四月一日ヨリ施行シ明治三十五年二月二日大藏省訓令第二號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

明治四十一年三月九日 大藏大臣 松田正久

第五十條 支金庫ハ現金ノ出納及歲出ノ仕拂ヲ調理スル爲メ左ノ帳簿ヲ備フヘシ

- 第一 現金受拂簿
- 第二 現金受拂總括簿
- 第三 歲入金各廳内譯簿
- 第四 歲出金各廳内譯簿
- 第五 歲出仕拂未濟繰越金各廳内譯簿
- 第六 雜部金内譯簿
- 第七 支出簿
- 第五十一條 前條ニ掲クル諸帳簿ノ設置登記ニ關スル手續等ハ現金受拂簿及現金受拂總括簿ヲ除

クノ外中央金庫ノ例ニ準ス
第五十二條ノ一 現金受拂簿ハ各年度毎ニ之ヲ設ケ各證憑書ニ據リ其金額事由ヲ登記スヘシ其書式第十四號ノ如シ

第五十二條ノ二 現金受拂總括簿ハ各年度毎ニ之ヲ設ケ各科目毎ニ區分シ毎日現金受拂簿ヨリ轉記スヘシ其書式第十五號ノ如シ

第六十七條 支金庫ニ於テハ第五十條ノ帳簿ニ據リ左ノ計算報告表ヲ調製スヘシ

第一 歳出金月計對照表

第二 歳出仕拂未濟繰越金支出月計對照表

第三 雜部金月計對照表

第四 現金受拂總括簿計算表

第五 歳入金各廳内譯表

第六 歳出金各廳内譯表

第七 歳出仕拂未濟繰越金支出各廳内譯表

第八 雜部金收支内譯表

第九 仕拂命令受領濟額報告書
第六十八條 支金庫ニ於テ歳出金月計對照表、歳出仕拂未濟繰越金支出月計對照表、雜部金月計對照表及仕拂命令受領濟額報告書ヲ調製スル手續等ハ中央金庫ノ例ニ同シ但各廳證明濟月計對照表及仕拂命令受領濟額報告書ハ翌月十日迄ニ本金庫ニ屬スル支金庫ニ在テハ其本金庫へ中央金庫ニ屬スル支金庫ニ在テハ中央金庫へ送付スヘシ

現金受拂總括簿計算表ハ第二十五號書式ニ據リ毎日之ヲ調製シ支金庫ニ備へ置クヘシ

(内ハ未詳)

第七號書式

某 年 度

各地本金庫現金出納内譯簿

中 央 金 庫

明治四十一年三月 訓令 大藏省第五號

二五

〔第八號式甲〕

某 年 度 歲 入

各地本金庫收支金報告額整理簿

中 央 金 庫

明治四十一年三月 訓令 大藏省第五號

二四

何 地 本 金 庫 1.

年 月 日	摘 要	收 支 金 額		受	拂	殘
		年 月 日	年 月 日			
何 何		何 何		0	0	0

〔第八號書式乙〕

某年度歲出

各地本金庫收支金報告額整理簿

中央金庫

何 地 本 金 庫

1.

年月日	摘 要	收支金報 告年月日		每月出納計 算年月	收 入 額		累 計		每月出納計 算整理額	
		何	何		圓	錢	圓	錢	圓	錢
	〔更正拂〕			何年何月	15,000	00				
					00		15,000	00		15,000
										00

〔第八號書式丙〕

某 年 度

歲出仕拂未濟繰越金

又ハ 雜 部

各地本金庫收支金報告額整理簿

中 央 金 庫

何 地 本 金 庫 1.

年月日	摘 要	收支金報 告年月日		每月出納計 算年月	支 出 額	累 計	每月出納計 算書整理額	
		何	何	何			何	何
	〔定額戻入〕 〔更正納〕	何	何	何年月	4,000,000.00			
						4,000,000.00		4,000,000.00

「第九號書式」

某年度歳入金各廳内譯簿

中央金庫

「備考」
 中央金庫ノ帳簿ニハ其所屬支金庫ニ於テ收入シタル分
 フモ同一ノ口座ニ記入スルモノトス
 支金庫ニ於テ前月中ニ收入シタル分ノ報告翌月ニ至リ中
 央金庫ニ到達シタルトキト雖前月分ノ口座ニ記入スルモ
 ノトス
 「第二」
 支金庫ニ設置スヘキ本庫ノ口座ハ月別ヲ爲スニ及ハス
 又「支金庫報告」ノ欄及繰越ノ記入ヲ要セス

何 地 本 金 庫

1.

年月日	摘要	收支金種 各年月日	毎 月 出 納 計 算 年 月	収入額		毎 月 出 納 計 算 年 月		支出額		毎 月 出 納 計 算 年 月		収入支出 残差別額	
				圓	銭	圓	銭	圓	銭	圓	銭	圓	銭
何	何	何	何	0	0			0	0			0	0
何	「更正拂」	何	何	0	0			0	0			0	0
何	「更正納」	何	何			0	0			0	0		

2. 某廳主管 某廳 歳入徴收官官氏名 何年何月分									
年月日		摘要		支金庫報告		歳入		累計	
				支金庫名	年月日				
何	何			何	々	0	0	0	0
何	何			何	々	0	0	0	0
何	何		何月分合計			0			
何	何		前月ヨリ越			10,000,000		10,000,000	
			合計			10,000,000		10,000,000	

是レハ本月分合計へ前月ヨリ越ヲ加ヘタル金額ヲ記載スルモノトス

1. 某廳主管 某廳 歳入徴收官官氏名 何年何月分									
年月日		摘要		支金庫報告		歳入		累計	
				支金庫名	年月日				
何	何		「更正拂事由何々」	何	々	5,000,000	0	5,000,000	0
何	何			何	々	5,000,000	0	10,000,000	0
			何月分合計			10,000,000			
			「同更正拂合計」			0			
			何月何日翌月へ越			10,000,000			

是レハ次月ニ於テ前月ヨリ繰越ノ記入ヲ爲シタルトキニ記載スルモノトス

〔第十號書式〕

某年度歳出金各廳内譯簿

「備考」
 「支金庫ニ設置スヘキ本簿ニハ「支金庫報告年月日」ノ欄ヲ要
 セス第十一號及第十二號書式亦同シ」

中央金庫

年月日		摘要	支金庫報 告年月日	歳出			累計		
何	何			百	十	圓	百	十	圓
		〔定額戻入〕		8,000	00	0			
		〔更正納事由何々〕		1,000	00	0			
				0			2,000	00	0
		何月分合計		3,000	00	0			
		〔同定額戻入合計〕		1,000	00	0			
		〔同更正納合計〕		0					
		改合計		2,000	00	0			

某廳主管 仕拂命令官官氏名 中央金庫 1.

(第十一號書式)

某 年 度

旗出仕拂未濟繰越金各廳内譯簿

中 央 金 庫

2. 某廳主管 仕拂命令官官氏名 何地支金庫

年 月 日	摘 要	支金庫報 告年月日		繰 出		累 計	
		何	何	圓	銭	圓	銭
何	何	何	何	5,000	00.0	5,000	00.0
				0		5,000	00.0
	何月分合計			5,000	00.0		

2. 某年度 某廳主管 仕拂命令官官氏名 何地支金庫											
年月日		摘要		支金取扱 告年月日		受		拂		残	
何	何	何	何	圓	銭	圓	銭	圓	銭	圓	銭
				0		0				0	
			何月分合計	0		0					

1. 某年度 某廳主管 仕拂命令官官氏名 中央金庫											
年月日		摘要		支金取扱 告年月日		受		拂		残	
何	何	何	何	圓	銭	圓	銭	圓	銭	圓	銭
			「更正事務由何々」	0						0	
			「更正事務由何々」					0			0
			何月分合計 「同更正納拂合計」	0				0			
			改合計	0				0			

年月日		摘要	支金取込 借年月日	受		拂		残	
何	何 「」			円	銭	円	銭	円	銭
		「更正納事由何々」		19,000,000		7,000,000		12,000,000	
		何月分合計 「同更正納合計」		19,000,000		7,000,000			
		改合計		19,000,000		7,000,000			

「第十二號書式」

某 年 度

雜 部 金 内 譯 簿

中 央 金 庫

〔第十三號書式〕

某 年 度

現金種類別簿

中央金庫

「備考」
 第一 中央金庫及大阪本金庫ニ設置スル本帳簿ノ口座ハ「金貨」兌換券ニ補別「自銅貨」新銅貨「舊銅貨」ニ細別シ向其他ノ種類ニ必要アルトキハ其時々別ニ之ヲ定ムルトス
 第二 各地本金庫ニ設置スル本帳簿ノ口座ハ「金貨」兌換券「補助貨」トシ向其他ノ種類ニ必要アルトキハ其時々別ニ之ヲ定ムルトス
 第三 中央金庫及本金庫ノ帳簿トモ支金庫ノ口座ハ特ニ定ムル場合ノ外金種類ヲ区分セサルモノトス

2. 某廳出納官吏官氏名 何地支金庫

年月日	摘要	支金庫報告年月日		受	拂	残
		何	何	圓 銭 分	圓 銭 分	圓 銭 分
何	何	何	何	1,000,000		
					1,000,000	0
	何月分合計			1,000,000	1,000,000	

明治四十一年三月 訓令 大藏省第五號

2. 中央金庫 補助銀貨 (白銅貨)(新銅貨)(舊銅貨)									
年月日	摘要	支金庫報告年月日	受		拂		残		
			圓	分	圓	分	圓	分	
何	何		0		0		0		

四五

明治四十一年三月 訓令 大藏省第五號

1. 中央金庫 金貨 (兌換券)									
年月日	摘要	支金庫報告年月日	受		拂		残		
			圓	分	圓	分	圓	分	
何	何		0		0		0		

四四

「第十回號書式」

某 年 度

現金受拂簿

中央金庫(何地本金庫)所屬何地支金庫

「備考」
 「第一」 本帳現在高ノ金額類ハ特定ニ定ムル場合ニ限り式ノ如ク區分掲載スルモノトス
 「第二」 同金受入同金拂出ノ金額ハ中央金庫又ハ本金庫現金出納原簿上ノ該科目ニハ關係ナキモノトス

何地支金庫 3.

年月日	摘要	支金庫報告年月日		受		拂		残	
		何	何	圓	銭	圓	銭	圓	銭
何	何	何	何	0		0		0	

〔第十五號書式〕

某 年 度

現金受拂總括簿

中央金庫(何地本金庫)所屬何地支金庫

明治何年何月何日 1.

摘 要	受	摘 要	拂
某年度歳入	5,000,000.00	某年度歳出	5,000,000.00
雑 部		歳出仕拂未済繰越金	0
回金受入	1,000,000.00	雑 部	1,000,000.00
〔某年度歳出〕	0	回金拂出	0
〔定額戻入〕	0	〔某年度歳入〕	0
何	0	〔更正戻〕	0
		何	0
前日ヨリ越高		現在高内何々(金種類) 0.00	
	6,000,000.00		6,000,000.00
	0		0
	6,000,000.00		6,000,000.00

2. 某年度歳出 (回金拂出) (何々)					
年月日		摘要	受	拂	残
何	何		圓 銭 厘	圓 銭 厘	圓 銭 厘
		「定額戻入」	0	5,000.00.0	5,000.00.0
		何月分合計		5,000.00.0	
		「同定額戻入合計」		0	
		改合計		5,000.00.0	

1. 某年度歳入 (回金受入) (何々)					
年月日		摘要	受	拂	残
何	何		圓 銭 厘	圓 銭 厘	圓 銭 厘
		「更正拂」	5,000.00.0	0	5,000.00.0
		何月分合計	5,000.00.0		
		「同更正拂合計」	0		
		改合計	5,000.00.0		

「第二十一號書式甲」

第何號 明治何年何月何日收支金報告表

科 目	收入高		更正携 ^り		備 考
	圓	銭	圓	銭	
某年度歳入部々	0		0		<small>○何年何月何日全邊何何ニヨリ 移換 何金庫</small> 「備考」 「本表ハ中央金庫ニ於テ毎日記帳ヲ了セシ金額ヲ掲クルモノトス 以下同シ」
何	0		0		
	0		0		
	0		0		
中 央 金 庫 印					

3.

雜 部 (歳出仕拂未済繰越金) (何々)

年月日	摘 要	受		拂		繰	
		圓	銭	圓	銭	圓	銭
何 何		1,000	00				
				1,000	00		0
	何月分合計	1,000	00	1,000	00		

明治四十一年三月訓令 大藏省第五號

「第二十四號書式」

第何號 明治何年何月何日ヨリ何日マテ收支金報告表

受		科目	拂			備考
修正拂	収入		支出	定額戻入	修正拂	
圓	銭		圓	銭	圓	銭
0	0	某年度歳入				
0	0	某年度歳出	0	0	0	0
0	0	雑部	0	0	0	0
0	0	歳出仕拂未済繰越金	0	0	0	0
0	0	何々	0	0	0	0
0	0		0	0	0	0

内〇〇〇〇何年何月何日大蔵大臣令送附何號ニヨリ何々ヨリ移付ノ分

明治何年何月何日
何地本金庫印

五七

明治四十一年三月訓令 大藏省第五號

第何號 明治何年何月何日

收入高				金庫	
収入	同金受入	振替回送受入	修正拂		
圓	銭	圓	銭	圓	銭
0	0	0	0	中	央
0	0	0	0	地	本
0	0	0	0	金	庫
0	0	0	0	何	何
0	0	0	0		
0	0	0	0		
0	0	0	0		

中 央

五六

第何號				某年度歳入金		〔第二十六號書式〕
明治何年何月何日各廳内譯表						
摘要				金額		
主管廳	取扱廳	歳入徴收官	事由	圓	錢	厘
某廳	某廳	官氏名	〔更正係出何々〕	5,000	00	0
某廳	某廳	官氏名		0		
合計				5,000	00	0
〔更正係合計〕				0		
中央金庫(何地本金庫)所屬 何地支金庫印						

第何號				明治何年何月何日 現金受拂總括簿計算表		〔第二十五號書式〕	
受		金額		拂		金額	
		圓	錢			圓	錢
某年度歳入	部	5,000	00	0	某年度歳出	5,000	00
雜出仕拂未済繰越金	受	0			同金拂出	0	
同何	入	0			何々	0	
		0			各科目受拂差引殘額	0	
		0					
		5,000	00	0		5,000	00
中央金庫(何地本金庫)所屬 何地支金庫印							

〔備考〕
 本表拂ノ部(各科目受拂差引殘額)へハ受
 入各科目ノ合計額ヨリ抽出各科目ノ合計
 額ヲ差引タル殘額ヲ記載スルモノトス
 但本文ノ金額ハ現金受拂簿當日ノ現在高
 ニ吻合スヘキモノナリ

明治四十一年三月 訓令 大藏省第五號

歲出仕拂未濟繰越金支出 <small>〔第二十八號書式〕</small>				
第何號 明治何年何月何日各廳內譯表				
摘 要				金 額
年 度	主 管 廳	仕 拂 命 令 官	事 由	
某 年 度	某 廳	官 氏 名	〔更正納事由何々〕	0
某 年 度	某 廳	官 氏 名		0
合 計				0
〔更正納合計〕				0
中央金庫(何地本金庫)所屬 何地支金庫團				

六一

明治四十一年三月 訓令 大藏省第五號

某年度歲出金 <small>〔第二十七號書式〕</small>				
第何號 明治何年何月何日各廳內譯表				
摘 要				金 額
主 管 廳	仕 拂 命 令 官	事 由		
某 廳	官 氏 名	〔定額戻入〕 〔更正納事由何々〕		5,000 00 0
某 廳	官 氏 名			0
合 計				5,000 00 0
〔定額戻入合計〕				0
〔更正納合計〕				0
中央金庫(何地本金庫)所屬 何地支金庫團				

六〇

雜 部		第二十九號書式	
明治何年何月何日收支内譯表			
第何號		摘要	
出納官吏官氏名		事由	
		受 拂	
		圓	錢
某 廳 何 官 何 某	更正納事由何々 更正繰事由何々	1,000	000
某 廳 何 官 何 某		0	0
合 計		1,000	000
更正納拂合計		0	0
中央金庫(何地本金庫)所屬 何地支金庫印			

○大藏省訓令第六號

金庫出納役

明治二十六年九月大藏省訓令第三十二號預金保管物及供託物金庫出納事務規程中第四十八條及第四十九條ヲ左ノ通改正シ第十三號書式並ニ第十四號書式ヲ削除シ明治四十一年四月一日ヨリ施行ス

大藏大臣 松田正久

第四十八條 中央金庫ハ金庫出納事務規程ニ定メタル毎月出納計算書中受拂ノ部ヘ中央金庫及之ニ屬スル支金庫ニ於テ一箇月中ニ出納シタル預金、保管金、供託金及中央金庫ニ於テ一箇月中ニ出納シタル預金、保管金、供託金ノ區ヲ設ケ各其内譯額ヲ掲記スヘシ又内譯ノ部雜部ノ區ノ次ニ預金部預金ニ預金部供託金ノ區ヲ設ケ各其内譯額ヲ掲記スヘシ

中央金庫ハ金庫出納事務規程ニ定メタル毎月出納計算書ノ末尾ニ有價證券ノ部ナル部門ヲ設ケ中央金庫及之ニ屬スル支金庫ニ於テ一箇月中ニ出納シタル有價證券ノ受拂額ヲ掲記スヘシ

○大藏省訓令第七號

稅務監督局 稅務署

明治三十三年大藏省訓令第八號中左ノ通改正ス

大藏大臣 松田正久

明治四十一年三月十四日

第四條中「及事件ヲ稅務管理局長ニ報告スル場合」ヲ削ル第六條及第八條中「稅務管理局長」ヲ「稅務署長」ニ改ム

第六條但書ヲ左ノ通改ム

但シ沒收品ニ該當スル物品ニ付テハ特ニ場所ヲ指定シテ納付セシムル必要アル場合ヲ除クノ外
納付ノ申出ノミヲ爲スヘキ旨ヲ通告スルコトヲ要ス

〔参照〕

大藏省訓令第八號(明治三十三年三月二十四日)抄録

第四條 收税官吏證據ヲ他ノ稅務署ノ收税官吏ニ引繼ク場合及事件ヲ稅務管理局長ニ報告スル場合ニ於テハ所屬稅務署長
ヲ經由スルコトヲ要ス

第六條 稅務管理局長通告ヲ爲ス場合ニ於テハ成ルヘク犯罪者ノ住所又ハ居所地所轄ノ稅務署ヲ指定シテ金錢物品ノ納
付所ト爲スコトヲ要ス但シ沒收スヘキ物品ニシテ市町村又ハ所有者ノ保管ニ係ルトキハ其ノ物品ニ關シテハ特ニ其ノ所
在ノ場所ヲ指定スルコトヲ妨ケス

第八條第一項

稅務管理局長犯罪事件ヲ調査シ犯罪ノ心證ヲ得サルトキハ速ニ其ノ旨ヲ犯罪嫌疑者ニ通知シ且ツ差押物件ノ解除ヲ當該
官吏ニ命スルコトヲ要ス

○大藏省訓令第八號

稅關 稅務監督局 稅務署

石油消費稅ニ關スル臺帳、檢査簿、查定簿及現況報告書ハ織物消費稅ノ様式ニ準據シテ之ヲ調製シ
整理ヲ爲スヘシ但シ現況報告ハ石油製造、仲買及小賣戶數ニ關スル報告ノ外ハ總テ其ノ前月分ヲ
翌月二十日迄ニ報告スヘシ

明治四十一年三月十七日

大藏大臣 松田正久

○大藏省訓令第九號

金庫出納役

金庫出納事務規程及各特別會計金庫出納事務規程ニ據リ大藏省へ提出スヘキ各金庫每月出納計算
書ノ様式左ノ通定ム
本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十一年三月十七日

大藏大臣 松田正久

(一)内ハ朱書

中央金庫(何地本金庫)

明治何年何月

出 納 計 算 書